

---

# 文京区障害者(児)実態・意向調査報告書

## 概要版

---

令和8年3月



文京区





# 目次

◆ 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査の対象と調査方法	2
◆ 量的調査(アンケート調査)	2
1. 調査の種類	2
2. 調査方法	3
3. 調査期間	3
4. 回収結果	3
5. 概要版の見方	3
○ 在宅の方を対象にした調査	4
○ 18歳未満の方を対象にした調査	46
○ 施設に入所している方を対象にした調査	69
○ サービス事業所の方を対象にした調査	78
○ 長期入院施設を対象にした調査	87
◆ 質的調査(インタビュー調査)	90

## ◆ 調査の概要

### 1. 調査の目的

文京区では障害者及び障害児がいきいきと自分らしく、健康で自立した生活を営めるよう、「文の京<sup>ふみ みやこ</sup>ハートフルプラン 文京区地域福祉保健計画 障害者・児計画」に基づき、様々な障害福祉施策を推進しています。

令和8年度に次期障害者・児計画（令和9年度～令和11年度）を改定するに当たり、その基礎資料を得るとともに、障害者・児の方々の日常生活の実態、サービスの利用状況や希望等を把握するため、実態・意向調査を実施しました。また、区内の障害福祉サービス事業所等を対象に、事業所の概要や福祉人材の現状を把握するとともに、都内・都外の医療機関における区民の長期入院患者の状況を把握することで、今後の障害福祉サービス等の基盤整備に資するための基礎資料とします。

### 2. 調査の対象と調査方法

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、18歳未満の方、区内障害福祉サービス等事業所及び都内・都外長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）並びに区内施設等を利用する知的障害者及び精神障害者を対象とした質的調査（インタビュー調査）の2種類を実施しました。

## ◆ 量的調査(アンケート調査)

### 1. 調査の種類

調査の種類	対象者
在宅の方	文京区内に居住し、以下に該当する18歳以上の方 ・身体障害者手帳をお持ちの方 (肢体不自由、内部障害については無作為抽出、その他の障害については全数) ・愛の手帳をお持ちの方（全数） ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方（全数） ・難病医療券をお持ちの方（全数）
18歳未満の方	文京区内に居住し、以下に該当する18歳未満の方 ・身体障害者手帳をお持ちの方 ・愛の手帳をお持ちの方 ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方 ・難病医療券をお持ちの方 ・障害児通所支援受給者証をお持ちの方
施設に入所している方	・身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちで、文京区が支給決定した施設入所支援及び療養介護のサービスをご利用中の18歳以上の方
サービス事業所の方	・区民が利用している指定障害福祉サービス等事業所
長期入院施設	・区民が利用している精神科長期入院施設(医療機関)

## 2. 調査方法

調査票を郵送配付し、郵送又はインターネットにより回収する方式で実施しました。

## 3. 調査期間

令和7年10月1日～10月31日

## 4. 回収結果

種類	配付数	回収数	有効回答数		有効回答率	
				内インターネット		内インターネット
在宅の方	5,850	2,504	2,493	883	42.6%	15.1%
18歳未満の方	1,084	471	465	287	42.9%	26.5%
施設に入所している方	139	82	82	16	59.0%	11.5%
サービス事業所	106	83	83	48	78.3%	45.3%
長期入院施設	167	149	149	8	89.2%	4.8%
合計	7,346	3,289	3,272	1,242	44.5%	16.9%

※ インターネットによる有効回答率は、配付数におけるインターネット回答の割合です。

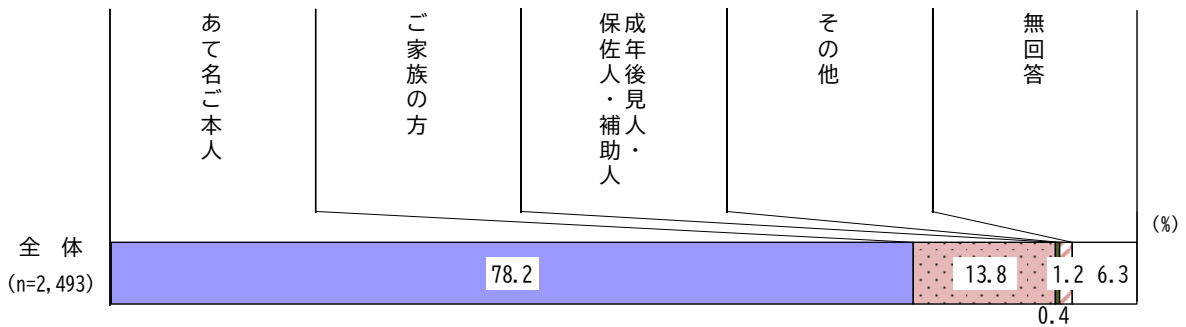
## 5. 概要版の見方

- ・各設問の回答者の総数はn(Number of case)と表記しています。
- ・集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。このため、単数回答であっても、合計値が100%にならない場合もあります。
- ・回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- ・クロス集計表において、その表頭の設問中、「その他」、「特になし」等、「無回答」を除く最も高い割合に網掛けをしています。また、表側の回答者の総数(n)が10未満の場合、1つの回答による割合の変動が大きいため、原則コメントをしていません。
- ・「長期入院施設」の調査については、167か所の病院に対して、調査票を配付し、41か所の病院から回答がありました。分析では、長期入院患者がいない病院を除き、54人の長期入院患者の情報を集計しています。

## ○ 在宅の方を対象にした調査

### (1) 対象者特性

#### (1-1)回答者(問1)



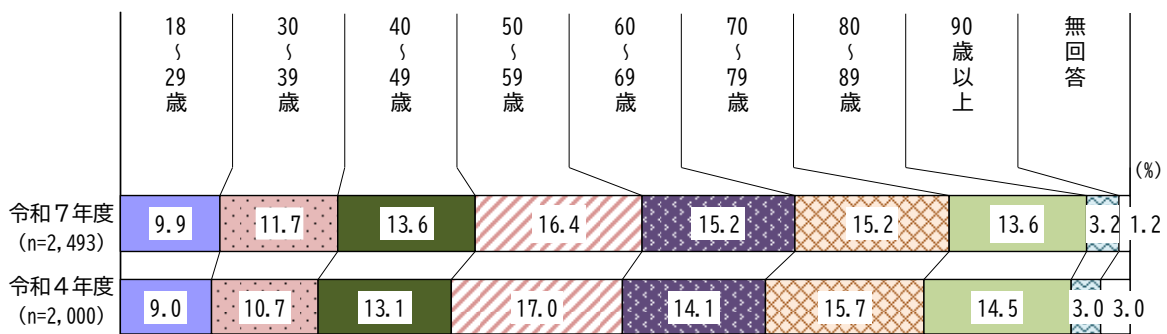
調査の回答者は、「あて名ご本人」が78.2%と7割半ばを超えており、「ご家族の方」は13.8%となっています。

#### 【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	あて名ご本人	ご家族の方	成年後見人・保佐人・補助人	その他	無回答
全体	2,493	78.2	13.8	0.4	1.2	6.3
肢体不自由	320	61.6	25.0	0.9	0.9	11.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	54.0	36.8	1.1	1.1	6.9
視覚障害	163	67.5	21.5	0.6	0.6	9.8
聴覚・平衡機能障害	153	82.4	13.1	0.0	0.0	4.6
内部障害	324	82.1	10.5	0.3	0.0	7.1
知的障害	256	32.8	49.2	1.6	9.4	7.0
発達障害	263	75.7	18.6	0.0	0.8	4.9
精神障害	626	87.7	6.7	0.5	0.3	4.8
高次脳機能障害	40	60.0	30.0	5.0	0.0	5.0
難病(特定疾病)	817	86.4	8.8	0.1	0.1	4.5
その他	42	76.2	19.0	0.0	2.4	2.4

障害別にみると、“知的障害”を除くいずれの障害も「あて名ご本人」が最も高くなっています。“知的障害”では「ご家族の方」が49.2%と5割近くを占め、他の障害より高くなっています。

## (1-2)年齢(問2)



障害者本人の年齢は、「50～59歳」が16.4%と最も高く、次いで「60～69歳」と「70～79歳」がともに15.2%、「40～49歳」と「80～89歳」がともに13.6%、「30～39歳」が11.7%と続いています。令和4年度と比較すると、全体的な傾向については大きな変化はありません。

### 【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	無回答
全体	2,493	9.9	11.7	13.6	<b>16.4</b>	15.2	15.2	13.6	3.2	1.2
障害別										
肢体不自由	320	4.7	4.4	8.4	10.0	16.9	22.5	<b>26.6</b>	4.4	2.2
音声・言語・そしゃく機能障害	87	11.5	4.6	4.6	13.8	11.5	<b>25.3</b>	<b>25.3</b>	3.4	0.0
視覚障害	163	6.1	3.7	10.4	17.8	8.0	20.9	<b>24.5</b>	8.0	0.6
聴覚・平衡機能障害	153	5.2	2.6	10.5	3.9	9.2	17.0	<b>34.6</b>	16.3	0.7
内部障害	324	2.2	3.7	7.7	13.3	15.1	<b>25.6</b>	25.3	5.2	1.9
知的障害	256	<b>37.5</b>	24.2	14.8	12.1	8.2	0.4	1.2	0.0	1.6
発達障害	263	<b>35.7</b>	31.2	12.9	11.0	4.9	1.5	2.7	0.0	0.0
精神障害	626	11.3	18.5	22.0	<b>25.7</b>	15.8	3.8	1.1	0.5	1.1
高次脳機能障害	40	5.0	7.5	20.0	<b>25.0</b>	17.5	15.0	7.5	0.0	2.5
難病(特定疾病)	817	5.4	8.1	14.9	17.6	19.5	<b>19.7</b>	12.6	1.7	0.5
その他	42	9.5	7.1	4.8	23.8	14.3	4.8	<b>33.3</b>	2.4	0.0

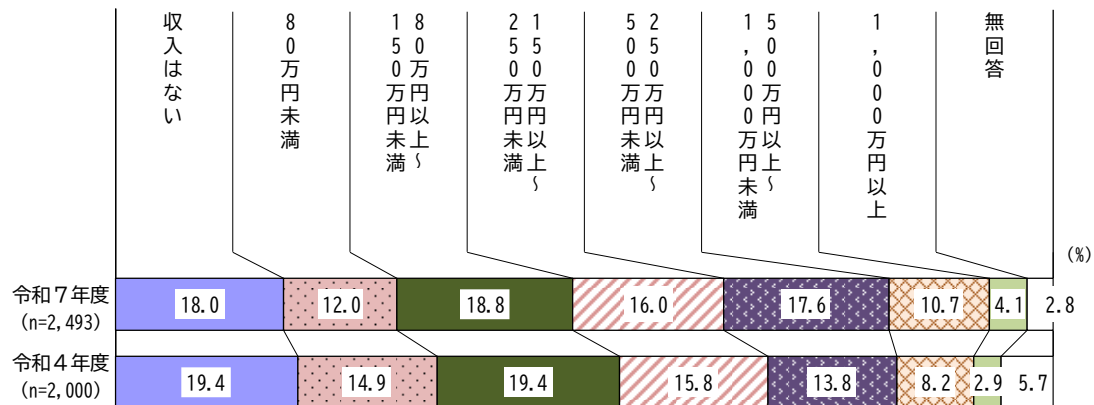
障害別にみると、“知的障害”と“発達障害”では「18～29歳」の若年層が3割半ばを超えて最も高くなっています。

“精神障害”と“高次脳機能障害”では「50～59歳」が2割半ばで最も高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”、“内部障害”、“難病(特定疾病)”では「70～79歳」が最も高くなっています。

それ以外の障害では「80～89歳」の年齢で最も高くなっています。

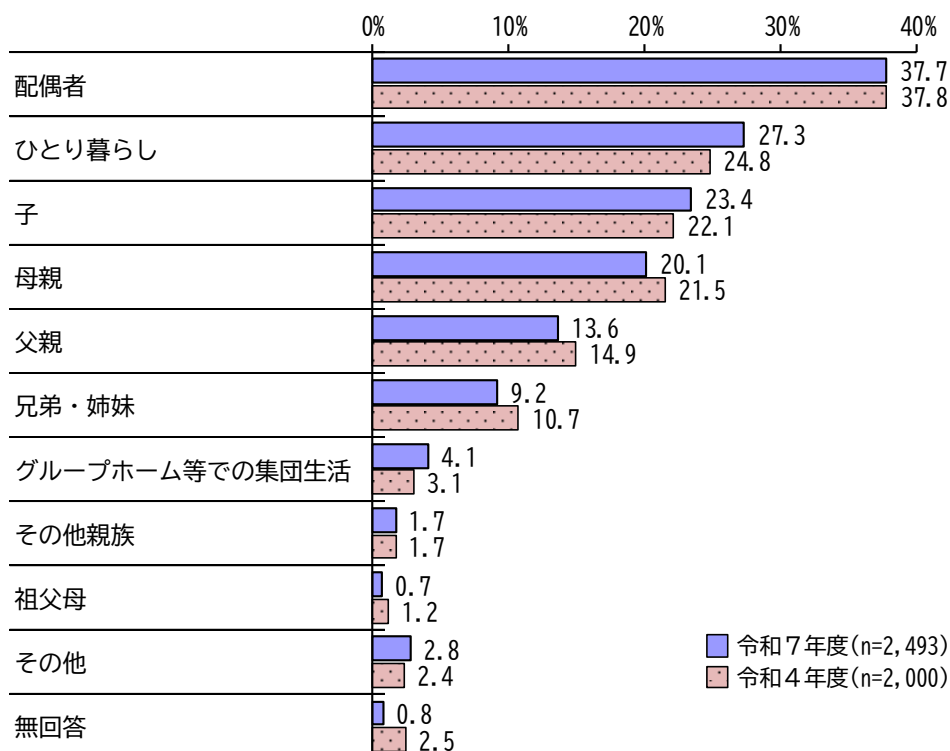
### (1-3)年収(問3)



障害者本人の年収は、「80万円以上～150万円未満」が18.8%と最も高く、次いで「収入はない」が18.0%、「250万円以上～500万円未満」が17.6%、「150万円以上～250万円未満」が16.0%と1割半ばを超えています。

令和4年度と比較すると、150万円未満の項目はいずれも下がっており、150万円以上の項目はいずれも上がっています。

### (1-4)同居家族(問5)



同居している家族は、「配偶者」が37.7%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「ひとり暮らし」が27.3%、「子」が23.4%、「母親」が20.1%と2割台が続いています。

令和4年度と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありません。

【クロス集計】年代別・障害別

(単位:%)		n	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母
全体		2,493	13.6	20.1	<b>37.7</b>	23.4	9.2	0.7
年代別	18歳以上40歳未満	538	41.1	<b>51.9</b>	15.8	11.0	25.8	2.6
	40歳以上65歳未満	956	11.5	21.4	<b>37.3</b>	25.7	6.3	0.4
	65歳以上75歳未満	336	1.2	3.6	<b>53.9</b>	21.4	4.8	0.0
	75歳以上	633	0.0	0.0	<b>49.4</b>	32.1	1.4	0.0
障害別	肢体不自由	320	10.9	15.3	<b>41.9</b>	29.1	5.0	0.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	23.0	<b>47.1</b>	25.3	10.3	0.0
	視覚障害	163	8.0	11.7	<b>35.6</b>	21.5	6.7	1.2
	聴覚・平衡機能障害	153	4.6	7.8	<b>43.8</b>	28.1	4.6	0.0
	内部障害	324	4.0	7.7	<b>50.6</b>	29.9	2.8	0.3
	知的障害	256	59.4	<b>75.4</b>	1.2	0.0	34.8	2.0
	発達障害	263	35.0	<b>46.4</b>	14.1	8.4	22.8	1.9
	精神障害	626	17.6	<b>28.0</b>	21.6	15.7	11.3	1.6
	高次脳機能障害	40	12.5	20.0	<b>50.0</b>	30.0	5.0	0.0
	難病（特定疾病）	817	5.0	8.0	<b>54.2</b>	32.2	4.0	0.1
	その他	42	7.1	<b>21.4</b>	19.0	<b>21.4</b>	4.8	0.0

(単位:%)		n	その他親族	ひとり暮らし	グループホーム等での集団生活	その他	無回答
全体		2,493	1.7	27.3	4.1	2.8	0.8
年代別	18歳以上40歳未満	538	1.5	21.4	4.3	3.0	0.0
	40歳以上65歳未満	956	1.3	30.8	4.1	1.7	0.4
	65歳以上75歳未満	336	1.8	30.1	2.7	2.7	0.0
	75歳以上	633	2.7	26.1	4.7	4.4	0.6
障害別	肢体不自由	320	1.9	21.9	5.3	4.4	0.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	4.6	14.9	5.7	4.6	0.0
	視覚障害	163	1.2	39.3	3.7	2.5	1.2
	聴覚・平衡機能障害	153	2.0	27.5	2.6	5.2	0.7
	内部障害	324	2.5	25.0	1.5	3.4	1.5
	知的障害	256	1.6	4.3	21.1	0.8	0.4
	発達障害	263	1.9	27.4	3.0	2.3	0.0
	精神障害	626	1.3	35.9	3.5	2.6	0.6
	高次脳機能障害	40	0.0	17.5	5.0	2.5	0.0
	難病（特定疾病）	817	1.5	26.9	1.1	2.4	0.5
	その他	42	2.4	31.0	9.5	2.4	0.0

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”では「母親」が51.9%と5割を超えて最も高く、「父親」(41.1%)、「兄弟姉妹」(25.8%)といった近親者も、他の年代より高くなっています。

それ以外の年代ではいずれも「配偶者」が最も高く、「ひとり暮らし」や「子」も2割を超えて高くなっています。

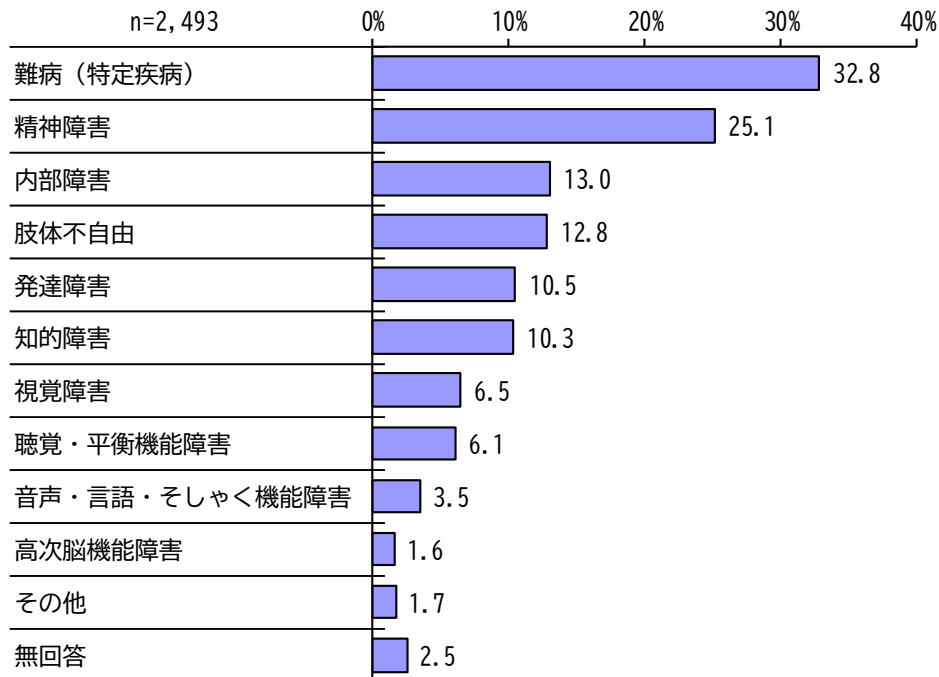
障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”、“その他”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”では7割半ばに達し、他の障害より高くなっています。“知的障害”と“発達障害”では「父親」や「兄弟・姉妹」といった近親者も他の障害より高くなっています。

それ以外の障害では「配偶者」が最も高くなっています。

また、“知的障害”は他の障害に比べ「グループホーム等での集団生活」が2割を超えて高く、反対に「ひとり暮らし」は4.3%と低くなっています。

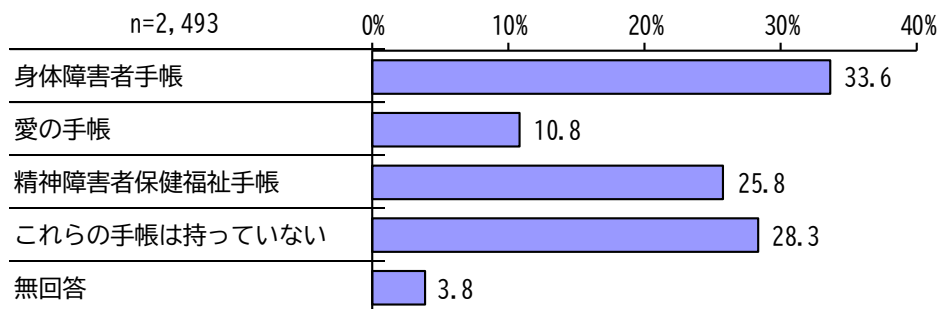
## (2) 障害と健康について

### (2-1) 障害の種類(問6)



障害の種類は、「難病(特定疾病)」が32.8%と3割を超えて最も高く、次いで「精神障害」が25.1%、「内部障害」が13.0%、「肢体不自由」が12.8%、「発達障害」が10.5%と続いています。

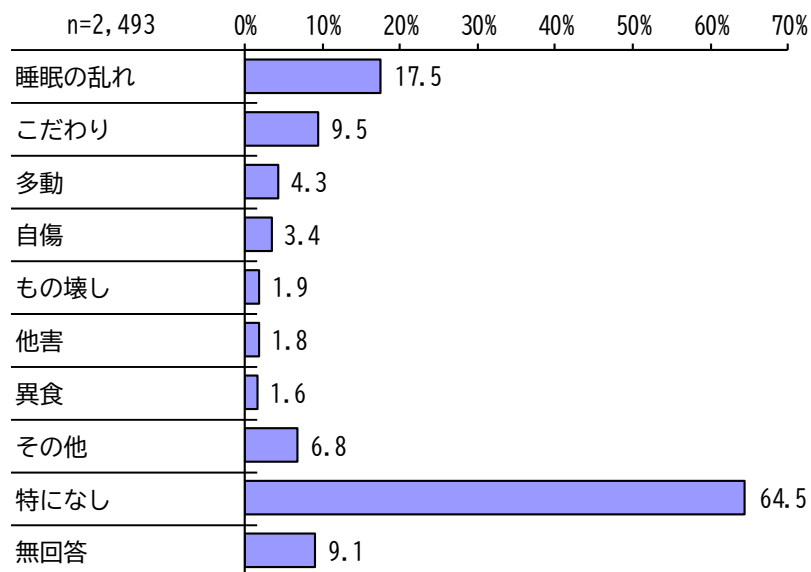
### (2-2) 手帳の所持状況(問7)



手帳の所持状況は、「身体障害者手帳」が33.6%と3割を超えて最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が25.8%、「愛の手帳」が10.8%と続いています。

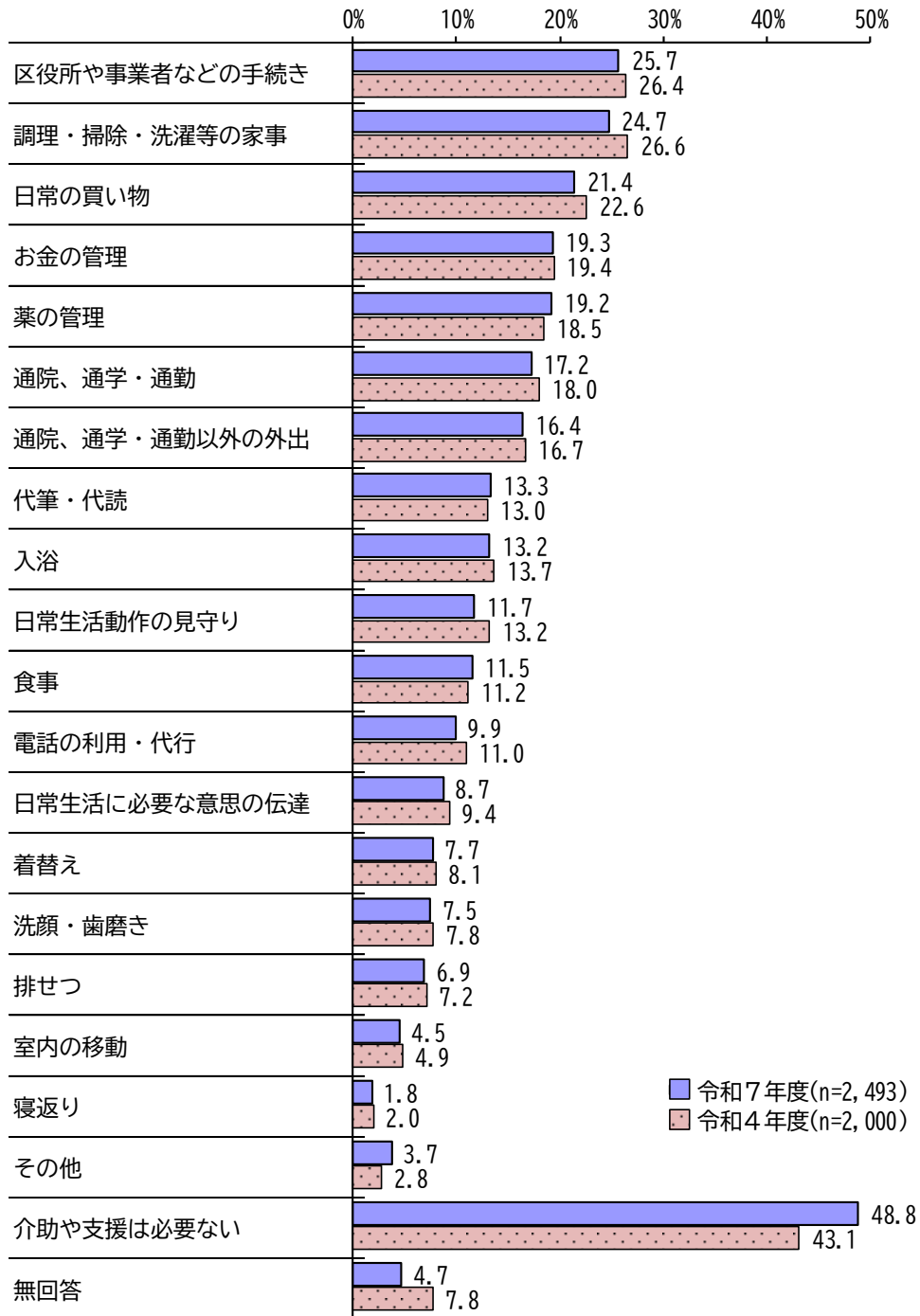
一方、「これらの手帳は持っていない」は28.3%と3割半ばを超えています。

### (2-3)日常生活で必要な特別な配慮(問12)



日常生活の中で特別な支援や配慮を必要とする行動面に関する課題について、「睡眠の乱れ」が17.5%と1割半ばを超えて最も高く、次いで「こだわり」が9.5%、「多動」が4.3%と続いています。一方、「特になし」は64.5%と6割半ばを占めています。

(2-4)日常生活に必要な介助や支援(問13)



日常生活に必要な介助や支援は、「区役所や事業者などの手続き」が25.7%と最も高く、次いで「調理・掃除・洗濯等の家事」が24.7%、「日常の買い物」が21.4%と2割台が続いています。

一方、「介助や支援は必要ない」は48.8%と4割半ばを超えています。

令和4年度と比較すると、全体的な傾向について大きな変化はありませんが、「介助や支援は必要ない」が5.7ポイント上がっており、介助や支援は全体的に微減傾向となっています。

【クロス集計】障害別

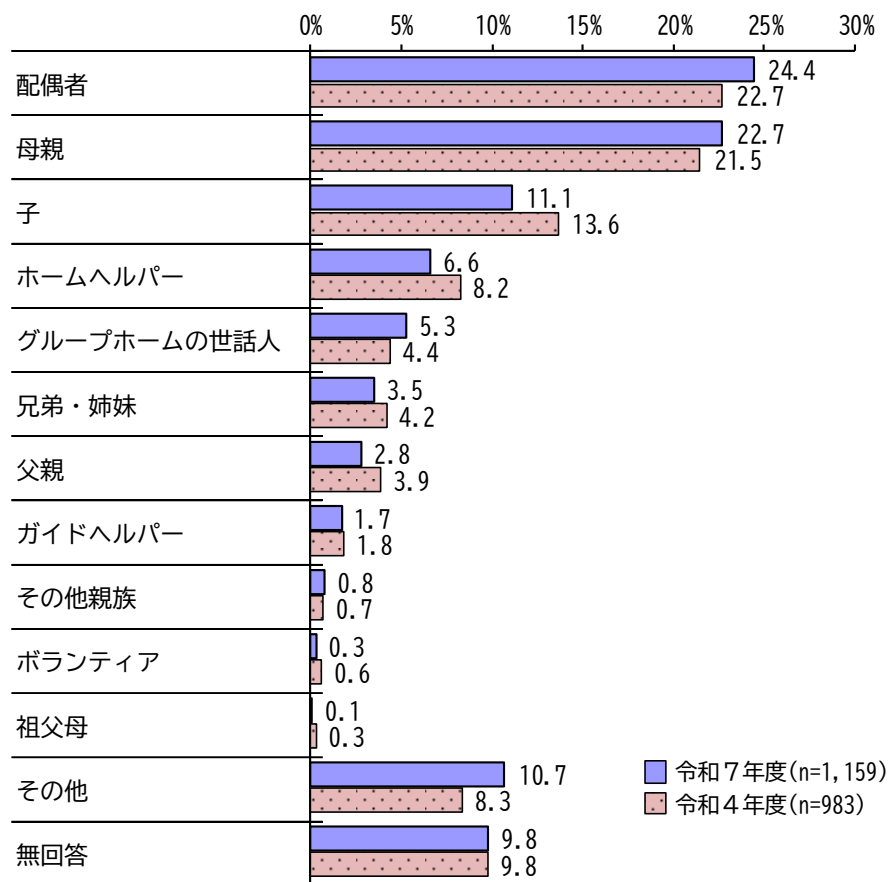
(単位:%)	n	食事	排せつ	入浴	寝返り	着替え	調理・掃除・洗濯等の家事	室内の移動
全体	2,493	11.5	6.9	13.2	1.8	7.7	24.7	4.5
障害別								
肢体不自由	320	26.9	23.4	35.9	9.4	26.9	<b>41.3</b>	18.1
音声・言語・そしゃく機能障害	87	33.3	32.2	46.0	13.8	39.1	50.6	28.7
視覚障害	163	16.6	8.6	16.6	1.8	8.6	33.1	7.4
聴覚・平衡機能障害	153	7.8	2.6	11.8	1.3	5.2	17.0	3.3
内部障害	324	8.3	5.9	11.4	1.2	6.8	<b>17.0</b>	4.9
知的障害	256	32.0	23.0	35.5	1.6	21.9	63.3	6.3
発達障害	263	15.6	7.2	14.8	1.5	8.4	39.2	1.5
精神障害	626	10.9	3.4	8.0	0.6	3.8	<b>29.1</b>	1.8
高次脳機能障害	40	32.5	20.0	32.5	7.5	27.5	55.0	22.5
難病（特定疾病）	817	8.6	5.6	10.6	1.7	6.7	15.7	5.8
問12に該当する方	658	21.9	12.6	22.5	2.1	12.3	<b>44.2</b>	6.5
その他	42	14.3	11.9	19.0	4.8	14.3	35.7	7.1

(単位:%)	n	洗顔・歯磨き	代筆・代読	電話の利用・代行	お金の管理	日常の買い物	通院、通学・通勤	通院、通学・通勤以外の外出
全体	2,493	7.5	13.3	9.9	19.3	21.4	17.2	16.4
障害別								
肢体不自由	320	20.0	25.0	16.6	25.6	36.3	31.3	31.9
音声・言語・そしゃく機能障害	87	32.2	43.7	43.7	42.5	48.3	41.4	43.7
視覚障害	163	6.1	<b>47.9</b>	16.6	22.7	42.9	38.0	33.7
聴覚・平衡機能障害	153	2.0	15.0	19.0	11.1	20.3	20.9	12.4
内部障害	324	4.9	5.6	5.6	8.3	16.7	14.8	11.7
知的障害	256	32.4	52.0	41.4	<b>73.8</b>	56.6	47.3	54.7
発達障害	263	12.2	16.0	15.2	<b>41.4</b>	28.5	23.6	20.2
精神障害	626	5.3	6.1	5.6	21.4	17.4	11.8	12.3
高次脳機能障害	40	15.0	47.5	30.0	52.5	37.5	37.5	30.0
難病（特定疾病）	817	5.3	7.3	5.1	9.2	<b>16.2</b>	11.9	10.0
問12に該当する方	658	15.8	20.7	18.2	39.1	35.1	26.7	27.5
その他	42	14.3	21.4	19.0	31.0	33.3	28.6	21.4

(単位:%)	n	日常生活に必要な意思の伝達	日常生活動作の見守り	薬の管理	区役所や事業者などの手続き	その他	介助や支援は必要ない	無回答
全体	2,493	8.7	11.7	19.2	<b>25.7</b>	3.7	48.8	4.7
障害別								
肢体不自由	320	12.5	20.9	30.6	38.8	4.1	32.5	3.1
音声・言語・そしゃく機能障害	87	32.2	33.3	43.7	<b>55.2</b>	3.4	16.1	3.4
視覚障害	163	4.9	13.5	19.6	46.0	3.7	27.6	3.7
聴覚・平衡機能障害	153	9.2	11.1	13.1	<b>28.1</b>	6.5	42.5	6.5
内部障害	324	5.9	7.7	12.7	16.7	2.5	62.3	5.9
知的障害	256	43.8	43.4	56.3	73.0	2.7	10.9	3.1
発達障害	263	23.6	20.2	31.9	37.6	5.7	30.4	5.3
精神障害	626	7.3	10.9	20.8	24.4	5.8	37.4	5.0
高次脳機能障害	40	22.5	37.5	47.5	<b>62.5</b>	5.0	17.5	2.5
難病（特定疾病）	817	3.2	6.6	11.1	14.7	1.7	70.3	2.1
問12に該当する方	658	21.4	25.4	38.1	43.2	7.6	21.9	3.6
その他	42	28.6	26.2	31.0	<b>38.1</b>	9.5	28.6	7.1

障害別では、「介助や支援は必要ない」を除くと、「肢体不自由」、「内部障害」、「精神障害」、「問 12 に該当する方」では「調理・掃除・洗濯等の家事」、「視覚障害」では「代読・代筆」、「知的障害」と「発達障害」では「お金の管理」、「難病（特定疾病）」では「日常の買い物」が最も高く、それ以外の障害ではいずれも「区役所や事業者などの手続き」が最も高くなっています。

(2-5)主な介助者・支援者(問 14)



主な介助者・支援者は、「配偶者」が24.4%と2割半ば近くで最も高く、次いで「母親」が22.7%、「子」が11.1%と続いています。

令和4年度と比較すると、全体的に傾向に大きな変化はありませんが、「子」が2.5ポイント下がっています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	父親	母親	配偶者	子	兄弟・姉妹	祖父母	その他親族
(単位:%)								
全体	1,159	2.8	22.7	<b>24.4</b>	11.1	3.5	0.1	0.8
年代別	18歳以上40歳未満	294	7.1	<b>58.2</b>	5.1	0.3	1.7	0.3
	40歳以上65歳未満	373	3.2	<b>23.1</b>	22.8	3.2	4.8	0.0
	65歳以上75歳未満	128	0.0	0.0	<b>43.8</b>	5.5	8.6	0.0
	75歳以上	348	0.0	0.0	<b>35.1</b>	31.0	2.0	0.0
	障害別	肢体不自由	206	1.9	16.0	<b>34.0</b>	14.6	1.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	70	1.4	18.6	<b>38.6</b>	14.3	2.9	0.0
	視覚障害	112	0.9	10.7	<b>28.6</b>	12.5	1.8	0.0
	聴覚・平衡機能障害	78	0.0	3.8	<b>33.3</b>	21.8	2.6	0.0
	内部障害	103	0.0	7.8	<b>31.1</b>	20.4	3.9	0.0
	知的障害	220	6.8	<b>60.0</b>	0.5	0.5	3.2	0.0
	発達障害	169	4.7	<b>48.5</b>	8.9	2.4	1.8	0.0
	精神障害	361	3.3	<b>26.0</b>	19.1	5.3	4.2	0.3
	高次脳機能障害	32	3.1	18.8	<b>43.8</b>	3.1	3.1	0.0
	難病（特定疾病）	226	0.4	5.8	<b>39.8</b>	18.1	4.4	0.0
	問12に該当する方	490	3.3	<b>31.8</b>	16.7	4.7	3.3	0.0
	その他	27	0.0	<b>22.2</b>	11.1	14.8	7.4	0.0

	n	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	ボランティア	グループホームの世話人	その他	無回答	
(単位:%)								
全体	1,159	6.6	1.7	0.3	5.3	10.7	9.8	
年代別	18歳以上40歳未満	294	1.4	1.4	0.0	5.4	9.9	8.5
	40歳以上65歳未満	373	7.8	2.7	0.3	5.9	13.9	11.5
	65歳以上75歳未満	128	10.2	0.0	1.6	5.5	10.2	14.1
	75歳以上	348	8.3	1.7	0.3	4.3	8.6	7.8
	障害別	肢体不自由	206	9.7	0.0	0.0	5.3	8.7
音声・言語・そしゃく機能障害		70	2.9	0.0	0.0	2.9	4.3	12.9
視覚障害		112	8.0	14.3	0.0	1.8	6.3	12.5
聴覚・平衡機能障害		78	5.1	1.3	1.3	2.6	10.3	17.9
内部障害		103	8.7	1.0	0.0	3.9	15.5	7.8
知的障害		220	0.5	0.5	0.0	15.0	2.3	10.5
発達障害		169	2.4	0.6	0.0	3.6	13.6	12.4
精神障害		361	8.3	0.6	0.0	3.6	18.3	10.0
高次脳機能障害		32	3.1	0.0	0.0	3.1	9.4	12.5
難病（特定疾病）		226	8.0	0.9	0.9	1.8	12.8	6.2
問12に該当する方		490	5.3	1.2	0.0	6.9	14.7	10.8
その他		27	3.7	0.0	3.7	7.4	18.5	11.1

年代別にみると、“18歳以上～40歳未満”と“40～65歳未満”では「母親」が最も高く、特に“18歳以上～40歳未満”では「母親」が5割半ばを超えています。

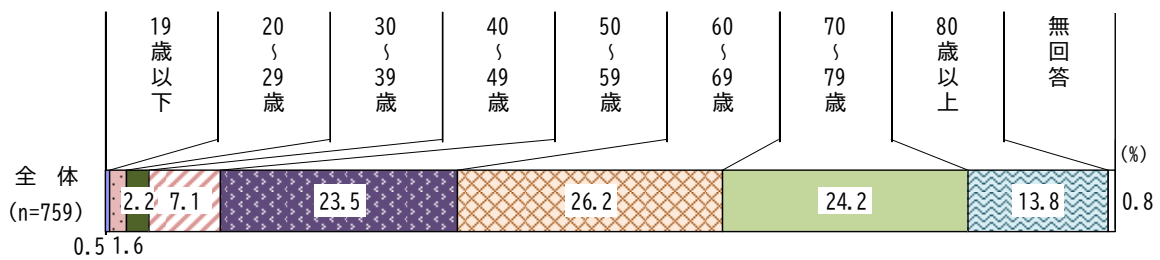
“65歳以上～75歳未満”と“75歳以上”では「配偶者」が最も高く、特に“65歳以上～75歳未満”で4割を超えています。

また、“75歳以上”では「子」も3割を超えて高くなっています。

障害別にみると、“知的障害”、“発達障害”、“精神障害”、“問12に該当する方”では「母親」が最も高く、特に“知的障害”では6割を占め、“発達障害”では4割半ばを超えています。

それ以外の障害では「配偶者」が最も高く、特に“高次脳機能障害”では4割を超えています。また、“聴覚・平衡機能障害”と“内部障害”では「子」が2割を超えて、他の障害より高くなっています。

(2-6)主な介助者・支援者の年代(問 14-1)



主な介助者・支援者の年代は、「60～69歳」が26.2%と最も高く、次いで「70～79歳」が24.2%、「50～59歳」が23.5%と2割を超えて続いています。また、60歳以上の占める割合は64.2%と6割半ば近くを占めています。

【クロス集計】介助者別・障害別

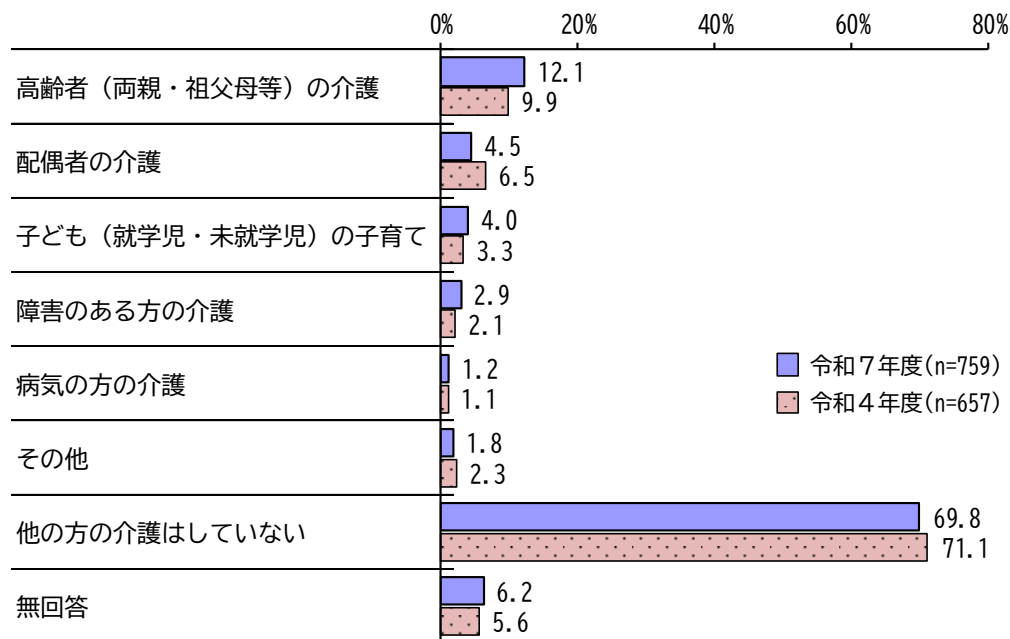
(単位:%)	n	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	無回答
全体	759	0.5	1.6	2.2	7.1	23.5	<b>26.2</b>	24.2	13.8	0.8
介助者別										
父親	33	0.0	0.0	0.0	0.0	21.2	18.2	<b>33.3</b>	27.3	0.0
母親	263	0.0	0.4	0.0	3.0	22.8	<b>36.9</b>	24.3	11.8	0.8
配偶者	283	0.0	1.1	4.2	7.8	14.1	18.7	<b>31.8</b>	21.9	0.4
子	129	3.1	5.4	0.8	15.5	<b>45.7</b>	25.6	2.3	0.0	1.6
兄弟・姉妹	41	0.0	2.4	7.3	7.3	24.4	24.4	<b>26.8</b>	7.3	0.0
祖父母	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0
その他親族	9	0.0	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0	<b>44.4</b>	0.0	11.1
障害別										
肢体不自由	142	0.0	1.4	0.0	7.7	<b>26.8</b>	21.1	<b>26.8</b>	14.8	1.4
音声・言語・そしゃく機能障害	54	0.0	1.9	0.0	13.0	24.1	20.4	<b>27.8</b>	13.0	0.0
視覚障害	64	0.0	1.6	1.6	6.3	20.3	25.0	<b>35.9</b>	9.4	0.0
聴覚・平衡機能障害	48	0.0	2.1	0.0	4.2	14.6	<b>31.3</b>	16.7	<b>31.3</b>	0.0
内部障害	65	0.0	1.5	1.5	4.6	<b>29.2</b>	20.0	24.6	18.5	0.0
知的障害	157	0.0	0.6	0.6	3.8	28.0	<b>38.2</b>	20.4	7.6	0.6
発達障害	114	1.8	2.6	3.5	7.0	26.3	<b>42.1</b>	11.4	4.4	0.9
精神障害	214	1.9	3.3	5.1	9.8	<b>24.3</b>	<b>24.3</b>	21.0	9.3	0.9
高次脳機能障害	23	0.0	0.0	0.0	17.4	8.7	26.1	<b>39.1</b>	8.7	0.0
難病(特定疾病)	157	0.0	1.3	1.3	9.6	21.7	21.0	<b>24.2</b>	19.7	1.3
その他	15	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	<b>40.0</b>	13.3	26.7	0.0

介助者別にみると、いずれの介助者も50歳以上の年代が最も高くなっており、“子”では「50～59歳」が、“母親”では「60～69歳」が最も高く、“それ以外の介助者では「70～79歳」が最も高くなっています。

また、“兄弟・姉妹”は「50～59歳」と「60～69歳」、「子」は「60～69歳」が2割半ば前後と高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「60～69歳」が2割以上となっており、特に“発達障害”では4割を超えています。また“視覚障害”と“高次脳機能障害”は「70～79歳」で3割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

(2-7)主な介助者による介助状況(問 15)

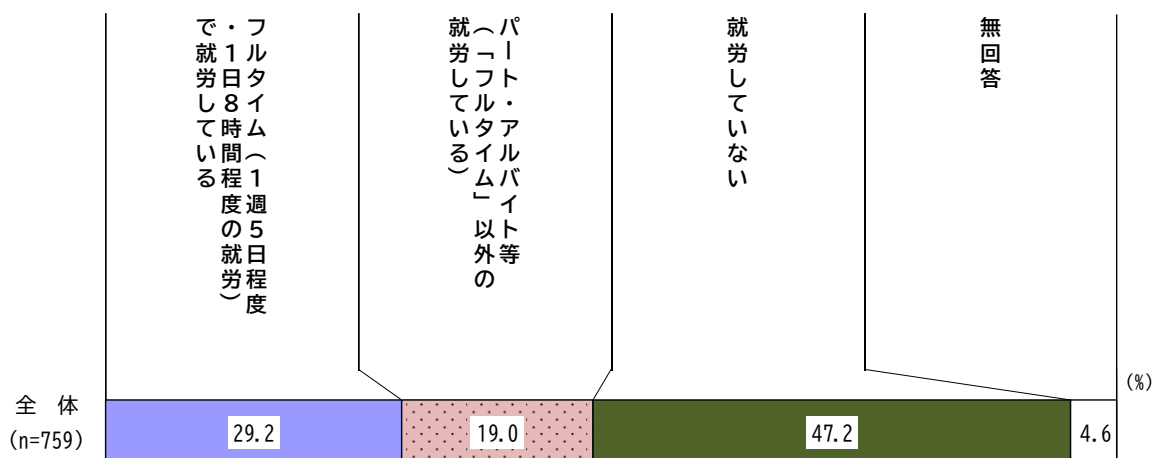


主な介助者のその他の介護状況は、「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が12.1%と1割を超えて最も高く、次いで「配偶者の介護」が4.5%、「子ども（就学児・未就学児）の子育て」が4.0%と続いています。

一方、「他の方の介護はしていない」が69.8%と7割を占めています。

令和4年度と比較すると、介護状況の傾向にあまり変化はありませんが、「高齢者（両親・祖父母等）の介護」が2.2ポイント上がっており、反対に「配偶者の介護」が2.0ポイント下がっています。

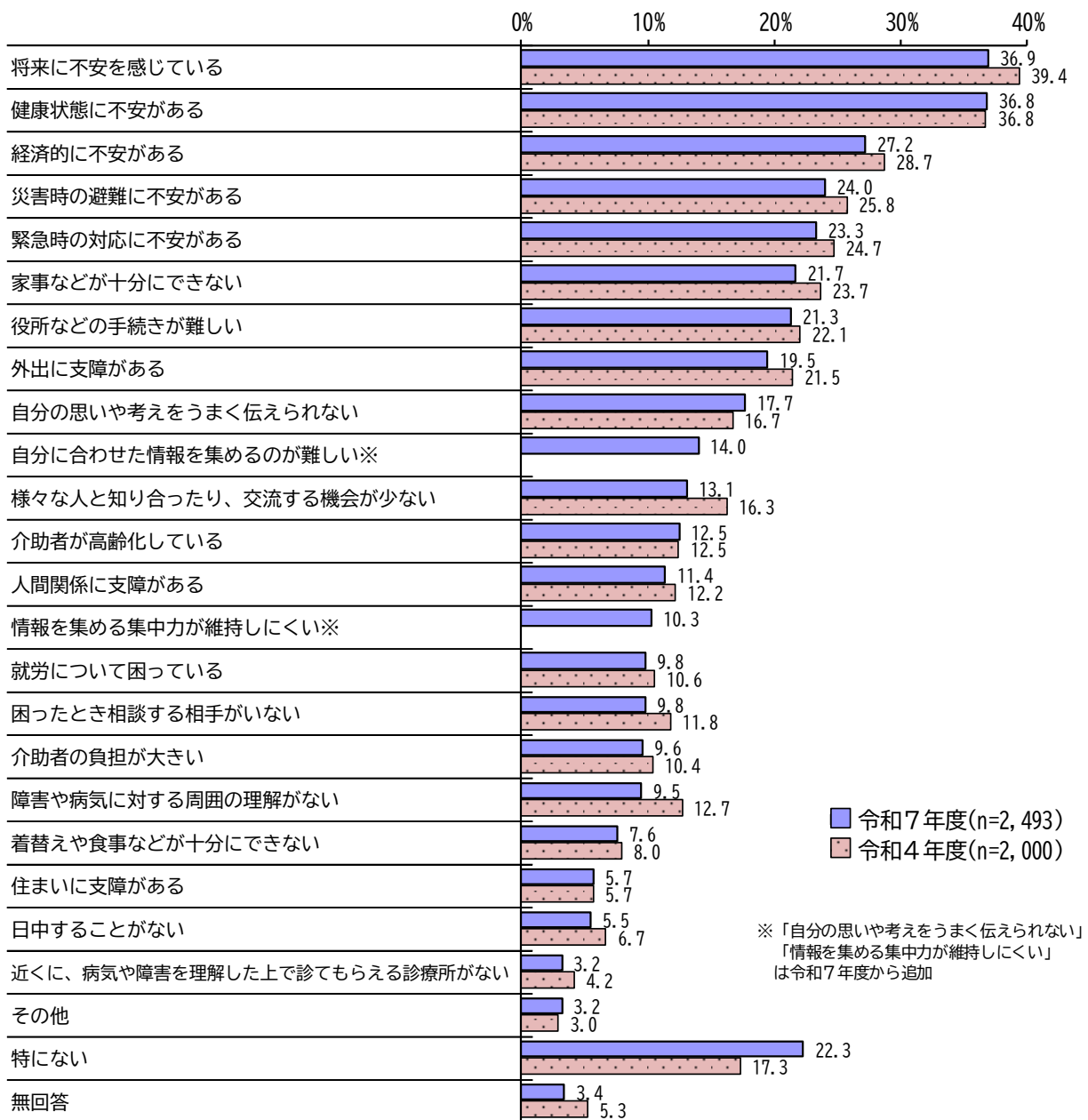
(2-8)主な介助者の就労状況(問 16)



主な介助者の就労状況は、「就労していない」が47.2%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「フルタイムで就労している」が29.2%、「パート・アルバイト等」が19.0%と続いています。

### (3) 相談や福祉の情報について

#### (3-1) 日常生活で困っていること(問 18)



日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」と「健康状態に不安がある」と3割半ばを超えて高く、「経済的に不安がある」が27.2%、「災害時の避難に不安がある」が24.0%と続いています。

令和4年度と比較すると、全体的な傾向にあまり変化はなく、上位9項目は同じ順位となっています。また、「様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない」と「障害や病気に対する周囲の理解がない」がともに3.2ポイント、令和4年度より下がっています。

## 【クロス集計】年代別

(単位:%)	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある
全体	2,493	36.8	7.6	21.7	9.6	12.5	19.5	5.7
年代別								
18～29歳	247	32.8	10.5	32.4	18.2	14.2	21.5	5.7
30～39歳	291	40.9	10.3	27.5	10.0	15.8	17.5	8.2
40～49歳	339	37.8	6.8	19.2	6.8	12.1	16.5	5.0
50～59歳	410	39.5	4.6	18.5	6.1	8.5	13.9	5.6
60～69歳	378	<b>39.4</b>	3.7	16.7	6.3	6.9	13.8	7.4
70～79歳	380	<b>31.3</b>	6.1	17.6	7.4	10.0	20.8	4.5
80～89歳	339	<b>33.9</b>	12.1	23.6	13.6	20.6	29.5	4.4
90歳以上	79	<b>40.5</b>	16.5	31.6	22.8	19.0	39.2	3.8

(単位:%)	n	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に対する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない
全体	2,493	9.8	23.3	24.0	11.4	9.5	9.8	17.7
年代別								
18～29歳	247	22.7	27.9	30.0	24.3	16.6	12.6	42.5
30～39歳	291	22.3	26.8	26.1	22.3	16.5	14.8	30.2
40～49歳	339	14.7	19.8	18.6	15.6	14.5	12.7	21.8
50～59歳	410	11.2	23.9	23.2	13.7	13.7	13.4	17.8
60～69歳	378	3.7	19.8	22.8	7.7	7.9	7.9	7.7
70～79歳	380	1.8	21.8	21.6	1.8	0.8	4.2	6.8
80～89歳	339	0.9	22.1	26.0	2.7	2.7	6.2	10.3
90歳以上	79	0.0	39.2	39.2	5.1	0.0	2.5	8.9

(単位:%)	n	自分に合わせた情報を集めるのが難しい	情報を集める集中力が維持しにくい	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
全体	2,493	14.0	10.3	21.3	3.2	27.2	<b>36.9</b>	5.5
年代別								
18～29歳	247	34.4	26.7	40.1	5.3	37.7	<b>49.8</b>	4.5
30～39歳	291	23.0	18.2	23.4	3.4	39.5	<b>53.3</b>	4.8
40～49歳	339	13.6	8.8	18.0	5.0	30.1	<b>43.1</b>	4.1
50～59歳	410	12.2	8.3	15.6	3.2	33.9	<b>46.3</b>	4.4
60～69歳	378	7.1	6.1	12.7	2.9	25.9	35.4	3.4
70～79歳	380	7.1	3.9	17.1	2.1	18.4	20.0	5.5
80～89歳	339	9.1	8.0	25.7	2.4	14.5	23.0	9.4
90歳以上	79	19.0	11.4	<b>40.5</b>	0.0	7.6	12.7	13.9

(単位:%)	n	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特になし	無回答
全体	2,493	13.1	3.2	22.3	3.4
年代別					
18～29歳	247	17.8	1.6	14.6	1.2
30～39歳	291	18.6	3.8	14.1	1.7
40～49歳	339	15.6	4.1	20.6	3.8
50～59歳	410	11.7	3.2	23.4	2.0
60～69歳	378	9.3	2.9	24.9	1.9
70～79歳	380	7.1	4.2	29.2	5.5
80～89歳	339	13.6	2.4	27.1	5.3
90歳以上	79	15.2	1.3	13.9	7.6

年代別にみると、いずれの年代でも「健康状態に不安がある」が3割を超えて高く、60歳以上の年代で最も高くなっています。

「将来に不安を感じている」は60歳未満の年代で4割を超えて最も高くなっています。また、「経済的に不安がある」も60歳未満の年代で3割を超えて高くなっています。

【クロス集計】障害別

	n	健康状態に不安がある	着替えや食事などが十分にできない	家事などが十分にできない	介助者の負担が大きい	介助者が高齢化している	外出に支障がある	住まいに支障がある
(単位:%)								
全体	2,493	36.8	7.6	21.7	9.6	12.5	19.5	5.7
障害別								
肢体不自由	320	33.1	15.9	28.8	21.6	20.3	30.3	6.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	39.1	19.5	32.2	27.6	26.4	34.5	6.9
視覚障害	163	31.9	7.4	29.4	10.4	16.0	<b>43.6</b>	3.7
聴覚・平衡機能障害	153	22.2	7.2	13.7	9.2	11.1	19.0	3.9
内部障害	324	<b>41.0</b>	5.6	14.8	6.8	8.6	19.1	5.6
知的障害	256	21.9	17.6	43.4	21.9	29.3	35.2	4.7
発達障害	263	41.8	14.8	40.7	17.1	20.2	24.0	11.8
精神障害	626	48.7	8.9	30.0	9.4	12.5	19.8	11.2
高次脳機能障害	40	40.0	15.0	35.0	35.0	42.5	35.0	15.0
難病(特定疾病)	817	<b>42.1</b>	6.2	14.7	6.6	7.8	15.3	3.3
問12に該当する方	658	51.1	15.2	40.1	18.5	21.3	30.4	10.6
その他	42	35.7	7.1	21.4	21.4	31.0	19.0	7.1

	n	就労について困っている	緊急時の対応に不安がある	災害時の避難に不安がある	人間関係に支障がある	障害や病気に對する周囲の理解がない	困ったとき相談する相手がいない	自分の思いや考えをうまく伝えられない
(単位:%)								
全体	2,493	9.8	23.3	24.0	11.4	9.5	9.8	17.7
障害別								
肢体不自由	320	5.6	27.8	<b>35.9</b>	3.8	5.0	6.9	14.4
音声・言語・そしゃく機能障害	87	9.2	<b>43.7</b>	42.5	9.2	5.7	6.9	41.4
視覚障害	163	6.1	35.6	37.4	6.1	4.3	8.6	11.0
聴覚・平衡機能障害	153	5.9	28.8	26.8	6.5	9.2	6.5	11.8
内部障害	324	5.2	19.8	22.5	2.8	6.2	7.4	7.1
知的障害	256	7.0	46.9	48.0	22.3	11.3	14.1	<b>58.2</b>
発達障害	263	28.9	32.7	31.6	38.4	25.9	19.0	49.0
精神障害	626	22.2	24.4	22.2	27.2	20.9	18.8	28.6
高次脳機能障害	40	20.0	42.5	45.0	20.0	17.5	12.5	45.0
難病(特定疾病)	817	4.7	15.5	18.0	1.8	6.1	5.1	5.3
問12に該当する方	658	21.1	33.1	32.4	31.2	21.1	19.9	41.8
その他	42	11.9	33.3	31.0	16.7	16.7	11.9	26.2

	n	自分に合わせた情報を集めるのが難しい	情報を集める集中力が維持しにくい	役所などの手続きが難しい	近くに、病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所がない	経済的に不安がある	将来に不安を感じている	日中することがない
(単位:%)								
全体	2,493	14.0	10.3	21.3	3.2	27.2	<b>36.9</b>	5.5
障害別								
肢体不自由	320	10.9	6.3	21.9	3.8	21.9	31.3	6.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	24.1	11.5	36.8	3.4	24.1	33.3	9.2
視覚障害	163	18.4	7.4	33.1	3.1	25.2	35.0	10.4
聴覚・平衡機能障害	153	12.4	7.2	21.6	2.0	11.1	<b>29.4</b>	5.9
内部障害	324	6.5	5.6	15.4	3.1	20.4	23.5	5.9
知的障害	256	44.5	25.8	53.5	5.9	23.0	41.0	5.9
発達障害	263	36.5	30.0	39.2	6.5	49.0	<b>59.3</b>	6.5
精神障害	626	18.8	18.2	23.6	5.4	49.2	<b>59.3</b>	7.2
高次脳機能障害	40	37.5	30.0	42.5	10.0	<b>47.5</b>	45.0	12.5
難病(特定疾病)	817	6.5	3.3	13.0	2.0	18.7	29.0	3.9
問12に該当する方	658	29.5	23.6	36.6	6.8	45.3	<b>57.8</b>	7.6
その他	42	21.4	23.8	26.2	7.1	23.8	<b>38.1</b>	0.0

	n	様々な人と知り合ったり、交流する機会が少ない	その他	特にない	無回答
(単位:%)					
全体	2,493	13.1	3.2	22.3	3.4
障害別					
肢体不自由	320	11.3	2.5	19.4	2.5
音声・言語・そしゃく機能障害	87	18.4	3.4	10.3	5.7
視覚障害	163	10.4	2.5	15.3	3.1
聴覚・平衡機能障害	153	14.4	3.9	23.5	6.5
内部障害	324	9.6	2.8	35.8	2.2
知的障害	256	21.1	3.1	11.7	1.6
発達障害	263	24.3	4.9	8.4	0.8
精神障害	626	22.4	5.1	10.4	1.0
高次脳機能障害	40	17.5	5.0	5.0	2.5
難病(特定疾病)	817	6.9	2.2	29.6	2.2
問12に該当する方	658	23.4	5.2	4.6	1.8
その他	42	28.6	9.5	11.9	7.1

障害別にみると、“肢体不自由”では、「災害時の避難に不安がある」が最も高くなっています。また、“難病（特定疾病）”を除くいずれの障害でも2割を超えて高くなっています。

“音声・言語・そしゃく機能障害”では「緊急時の対応に不安がある」が最も高くなっています。

“視覚障害”では「外出に支障がある」が4割を超えて最も高くなっています。

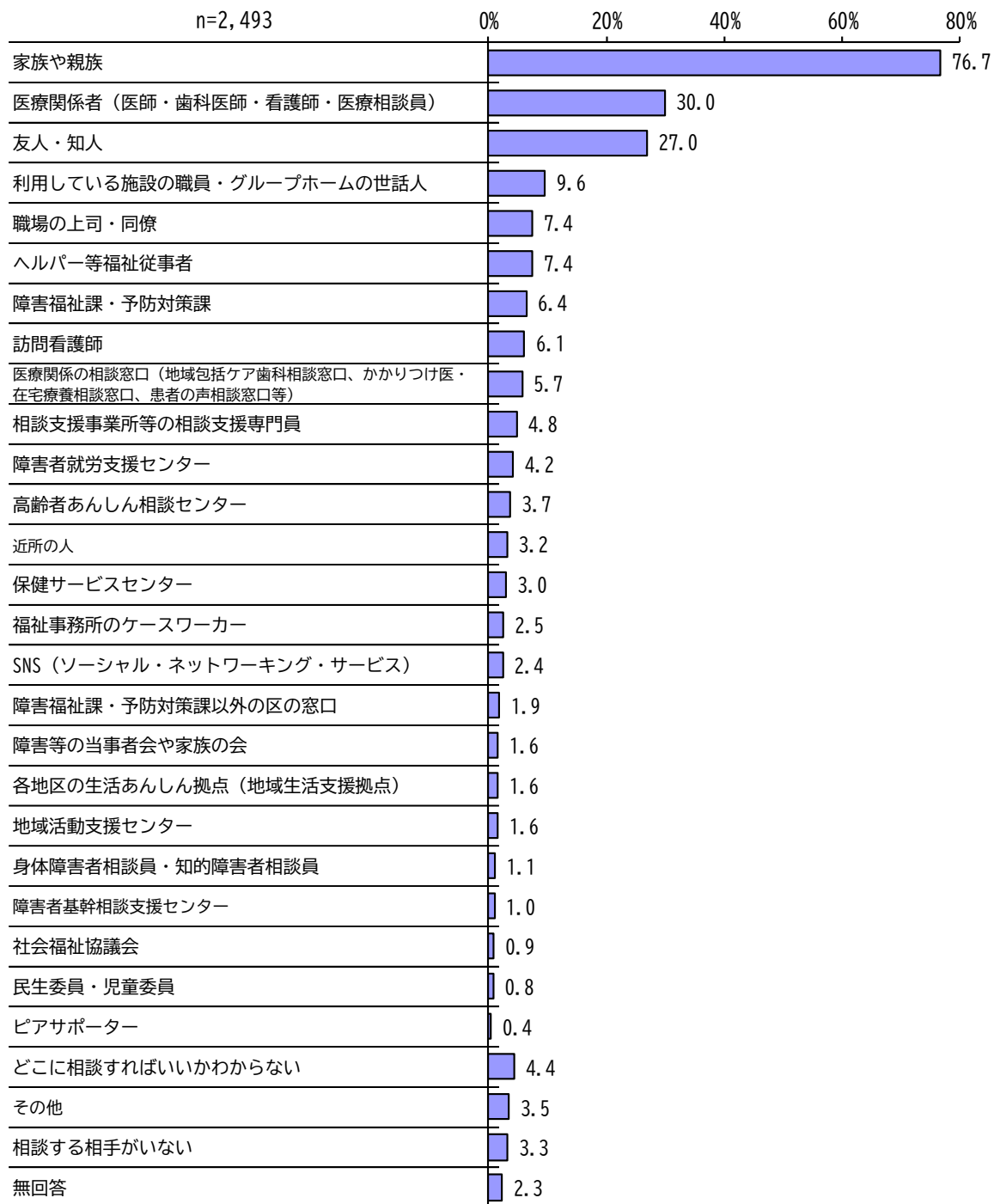
“内部障害”と“難病（特定疾病）”では「健康状態に不安がある」が最も高くなっています。また、“聴覚・平衡機能障害”、“知的障害”を除くいずれの障害でも3割を超えて高くなっており、特に“問12に該当する方”では5割を超えています。

“知的障害”では「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が5割を超えて最も高くなっています。

“高次脳機能障害”では「経済的に不安がある」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「将来に不安を感じている」が最も高くなっており、すべての障害で2割を超えています。

### (3-2)困ったときの相談相手(問 19)



困ったときの相談相手は、「家族や親族」が76.7%と7割半ばを超えて突出して高く、次いで「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が30.0%、「友人・知人」が27.0%と続いており、それ以外の項目は1割を下回っています。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」は4.4%、「相談する相手がない」は3.3%となっています。

【クロス集計】年代別

	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	職場の上 司・同僚	民生委員・ 児童委員	障害等の 当事者会 や家族の 会	身体障害 者相談員・ 知的障害 者相談員	
(単位:%)										
全体	2,493	76.7	3.2	27.0	0.4	7.4	0.8	1.6	1.1	
年代別	18～29歳	247	84.2	0.0	28.7	0.4	17.8	0.0	3.6	3.2
	30～39歳	291	78.0	1.4	28.5	1.0	15.5	0.0	2.4	1.0
	40～49歳	339	74.9	1.5	28.3	0.6	12.4	0.3	2.4	0.9
	50～59歳	410	70.7	1.7	28.8	0.2	8.0	0.2	1.7	1.2
	60～69歳	378	72.2	4.0	29.9	0.5	3.2	1.3	1.6	1.1
	70～79歳	380	79.5	6.6	28.9	0.0	1.6	0.5	0.0	0.8
	80～89歳	339	80.5	5.9	20.6	0.3	0.0	1.8	0.6	0.3
	90歳以上	79	79.7	3.8	7.6	1.3	0.0	5.1	0.0	0.0

	n	ヘルパー 等福祉従 事者	利用してい る施設の職 員・グルー プホームの 世話人	相談支援 事業所等 の相談支 援専門員	医療関係者 (医師・歯科 医師・看護 師・医療相談 員)	医療関係 者の相談窓 口	障害福祉 課・予防対 策課	障害福祉 課・予防対 策課以外の 区の窓口	保健サー ビスセン ター	
(単位:%)										
全体	2,493	7.4	9.6	4.8	30.0	5.7	6.4	1.9	3.0	
年代別	18～29歳	247	4.0	17.8	13.4	31.2	3.2	8.9	0.8	2.0
	30～39歳	291	3.1	11.3	7.2	31.3	3.8	6.5	2.1	3.8
	40～49歳	339	3.5	11.2	4.4	33.9	5.6	7.4	2.4	5.0
	50～59歳	410	3.4	10.0	4.9	36.8	3.7	8.3	0.7	3.7
	60～69歳	378	7.1	8.2	2.9	34.1	4.8	7.4	3.2	5.0
	70～79歳	380	13.2	4.5	1.3	23.7	7.9	3.9	2.1	1.3
	80～89歳	339	12.1	6.2	2.9	21.2	9.7	3.2	2.4	0.9
	90歳以上	79	24.1	15.2	2.5	22.8	6.3	3.8	1.3	0.0

	n	障害者基 幹相談支 援センター	各地区の生 活あんしん拠 点(地域生活 支援拠点)	福祉事務 所のケー スワーカー	障害者就 労支援セ ンター	社会福祉 協議会	高齢者あ んしん相談 センター	地域活動 支援セン ター	訪問看護 師	
(単位:%)										
全体	2,493	1.0	1.6	2.5	4.2	0.9	3.7	1.6	6.1	
年代別	18～29歳	247	1.6	0.8	1.2	9.7	0.0	0.0	0.4	0.4
	30～39歳	291	2.7	3.1	1.4	8.2	0.3	0.0	1.4	4.8
	40～49歳	339	0.9	1.8	2.9	6.8	0.3	0.3	0.6	7.1
	50～59歳	410	0.7	1.0	3.4	4.9	0.2	1.0	1.2	4.9
	60～69歳	378	1.6	1.6	3.2	2.9	2.6	2.1	2.9	4.2
	70～79歳	380	0.5	1.1	2.1	0.3	1.3	7.4	2.4	8.4
	80～89歳	339	0.0	1.8	2.1	0.3	0.9	12.4	2.4	10.3
	90歳以上	79	0.0	2.5	3.8	0.0	1.3	8.9	1.3	11.4

	n	SNS(ソー シャル・ネッ トワーキング ・サービス)	どこに相 談すれば いいかわ からない	その他	相談する 相手が ない	無回答	
(単位:%)							
全体	2,493	2.4	4.4	3.5	3.3	2.3	
年代別	18～29歳	247	6.1	2.4	6.1	1.6	1.2
	30～39歳	291	4.8	6.2	4.8	3.4	1.0
	40～49歳	339	3.2	4.1	3.8	6.2	2.7
	50～59歳	410	2.7	5.9	2.7	4.6	1.2
	60～69歳	378	2.1	3.7	1.9	4.2	2.1
	70～79歳	380	0.0	2.9	1.8	1.6	2.6
	80～89歳	339	0.3	5.0	5.0	1.8	3.8
	90歳以上	79	0.0	5.1	3.8	1.3	2.5

年代別にみると、いずれの年代も「家族や親族」が7割を超えて最も高く、特に“18～29歳”と“80～89歳”では8割を超えています。

いずれの年代でも「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」が2割を超えており、特に70歳未満の年代では3割を超えて高くなっています。また、“90歳以上”以外のいずれの年代でも「友人・知人」が2割を超えています。

【クロス集計】障害別

	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	職場の上 司・同僚	民生委員 児童委員	障害等の 当事者会 や家族の 会	身体障害 者相談員・ 知的障害 者相談員
(単位:%)									
全体	2,493	76.7	3.2	27.0	0.4	7.4	0.8	1.6	1.1
障害別									
肢体不自由	320	80.3	5.9	24.7	0.9	2.8	2.8	2.2	0.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	79.3	5.7	25.3	0.0	6.9	1.1	1.1	5.7
視覚障害	163	73.6	4.9	31.9	1.2	6.1	0.6	3.7	0.6
聴覚・平衡機能障害	153	81.7	7.2	26.8	1.3	5.2	3.3	2.6	0.7
内部障害	324	79.6	4.0	24.4	0.3	2.2	1.2	1.2	0.3
知的障害	256	84.0	2.0	9.0	0.4	14.8	0.4	3.5	6.6
発達障害	263	73.0	1.5	25.1	0.8	15.2	0.0	3.0	3.8
精神障害	626	64.9	1.1	28.0	0.3	9.3	0.6	1.9	1.3
高次脳機能障害	40	82.5	2.5	15.0	0.0	12.5	0.0	10.0	5.0
難病（特定疾病）	817	83.4	3.1	32.7	0.2	7.1	0.2	0.6	0.1
その他	42	64.3	2.4	31.0	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4

	n	ヘルパー 等福祉従 事者	利用してい る施設の職 員・グループ ホームの世 話人	相談支援 事業所等 の相談支 援専門員	医療関係者 (医師・歯科 医師・看護 師・医療相談 員)	医療関係 の相談窓 口	障害福祉 課・予防対 策課	障害福祉 課・予防対 策課以外 の区の窓 口	保健サー ビスセン ター
(単位:%)									
全体	2,493	7.4	9.6	4.8	30.0	5.7	6.4	1.9	3.0
障害別									
肢体不自由	320	15.0	14.7	4.1	25.3	7.5	7.5	4.1	1.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	23.0	24.1	3.4	29.9	10.3	10.3	5.7	3.4
視覚障害	163	16.0	6.1	3.7	16.0	6.1	10.4	3.7	2.5
聴覚・平衡機能障害	153	8.5	6.5	3.3	20.9	8.5	9.2	5.2	2.6
内部障害	324	8.0	4.6	1.9	35.2	7.1	5.2	1.9	1.2
知的障害	256	6.6	43.4	18.0	19.5	2.3	12.5	2.7	1.2
発達障害	263	6.1	14.8	10.6	37.6	5.3	9.5	1.9	5.7
精神障害	626	6.4	12.1	7.8	42.3	5.8	8.8	2.2	7.2
高次脳機能障害	40	17.5	17.5	7.5	37.5	12.5	10.0	7.5	0.0
難病（特定疾病）	817	7.2	3.8	1.5	31.7	5.3	2.6	0.9	2.9
その他	42	2.4	11.9	4.8	33.3	16.7	7.1	2.4	11.9

	n	障害者基 幹相談支 援センター	各地区の生 活あんしん拠 点(地域生活 支援拠点)	福祉事務 所のケー スワーカー	障害者就 労支援セ ンター	社会福祉 協議会	高齢者あ んしん相談 センター	地域活動 支援セン ター	訪問看護 師
(単位:%)									
全体	2,493	1.0	1.6	2.5	4.2	0.9	3.7	1.6	6.1
障害別									
肢体不自由	320	1.3	1.3	1.6	2.2	0.3	5.6	2.5	8.8
音声・言語・そしゃく機能障害	87	1.1	0.0	2.3	0.0	0.0	5.7	0.0	10.3
視覚障害	163	0.6	1.2	1.8	0.6	2.5	9.2	0.6	4.9
聴覚・平衡機能障害	153	0.7	2.6	0.7	2.0	2.6	7.2	3.3	5.9
内部障害	324	0.9	0.3	1.2	0.0	0.9	5.9	0.3	5.9
知的障害	256	3.5	2.3	2.3	8.2	1.2	0.0	1.2	4.7
発達障害	263	4.2	3.4	4.6	13.7	1.5	1.9	0.8	4.9
精神障害	626	2.4	2.4	4.0	10.1	1.4	1.1	2.7	10.5
高次脳機能障害	40	5.0	0.0	2.5	5.0	0.0	7.5	0.0	12.5
難病（特定疾病）	817	0.5	1.0	1.2	0.4	0.2	4.0	1.5	5.0
その他	42	0.0	4.8	9.5	4.8	4.8	11.9	4.8	2.4

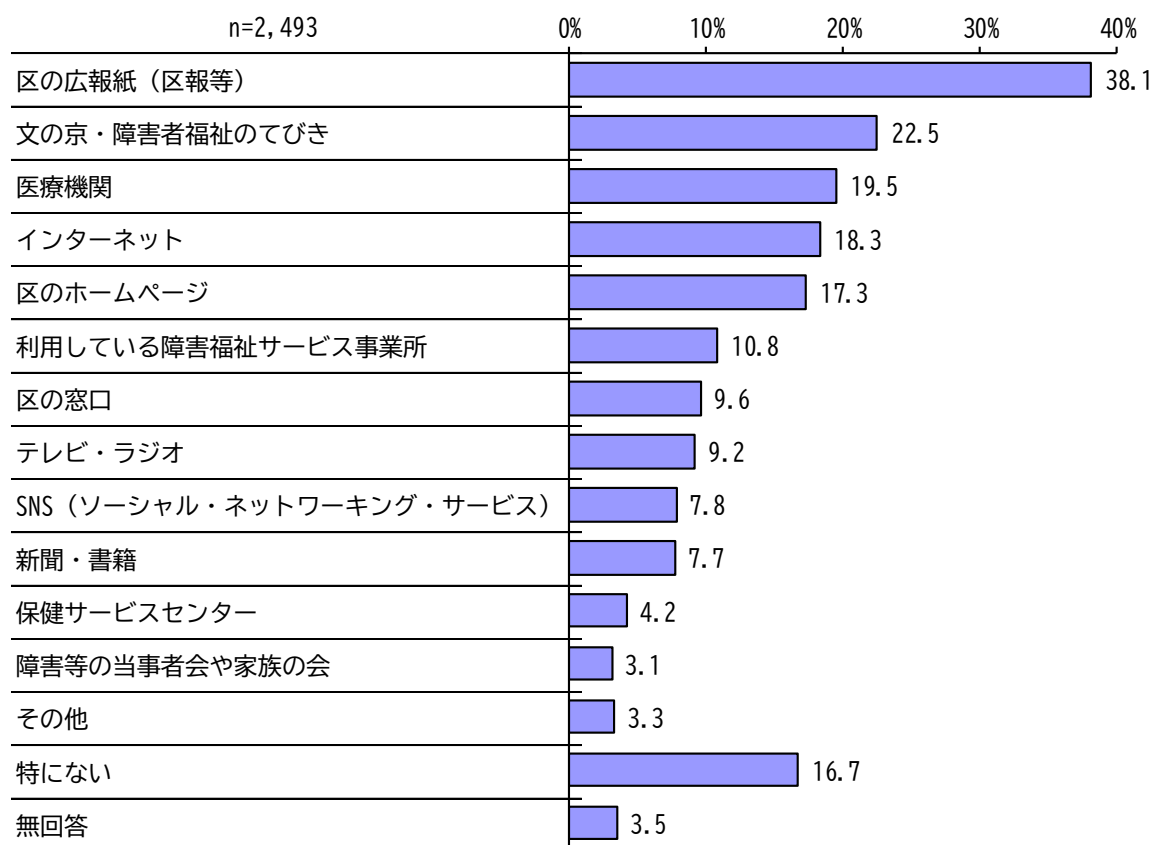
	n	SNS(ソー シャル・ネット ワーキング・ サービス)	どこに相 談すれば いいかわ からない	その他	相談する 相手が いない	無回答
(単位:%)						
全体	2,493	2.4	4.4	3.5	3.3	2.3
障害別						
肢体不自由	320	0.9	5.0	2.2	1.6	1.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	0.0	5.7	5.7	1.1	3.4
視覚障害	163	1.2	4.3	6.1	3.7	2.5
聴覚・平衡機能障害	153	2.0	4.6	2.0	1.3	3.3
内部障害	324	0.9	4.6	3.4	3.1	1.2
知的障害	256	0.8	2.3	3.9	1.6	1.6
発達障害	263	7.6	6.1	8.4	4.2	1.1
精神障害	626	6.4	6.2	5.1	5.6	0.8
高次脳機能障害	40	2.5	12.5	2.5	0.0	0.0
難病（特定疾病）	817	1.3	3.4	2.0	3.5	0.9
その他	42	2.4	2.4	4.8	7.1	9.5

障害別にみると、いずれの障害も「家族や親族」が6割を超えて最も高くなっています。

“知的障害”では「利用している施設の職員・グループホームの世話人」が43.4%と4割を超えて他の障害より高くなっていますが、「友人・知人」は他の障害より低くなっています。

“精神障害”では「医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）」では42.3%と4割を超えて、他の障害より高くなっています。

### (3-3)福祉情報の入手先(問 20)



福祉情報の入手先は、「区の広報紙 (区報等)」が 38.1%と 3 割半ばを超えて最も高く、次いで「文の京・障害者福祉のてびき」が 22.5%、「医療機関」が 19.5%と続いています。

一方、「特にない」が 16.7%と 1 割半ばを超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	区の広報紙(区報等)	区のホームページ	文の京・障害者福祉のてびき	区の窓口	保健サービスセンター	テレビ・ラジオ	インターネット	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)
(単位:%)									
全体	2,493	<b>38.1</b>	17.3	22.5	9.6	4.2	9.2	18.3	7.8
年代別									
18歳以上40歳未満	538	22.1	20.8	<b>22.7</b>	9.3	3.0	3.5	21.4	15.1
40歳以上65歳未満	956	<b>34.3</b>	23.8	20.7	10.9	5.6	6.2	24.7	10.0
65歳以上75歳未満	336	<b>50.9</b>	13.4	25.9	7.7	4.8	12.5	17.0	3.9
75歳以上	633	<b>51.0</b>	7.3	23.4	9.0	2.8	16.7	7.0	0.8
障害別									
肢体不自由	320	<b>44.4</b>	14.4	40.6	6.6	2.8	12.8	8.8	2.5
音声・言語・そしゃく機能障害	87	<b>46.0</b>	16.1	42.5	13.8	2.3	9.2	10.3	2.3
視覚障害	163	<b>38.7</b>	14.7	34.4	10.4	3.7	19.0	13.5	4.9
聴覚・平衡機能障害	153	<b>51.0</b>	14.4	37.3	12.4	1.3	13.7	11.8	7.8
内部障害	324	<b>44.4</b>	15.4	30.2	8.0	3.1	11.1	17.6	4.6
知的障害	256	30.1	9.8	<b>35.9</b>	7.8	0.8	5.9	6.3	2.3
発達障害	263	<b>30.8</b>	22.4	28.9	10.3	2.7	3.8	25.1	17.9
精神障害	626	<b>30.2</b>	19.6	19.6	9.4	6.5	6.7	25.1	14.1
高次脳機能障害	40	<b>32.5</b>	17.5	25.0	7.5	2.5	5.0	12.5	2.5
難病(特定疾病)	817	<b>40.6</b>	21.4	8.8	11.3	6.7	8.4	21.5	7.2
その他	42	23.8	9.5	<b>26.2</b>	4.8	2.4	4.8	19.0	7.1

	n	新聞・書籍	障害等の当事者会や家族の会	医療機関	利用している障害福祉サービス事業所	その他	特にない	無回答
(単位:%)								
全体	2,493	7.7	3.1	19.5	10.8	3.3	16.7	3.5
年代別								
18歳以上40歳未満	538	2.6	4.8	19.3	15.8	3.5	19.5	1.3
40歳以上65歳未満	956	5.1	4.1	22.3	9.7	2.5	16.6	2.8
65歳以上75歳未満	336	10.7	1.5	20.2	8.3	2.4	13.4	2.7
75歳以上	633	14.5	1.1	15.3	9.6	4.9	16.1	5.8
障害別								
肢体不自由	320	11.3	4.1	14.4	17.5	5.0	13.1	5.9
音声・言語・そしゃく機能障害	87	8.0	8.0	20.7	21.8	12.6	19.5	1.1
視覚障害	163	8.0	7.4	11.0	13.5	8.0	17.8	0.6
聴覚・平衡機能障害	153	19.0	3.9	15.0	6.5	7.2	19.6	3.9
内部障害	324	13.6	1.2	23.8	4.3	2.8	15.4	2.5
知的障害	256	2.7	9.8	5.5	35.5	5.9	18.8	4.3
発達障害	263	2.7	3.8	20.9	18.3	3.8	16.3	3.0
精神障害	626	4.6	3.4	25.9	12.3	2.7	17.4	2.2
高次脳機能障害	40	2.5	10.0	22.5	22.5	7.5	22.5	7.5
難病(特定疾病)	817	6.5	1.1	24.0	4.8	1.8	17.3	2.9
その他	42	4.8	0.0	16.7	9.5	9.5	23.8	2.4

年代別にみると、年代が上がるにつれて「区の広報紙(区報等)」が高くなる傾向にあり、特に65歳以上の年代で5割を超えています。

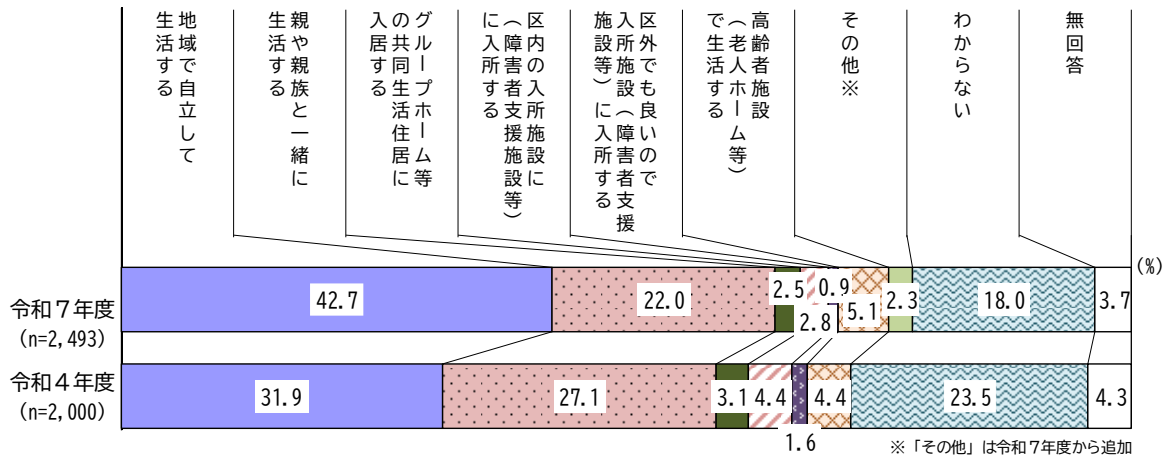
また、「文の京・障害者福祉のてびき」はいずれの年代でも2割を超えています。

「区のホームページ」、「インターネット」、「SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」は65歳未満の年代、「テレビ・ラジオ」、「新聞・書籍」は65歳以上の年代で高くなっています。

障害別にみると、「知的障害」では「文の京・障害者福祉のてびき」が最も高く、それ以外の障害は「区の広報紙(区報等)」が最も高くなっています。

「発達障害」と「精神障害」では「インターネット」がともに2割半ばと高くなっています。また、「知的障害」では「利用している障害福祉サービス事業所」が3割半ばと他の障害より高くなっています。

### (3-4) 今後希望する生活(問 21)



今後希望する生活は、「地域で自立して生活する」が42.7%と4割を超えて最も高く、次いで「親や親族と一緒に生活する」が22.0%と2割を超えて続き、それ以外の項目は1割を下回っています。

一方、「わからない」は18.0%と1割半ばを超えています。

令和4年度と比較すると、「地域で自立して生活する」が10.9ポイント上がっており、反対に「親や親族と一緒に生活する」が5.1ポイント、「わからない」が5.5ポイント下がっています。

#### 【クロス集計】年代別・障害別

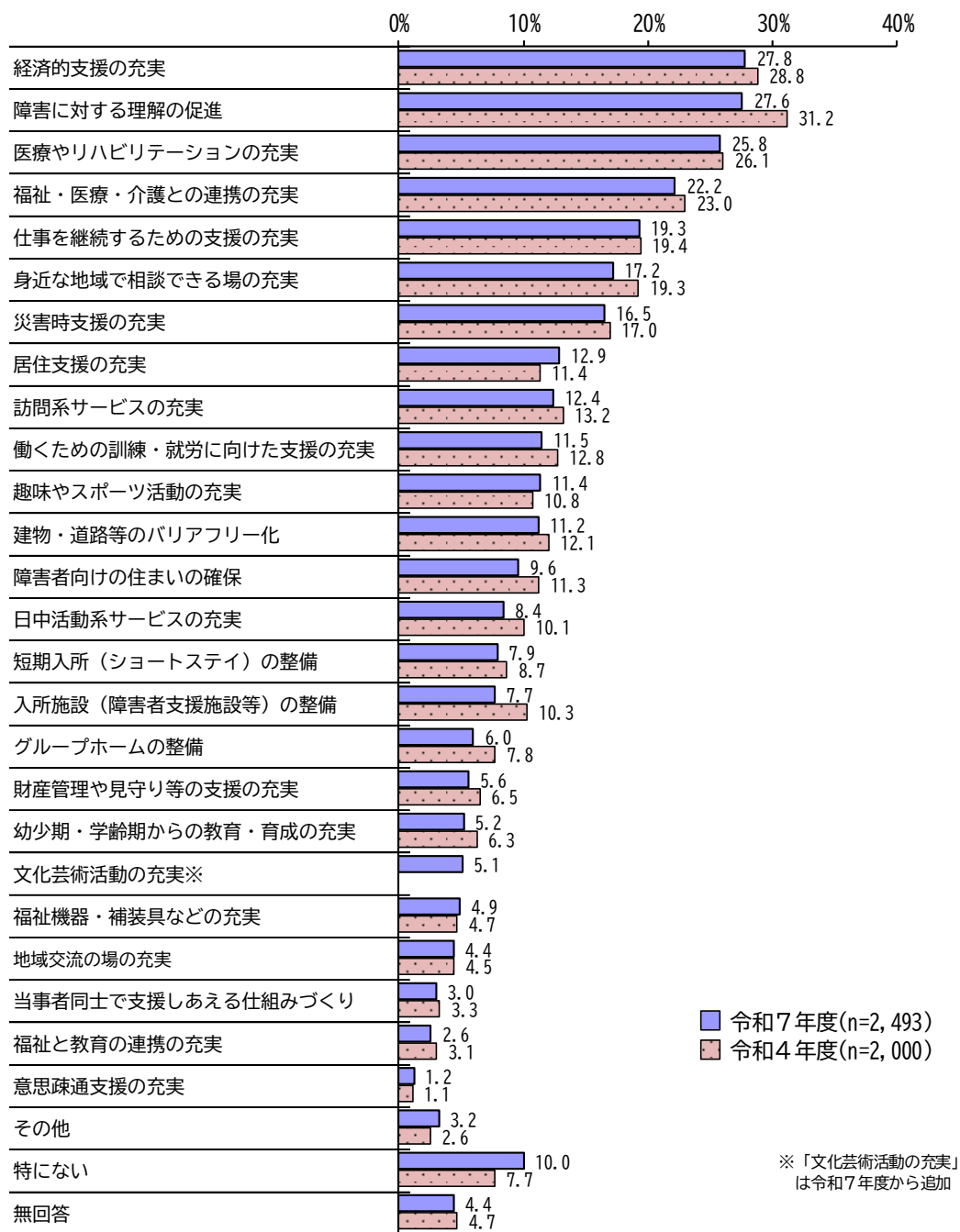
(単位:%)	n	地域で自立して生活する	親や親族と一緒に生活する	グループホーム等の共同生活住居に入居する	区内の入所施設に(障害者支援施設等)に入居する	区外でも良いので入所施設(障害者支援施設等)に入居する	高齢者施設(老人ホーム等)で生活する	その他	わからない	無回答
全体	2,493	42.7	22.0	2.5	2.8	0.9	5.1	2.3	18.0	3.7
年代別										
18歳以上40歳未満	538	45.7	24.0	5.8	3.0	1.1	0.2	2.2	16.7	1.3
40歳以上65歳未満	956	49.7	21.0	2.1	2.7	1.0	1.3	2.2	16.6	3.3
65歳以上75歳未満	336	49.1	18.5	1.2	0.6	0.3	5.4	2.1	18.8	4.2
75歳以上	633	27.0	23.7	1.1	3.6	0.9	15.0	2.7	21.0	4.9
障害別										
肢体不自由	320	31.6	25.0	2.8	4.4	1.9	10.0	1.6	17.5	5.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	26.4	32.2	2.3	4.6	2.3	10.3	3.4	18.4	0.0
視覚障害	163	45.4	21.5	0.0	4.3	0.6	5.5	3.7	16.6	2.5
聴覚・平衡機能障害	153	35.3	22.2	1.3	3.3	0.7	9.8	0.7	24.8	2.0
内部障害	324	43.8	21.3	0.3	1.9	0.6	8.6	1.9	18.8	2.8
知的障害	256	9.8	25.8	16.8	11.7	3.9	1.6	2.7	23.0	4.7
発達障害	263	43.3	23.2	7.2	3.4	1.5	1.5	4.2	14.1	1.5
精神障害	626	47.1	21.4	1.4	1.9	0.3	2.4	3.0	20.3	2.1
高次脳機能障害	40	25.0	30.0	2.5	7.5	2.5	7.5	0.0	17.5	7.5
難病(特定疾病)	817	51.2	22.8	0.5	1.0	1.0	5.8	1.8	13.2	2.8
問12に該当する方	658	37.1	21.0	4.0	5.3	1.2	4.4	3.6	20.8	2.6
その他	42	26.2	23.8	0.0	2.4	0.0	14.3	9.5	23.8	0.0

年代別にみると、いずれの年代でも「地域で自立して生活する」が最も高く、特に75歳未満の年代で4割半ばを超えています。

また、「65歳以上75歳未満」を除くいずれの年代でも「親や親族と一緒に生活する」が2割を超えています。

障害別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」、「知的障害」、「高次脳機能障害」は「親や親族と一緒に生活する」が最も高く、それ以外の障害はいずれも「地域で自立して生活する」が最も高くなっています。

### (3-5)地域で安心して暮らすために必要な施策(問 22)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「経済的支援の充実」が27.8%、「障害に対する理解の促進」が27.6%、「医療やリハビリテーションの充実」が25.8%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が22.2%と2割を超えて高くなっています。

令和4年度と比較すると、全体的な傾向にあまり大きな変化はありませんが、「障害に対する理解の促進」が3.6ポイント下がっており、全体的に微減している項目が多くなっています。

【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体	2,493	27.6	25.8	5.2	11.5	19.3	17.2	12.4
障害別								
肢体不自由	320	25.9	<b>42.5</b>	2.2	3.8	7.8	13.4	20.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	31.0	<b>35.6</b>	2.3	10.3	12.6	8.0	29.9
視覚障害	163	<b>38.0</b>	27.6	3.1	9.2	8.6	21.5	19.6
聴覚・平衡機能障害	153	<b>32.7</b>	28.8	3.3	7.2	11.1	18.3	12.4
内部障害	324	22.8	<b>28.1</b>	3.7	4.6	9.0	17.0	16.4
知的障害	256	32.4	9.8	5.9	10.5	24.6	18.4	11.3
発達障害	263	<b>40.3</b>	12.9	12.2	24.3	37.3	19.4	8.0
精神障害	626	39.3	15.8	6.7	23.8	31.5	22.2	8.6
高次脳機能障害	40	35.0	<b>52.5</b>	2.5	10.0	7.5	12.5	27.5
難病（特定疾病）	817	18.4	<b>33.2</b>	5.3	6.9	17.6	14.4	12.1
問12に該当する方	658	35.1	19.8	6.5	18.1	27.5	17.5	13.1
その他	42	23.8	23.8	2.4	14.3	14.3	21.4	23.8

(単位:%)	n	日中活動系サービスの充実	短期入所（ショートステイ）の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設（障害者支援施設等）の整備	障害者向けの住まいの確保
全体	2,493	8.4	7.9	1.2	4.9	6.0	7.7	9.6
障害別								
肢体不自由	320	8.8	15.3	0.6	10.9	5.3	10.0	11.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	16.1	23.0	5.7	14.9	5.7	14.9	12.6
視覚障害	163	8.0	8.0	1.2	14.1	3.7	6.7	14.1
聴覚・平衡機能障害	153	7.2	10.5	10.5	16.3	2.0	8.5	9.2
内部障害	324	5.6	6.8	0.0	7.7	2.2	5.9	6.5
知的障害	256	25.0	23.0	2.3	2.0	<b>35.9</b>	33.6	19.5
発達障害	263	12.5	10.3	1.9	1.5	13.3	11.0	15.6
精神障害	626	11.7	4.2	0.6	1.0	3.8	4.0	15.8
高次脳機能障害	40	15.0	12.5	2.5	12.5	2.5	10.0	10.0
難病（特定疾病）	817	4.0	6.4	0.1	4.2	2.2	5.5	4.0
問12に該当する方	658	14.1	9.0	1.2	3.0	10.0	13.1	16.7
その他	42	14.3	11.9	4.8	2.4	4.8	11.9	9.5

(単位:%)	n	居住支援の充実	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実
全体	2,493	12.9	11.2	3.0	5.1	11.4	5.6	<b>27.8</b>
障害別								
肢体不自由	320	10.0	24.4	1.3	4.1	6.3	4.4	20.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	11.5	18.4	1.1	4.6	8.0	4.6	20.7
視覚障害	163	14.1	27.0	4.9	5.5	9.8	1.8	21.5
聴覚・平衡機能障害	153	9.8	12.4	2.6	2.0	7.2	5.2	14.4
内部障害	324	13.3	12.3	2.2	6.2	10.2	3.4	25.3
知的障害	256	14.8	3.5	1.2	4.7	16.4	14.1	17.6
発達障害	263	17.1	3.8	5.3	7.2	12.5	12.2	39.9
精神障害	626	18.1	3.5	4.5	5.9	12.1	7.7	<b>43.5</b>
高次脳機能障害	40	12.5	17.5	5.0	2.5	2.5	5.0	32.5
難病（特定疾病）	817	11.0	13.0	2.9	4.4	10.9	3.4	26.9
問12に該当する方	658	17.9	6.4	4.3	5.5	11.6	8.7	<b>37.8</b>
その他	42	11.9	11.9	4.8	4.8	11.9	2.4	23.8

	n	災害時支援 の充実	地域交流の 場の充実	福祉・医療・ 介護との連 携の充実	福祉と教育 の連携の充 実	その他	特にな い	無回答	
(単位:%)									
全体	2,493	16.5	4.4	22.2	2.6	3.2	10.0	4.4	
障害別	肢体不自由	320	17.5	4.1	25.0	0.3	2.2	9.7	8.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	19.5	0.0	28.7	1.1	2.3	11.5	2.3
	視覚障害	163	15.3	3.1	20.9	3.7	4.3	4.3	4.9
	聴覚・平衡機能障害	153	24.8	3.9	31.4	2.6	3.3	8.5	4.6
	内部障害	324	17.9	3.4	24.7	1.5	4.0	14.8	2.2
	知的障害	256	14.5	3.9	20.7	2.0	2.3	5.5	3.5
	発達障害	263	13.7	6.1	17.1	4.6	4.6	5.7	1.9
	精神障害	626	15.3	5.9	16.3	3.0	3.8	6.5	1.8
	高次脳機能障害	40	17.5	0.0	25.0	5.0	0.0	2.5	10.0
	難病（特定疾病）	817	17.0	3.9	25.1	1.8	3.3	12.6	4.0
	問12に該当する方	658	16.3	5.0	22.6	3.6	5.6	4.6	2.3
	その他	42	23.8	4.8	<b>26.2</b>	0.0	9.5	7.1	2.4

障害別にみると、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“発達障害”では「障害に対する理解の促進」が最も高くなっています。また、“難病（特定疾病）”を除くいずれの障害でも2割を超えており、特に“発達障害”では4割を超えています。

“知的障害”では、「グループホームの整備」が3割半ばを超えて最も高くなっています。

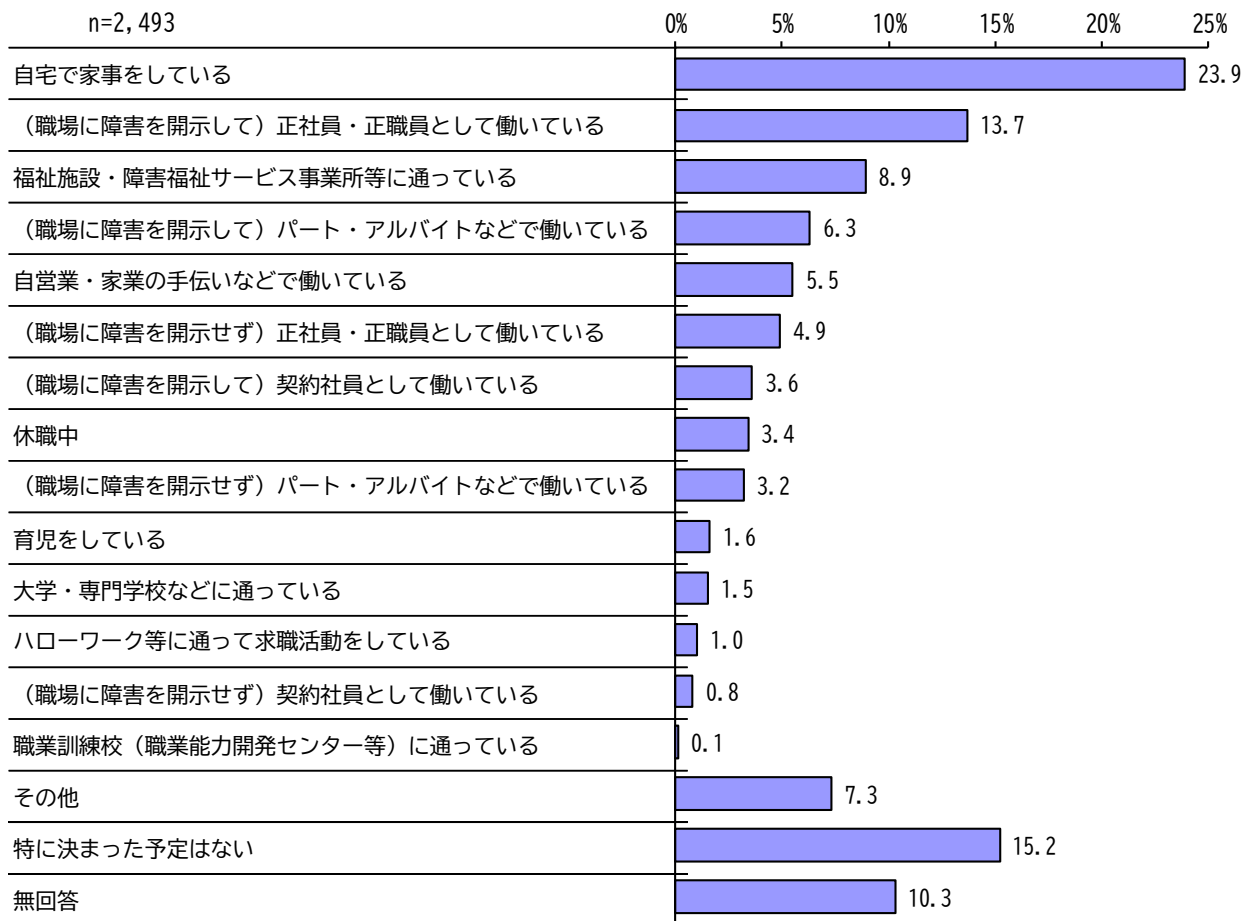
“精神障害”と“問12に該当する方”では、「経済的支援の充実」が最も高く、特に“精神障害”では4割を超えて他の障害より高くなっています。

“その他”では「福祉・医療・介護との連携の充実」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「医療やリハビリテーションの充実」が最も高く、特に“高次脳機能障害”では5割、“肢体不自由”では4割を超えて、他の障害より高くなっています。

## (4) 日中活動や外出について

### (4-1) 平日の日中の過ごし方(問 28)



平日の日中の過ごし方は、「自宅で家事をしている」が23.9%で最も高く、次いで「(職場に障害を開示して) 正社員・正職員として働いている」が13.7%、「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が8.9%、「(職場に障害を開示して) パート・アルバイトなどで働いている」が6.3%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は15.2%となっています。

## 【クロス集計】年代別

(単位:%)	n	(職場に障害を開示して)正社員・正職員として働いている	(職場に障害を開示せず)正社員・正職員として働いている	(職場に障害を開示して)契約社員として働いている	(職場に障害を開示せず)契約社員として働いている	(職場に障害を開示して)パート・アルバイトなどで働いている	(職場に障害を開示せず)パート・アルバイトなどで働いている
全体	2,493	13.7	4.9	3.6	0.8	6.3	3.2
年代別							
18歳以上40歳未満	538	<b>22.1</b>	7.1	7.6	1.1	8.6	3.0
40歳以上65歳未満	956	20.6	7.9	4.2	1.3	8.3	5.2
65歳以上75歳未満	336	4.2	1.2	1.5	0.3	7.1	2.7
75歳以上	633	1.7	0.5	0.3	0.0	0.8	0.6

(単位:%)	n	自営業・家業の手伝いなどで働いている	福祉施設・障害福祉サービス事業所に通っている	大学・専門学校などに通っている	職業訓練校(職業能力開発センター等)に通っている	ハローワーク等に通って求職活動をしている	自宅で家事をしている
全体	2,493	5.5	8.9	1.5	0.1	1.0	<b>23.9</b>
年代別							
18歳以上40歳未満	538	4.3	20.6	6.3	0.4	1.3	10.8
40歳以上65歳未満	956	6.1	9.0	0.3	0.0	1.5	<b>23.3</b>
65歳以上75歳未満	336	7.4	3.0	0.3	0.3	0.9	<b>38.1</b>
75歳以上	633	4.9	1.9	0.0	0.0	0.0	<b>28.0</b>

(単位:%)	n	育児をしている	休職中	その他	特に決まった予定はない	無回答
全体	2,493	1.6	3.4	7.3	15.2	10.3
年代別						
18歳以上40歳未満	538	3.5	3.9	6.3	4.6	5.2
40歳以上65歳未満	956	2.3	4.6	6.0	7.5	5.4
65歳以上75歳未満	336	0.0	3.6	9.2	22.3	8.3
75歳以上	633	0.0	0.8	9.2	32.2	22.4

年代別にみると、“18歳以上40歳未満”と“40歳以上65歳未満”では「(職場に障害を開示して)正社員・正職員として働いている」が2割を超えて高くなっています。

“40歳以上65歳未満”、“65歳以上75歳未満”、“75歳以上”では「自宅で家事をしている」が2割を超えて最も高く、特に“65歳以上75歳未満”では38.1%と3割半ばを超えています。

また、“65歳以上75歳未満”と“75歳以上”では「特に決まった予定はない」が2割を超えており、特に“75歳以上”では3割を超えています。

## 【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	(職場に障害を 開示して)正社 員・正職員とし て働いている	(職場に障害を 開示せず)正社 員・正職員とし て働いている	(職場に障害を 開示して)契約 社員として働 いている	(職場に障害を 開示せず)契約 社員として働 いている	(職場に障害を 開示して)パート・アルバイトな どで働いている	(職場に障害を 開示せず)パート・アルバイトな どで働いている
全体	2,493	13.7	4.9	3.6	0.8	6.3	3.2
障害別							
肢体不自由	320	12.5	0.9	1.9	0.0	2.8	0.9
音声・言語・そしゃく機能障害	87	11.5	0.0	2.3	0.0	3.4	0.0
視覚障害	163	13.5	3.1	3.7	0.6	3.1	1.2
聴覚・平衡機能障害	153	11.1	0.0	2.6	0.0	5.2	0.0
内部障害	324	12.0	3.1	0.9	0.0	4.9	3.1
知的障害	256	9.8	0.8	10.5	0.8	8.2	0.4
発達障害	263	15.6	4.9	9.1	1.1	9.9	6.8
精神障害	626	9.6	5.6	5.0	0.8	8.8	4.8
高次脳機能障害	40	<b>22.5</b>	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
難病（特定疾病）	817	19.3	7.8	1.2	1.3	5.6	3.5
問12に該当する方	658	10.5	4.6	4.4	1.1	6.1	3.6
その他	42	4.8	2.4	0.0	2.4	2.4	4.8

(単位:%)	n	自営業・家業 の手伝いなど で働いている	福祉施設・障害 福祉サービス 事業所等に 通っている	大学・専門学 校などに通っ ている	職業訓練校(職 業能力開発セ ンター等)に 通っている	ハローワーク等 に通って求職 活動をしてい る	自宅で家事を している
全体	2,493	5.5	8.9	1.5	0.1	1.0	<b>23.9</b>
障害別							
肢体不自由	320	4.4	7.8	2.2	0.0	0.3	<b>23.4</b>
音声・言語・そしゃく機能障害	87	5.7	<b>13.8</b>	1.1	1.1	1.1	11.5
視覚障害	163	4.3	3.7	3.7	0.0	0.6	<b>20.2</b>
聴覚・平衡機能障害	153	4.6	3.9	0.7	0.0	0.7	<b>32.0</b>
内部障害	324	7.4	1.5	1.2	0.0	0.6	<b>27.8</b>
知的障害	256	0.0	<b>50.0</b>	0.0	0.0	0.8	5.1
発達障害	263	2.7	<b>18.6</b>	5.3	1.1	1.9	13.7
精神障害	626	5.1	11.8	1.4	0.2	2.2	<b>27.3</b>
高次脳機能障害	40	7.5	10.0	0.0	0.0	2.5	15.0
難病（特定疾病）	817	7.8	0.9	1.3	0.0	0.7	<b>25.5</b>
問12に該当する方	658	3.6	18.1	1.5	0.2	1.5	<b>19.3</b>
その他	42	0.0	14.3	2.4	0.0	0.0	<b>23.8</b>

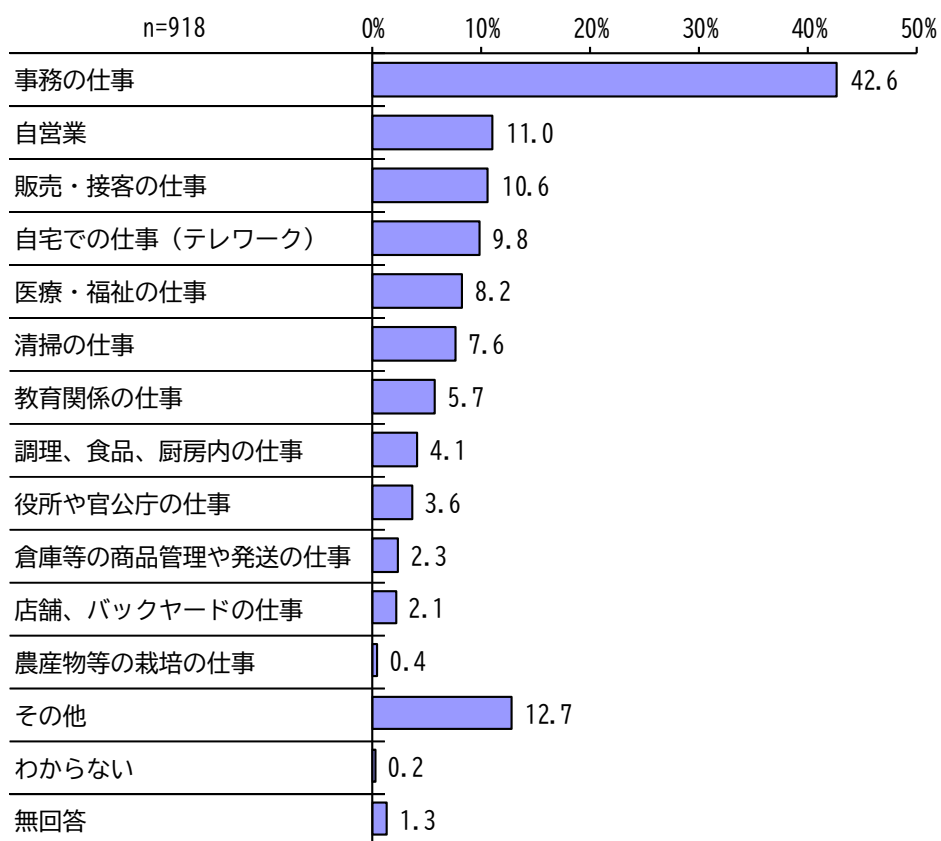
(単位:%)	n	育児をしてい る	休職中	その他	特に決まった 予定はない	無回答
全体	2,493	1.6	3.4	7.3	15.2	10.3
障害別						
肢体不自由	320	0.3	1.6	9.4	23.1	15.6
音声・言語・そしゃく機能障害	87	0.0	2.3	9.2	32.2	14.9
視覚障害	163	0.0	1.2	9.8	26.4	12.9
聴覚・平衡機能障害	153	0.0	0.7	7.2	24.8	15.7
内部障害	324	0.9	2.8	9.0	21.9	10.2
知的障害	256	0.0	0.4	4.7	4.7	7.8
発達障害	263	0.8	4.6	9.5	7.2	5.3
精神障害	626	2.2	8.3	9.4	11.7	4.6
高次脳機能障害	40	0.0	2.5	12.5	17.5	15.0
難病（特定疾病）	817	2.7	1.5	6.4	13.6	10.5
問12に該当する方	658	0.9	5.2	10.6	13.5	8.1
その他	42	0.0	4.8	11.9	28.6	7.1

障害別にみると、「高次脳機能障害」では「(職場に障害を開示して)正社員・正職員として働いている」が2割を超えて最も高くなっています。

「音声・言語・そしゃく機能障害」、「知的障害」、「発達障害」では「福祉施設・障害福祉サービス事業所等に通っている」が最も高く、特に「知的障害」では5割となっています。

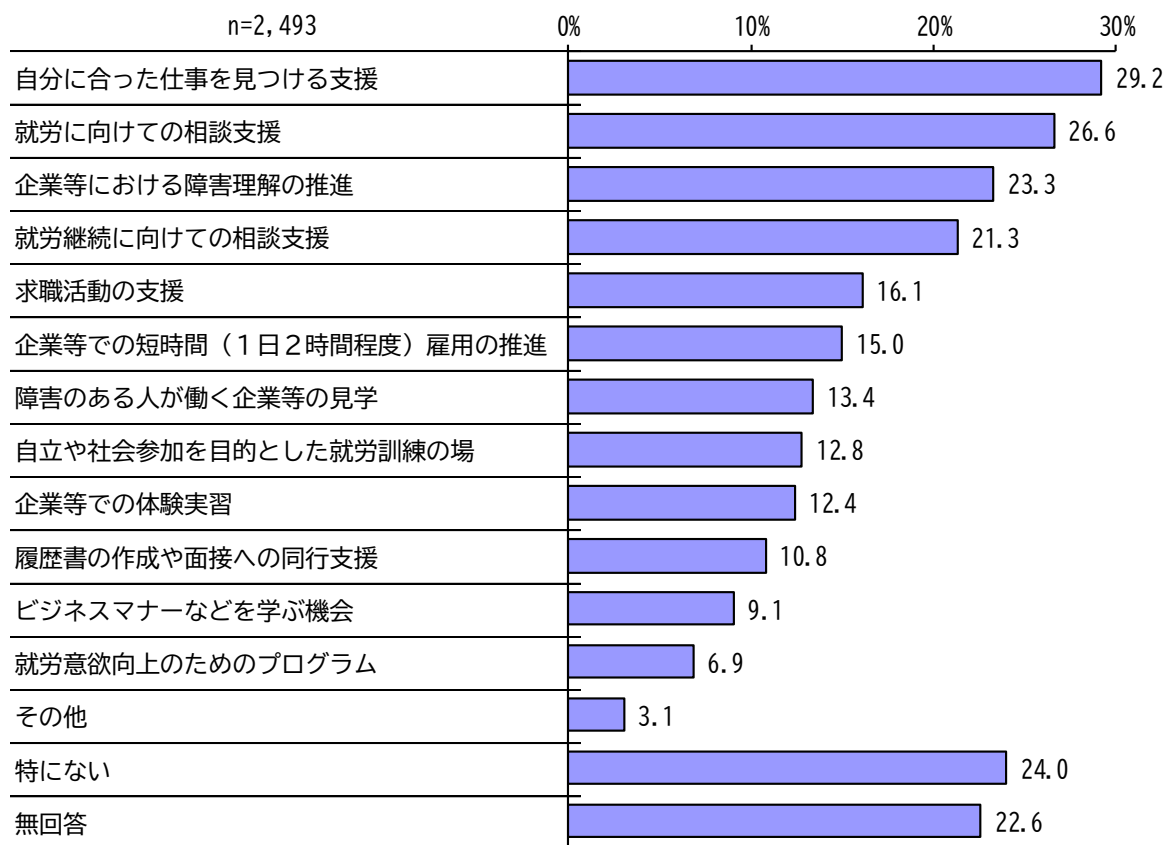
それ以外の障害では「自宅で家事をしている」が最も高くなっています。

#### (4-2)(仕事をしている方について)仕事の内容(問 28-2)



仕事の内容は、「事務の仕事」が42.6%と4割を超えて最も高く、次いで「自営業」が11.0%、「販売・接客の仕事」が10.6%、「自宅での仕事 (テレワーク)」が9.8%、「医療・福祉の仕事」が8.2%と続いています。

#### (4-3)一般就労のために希望する支援(問 29)



一般就労のために希望する支援は、「自分に合った仕事を見つける支援」が29.2%と3割近くで最も高く、次いで「就労に向けての相談支援」が26.6%、「企業等における障害理解の推進」が23.3%、「就労継続に向けての相談支援」が21.3%と2割を超えて続いています。

一方、「特にない」は24.0%と2割を超えています。

【クロス集計】年代別・障害別

	n	就労に向けての相談支援	就労継続に向けての相談支援	障害のある人が働く企業等の見学	企業等での体験実習	自立や社会参加を目的とした就労訓練の場	就労意欲向上のためのプログラム	求職活動の支援	自分に合った仕事を見つける支援	
(単位:%)										
全体	2,493	26.6	21.3	13.4	12.4	12.8	6.9	16.1	<b>29.2</b>	
年代別	18歳以上40歳未満	538	39.0	36.8	26.0	23.0	19.1	10.6	22.9	<b>41.3</b>
	40歳以上65歳未満	956	31.5	25.9	14.7	13.1	13.9	8.6	20.1	<b>33.2</b>
	65歳以上75歳未満	336	20.8	11.0	8.3	7.7	11.6	4.5	13.1	<b>27.1</b>
	75歳以上	633	11.5	6.6	3.0	4.4	6.3	3.0	5.8	<b>14.1</b>
障害別	肢体不自由	320	<b>18.1</b>	10.9	7.8	6.9	6.9	2.8	9.1	16.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	<b>28.7</b>	18.4	9.2	6.9	14.9	10.3	6.9	25.3
	視覚障害	163	<b>20.9</b>	11.7	8.0	7.4	9.8	6.1	14.1	20.2
	聴覚・平衡機能障害	153	18.3	18.3	7.8	6.5	11.8	3.3	10.5	<b>20.9</b>
	内部障害	324	20.7	12.0	7.4	6.2	8.3	2.8	15.1	<b>23.1</b>
	知的障害	256	30.1	26.6	16.8	20.7	19.5	9.4	14.1	<b>39.8</b>
	発達障害	263	43.7	42.6	33.5	28.9	24.7	14.4	26.6	<b>48.7</b>
	精神障害	626	39.6	36.4	24.6	21.2	19.3	11.8	26.4	<b>40.1</b>
	高次脳機能障害	40	<b>30.0</b>	22.5	20.0	12.5	20.0	5.0	7.5	<b>30.0</b>
	難病（特定疾病） その他	817 42	20.8 <b>33.3</b>	15.3 23.8	6.5 9.5	6.7 9.5	8.6 11.9	4.5 11.9	12.5 21.4	23.1 23.8

	n	ビジネスマナーなどを学ぶ機会	履歴書の作成や面接への同行支援	企業等での短時間（1日2時間程度）雇用の推進	企業等における障害理解の推進	その他	特になし	無回答	
(単位:%)									
全体	2,493	9.1	10.8	15.0	23.3	3.1	24.0	22.6	
年代別	18歳以上40歳未満	538	19.0	21.4	21.9	36.2	5.0	13.2	11.0
	40歳以上65歳未満	956	10.5	12.6	18.1	27.5	3.7	22.6	14.1
	65歳以上75歳未満	336	3.3	5.7	11.6	17.3	0.3	30.1	25.0
	75歳以上	633	1.7	2.1	5.7	8.8	2.1	32.9	43.1
障害別	肢体不自由	320	3.1	5.0	6.9	16.3	2.8	30.6	32.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	9.2	8.0	4.6	17.2	4.6	28.7	21.8
	視覚障害	163	8.0	9.8	10.4	19.6	1.8	32.5	27.0
	聴覚・平衡機能障害	153	5.2	5.9	9.2	<b>20.9</b>	2.6	25.5	34.0
	内部障害	324	1.9	4.0	9.6	17.0	2.8	31.8	25.6
	知的障害	256	15.2	15.6	15.6	27.3	3.5	16.4	18.0
	発達障害	263	23.6	27.8	25.5	41.4	5.3	12.2	10.6
	精神障害	626	16.1	22.0	24.8	34.3	4.2	14.4	13.6
	高次脳機能障害	40	5.0	5.0	5.0	25.0	2.5	15.0	25.0
	難病（特定疾病） その他	817 42	5.3 9.5	4.8 9.5	13.6 19.0	19.5 23.8	2.9 4.8	28.2 31.0	25.1 14.3

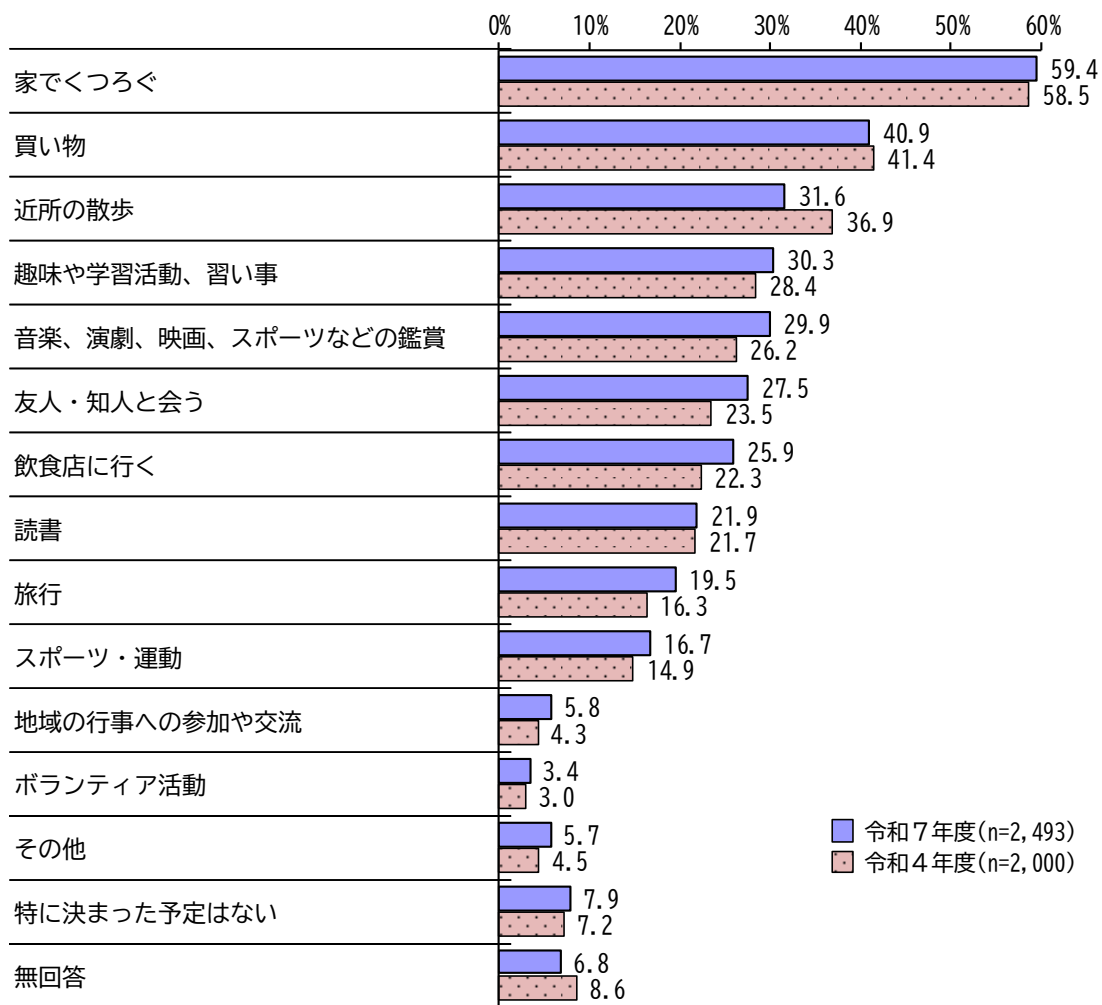
年代別にみると、いずれの年代でも、「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。  
 “18歳以上40歳未満”では、「就労に向けての相談支援」、「就労継続に向けての相談支援」、「企業等における障害理解の推進」が3割を超えて、他の年代より高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「就労に向けての相談支援」か「自分に合った仕事を見つける支援」が最も高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では「企業等における障害理解の推進」も最も高くなっています。

また、“発達障害”では「就労に向けての相談支援」、「就労継続に向けての相談支援」、「自分に合った仕事を見つける支援」、「企業等における障害理解の推進」で4割を超えて、他の障害より高くなっています。

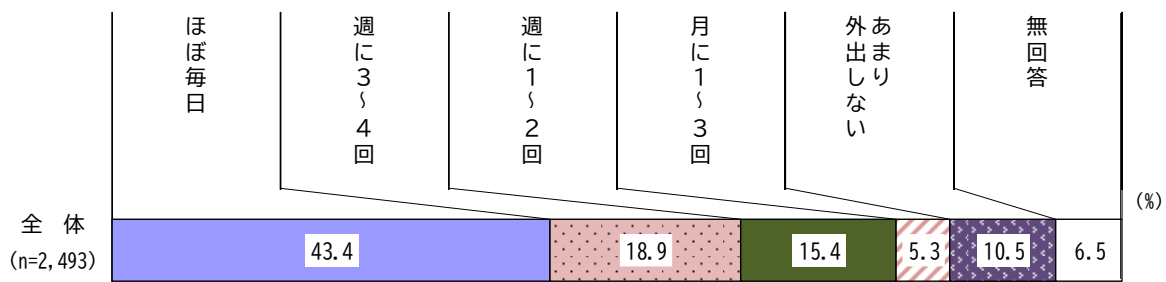
(4-4)休日の過ごし方(問 30)



休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が 59.4%と約6割で最も高く、次いで「買い物」が 40.9%、「近所の散歩」が 31.6%、「趣味や学習活動、習い事」が 30.3%と3割を超えて続いています。一方、「特に決まった予定はない」は 7.9%となっています。

令和4年度と比較すると、全体的な傾向にあまり変化ありませんが、「近所の散歩」が 5.3ポイント下がっています。

(4-5)外出の頻度(問31)



外出の頻度は、「ほぼ毎日」が43.4%と4割を超えて最も高く、次いで「週に3~4回」が18.9%、「週に1~2回」が15.4%、「あまり外出しない」が10.5%と続いています。

【クロス集計】障害別

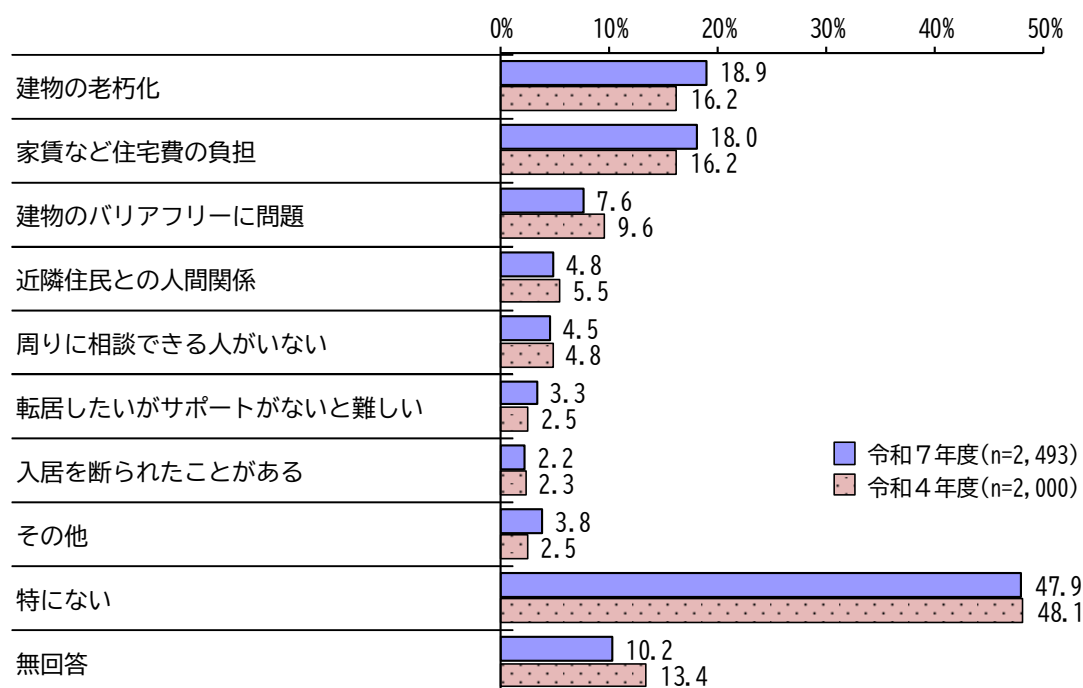
(単位:%)	n	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	あまり外出しない	無回答
全体	2,493	<b>43.4</b>	18.9	15.4	5.3	10.5	6.5
障害別							
肢体不自由	320	<b>25.0</b>	20.9	16.3	7.2	20.6	10.0
音声・言語・そしゃく機能障害	87	<b>25.3</b>	14.9	21.8	6.9	20.7	10.3
視覚障害	163	<b>33.7</b>	24.5	14.1	9.2	11.0	7.4
聴覚・平衡機能障害	153	<b>33.3</b>	17.6	21.6	5.9	12.4	9.2
内部障害	324	<b>43.5</b>	20.1	14.8	4.6	11.7	5.2
知的障害	256	<b>48.0</b>	9.0	19.9	7.4	10.2	5.5
発達障害	263	<b>48.3</b>	17.1	17.5	4.2	9.5	3.4
精神障害	626	<b>45.0</b>	20.3	14.2	5.8	10.4	4.3
高次脳機能障害	40	<b>37.5</b>	12.5	7.5	15.0	17.5	10.0
難病(特定疾病)	817	<b>49.3</b>	17.0	14.2	3.9	9.3	6.2
問12に該当する方	658	<b>39.5</b>	15.5	16.3	8.1	13.1	7.6
その他	42	<b>40.5</b>	19.0	7.1	7.1	21.4	4.8

障害別にみると、いずれの障害でも「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

“肢体不自由”、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“その他”では、「あまり外出しない」が2割を超えて、他の障害より高くなっています。

## (5) 住まいについて

### (5-1) 住まいでの困りごと(問 34)



住まいでの困りごとは、「建物の老朽化」が18.9%、「家賃など住宅費の負担」が18.0%と1割半ばを超えて高く、次いで「建物のバリアフリーに問題」が7.6%と続いています。

一方、「特にない」は47.9%と4割半ばを超えています。

令和4年度と比較すると、全体的な傾向にあまり変化はありませんが、「建物の老朽化」が2.7ポイント上がっており、「建物のバリアフリーに問題」が2.0ポイント下がっています。

【クロス集計】同居家族別・障害別

(単位:%)	n	建物のバリアフリーに問題	建物の老朽化	家賃など住宅費の負担	近隣住民との人間関係	転居したいがサポートがないと難しい
全体	2,493	7.6	<b>18.9</b>	18.0	4.8	3.3
同居家族別						
家族等と同居	1,664	8.3	<b>19.0</b>	13.5	4.5	2.1
ひとり暮らし	680	6.2	20.6	<b>29.9</b>	5.9	6.5
グループホーム等での集団生活	102	7.8	7.8	<b>8.8</b>	3.9	2.0
その他	70	7.1	12.9	<b>17.1</b>	2.9	1.4
障害別						
肢体不自由	320	<b>17.8</b>	16.9	11.6	2.5	1.9
音声・言語・そしゃく機能障害	87	16.1	<b>19.5</b>	12.6	3.4	1.1
視覚障害	163	9.2	<b>19.6</b>	16.6	4.3	2.5
聴覚・平衡機能障害	153	7.2	<b>24.2</b>	8.5	5.2	0.7
内部障害	324	8.6	<b>18.5</b>	12.7	2.8	2.2
知的障害	256	5.5	<b>12.1</b>	10.2	4.7	1.6
発達障害	263	3.0	20.9	<b>31.6</b>	7.6	8.0
精神障害	626	5.6	24.9	<b>30.2</b>	10.4	8.1
高次脳機能障害	40	5.0	<b>22.5</b>	15.0	0.0	2.5
難病（特定疾病）	817	7.8	<b>17.6</b>	15.5	2.4	1.5
問12に該当する方	658	7.8	24.0	<b>24.6</b>	8.8	7.0
その他	42	11.9	<b>23.8</b>	7.1	4.8	7.1

(単位:%)	n	周りに相談できる人がいない	入居を断られたことがある	その他	特にない	無回答
全体	2,493	4.5	2.2	3.8	47.9	10.2
同居家族別						
家族等と同居	1,664	3.4	0.8	3.1	51.4	10.2
ひとり暮らし	680	7.8	5.3	5.4	40.0	7.8
グループホーム等での集団生活	102	2.0	1.0	3.9	52.0	18.6
その他	70	4.3	4.3	4.3	48.6	14.3
障害別						
肢体不自由	320	3.4	1.9	3.4	45.0	15.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	3.4	2.3	1.1	54.0	6.9
視覚障害	163	4.9	6.7	4.3	50.9	10.4
聴覚・平衡機能障害	153	0.7	0.0	3.9	48.4	13.7
内部障害	324	2.5	1.2	2.8	52.8	10.5
知的障害	256	2.7	1.2	1.2	59.4	13.7
発達障害	263	9.9	3.4	6.1	38.8	8.4
精神障害	626	11.2	5.1	6.4	32.9	7.7
高次脳機能障害	40	0.0	2.5	2.5	42.5	15.0
難病（特定疾病）	817	1.5	0.6	2.8	53.4	8.9
問12に該当する方	658	10.3	3.8	5.9	36.2	9.1
その他	42	9.5	4.8	14.3	47.6	7.1

同居家族別にみると、“家族と同居”では、「建物の老朽化」が19.0%と最も高くなっています。

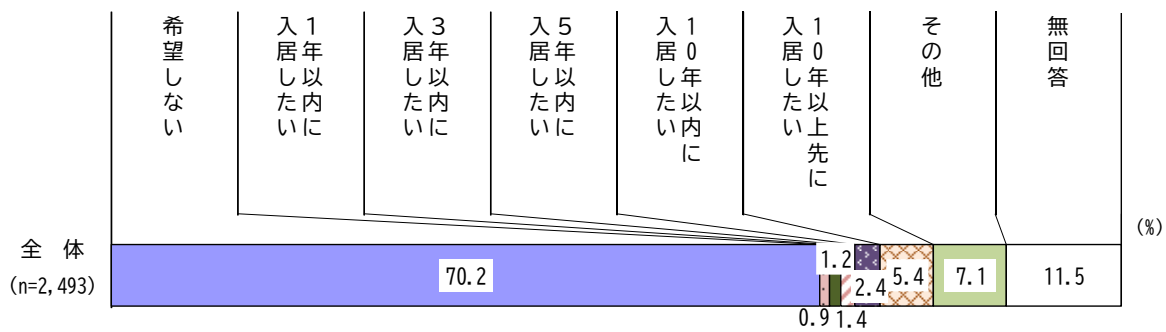
それ以外ではいずれも「家賃など住宅費の負担」が最も高く、特に“ひとり暮らし”は約3割となっています。

障害別にみると、“肢体不自由”では「建物のバリアフリーに問題」が最も高くなっています。

“発達障害”、“精神障害”、“問12に該当する方”では、「家賃など住宅費の負担」が最も高く、特に“発達障害”と“精神障害”では3割を超えています。

それ以外の障害では「建物の老朽化」が最も高くなっています。

(5-2)グループホームへの入居希望(問 36)



グループホームへの入居希望は、「希望しない」が70.2%と7割を占めて最も高く、次いで「10年以上先に入居したい」が5.4%、「10年以内に入居したい」が2.4%と続いています。

【クロス集計】年代別・同居家族別・障害別

(単位:%)	n	希望しない	1年以内に入居したい	3年以内に入居したい	5年以内に入居したい	10年以内に入居したい	10年以上先に入居したい	その他	無回答
全体	2,493	70.2	0.9	1.2	1.4	2.4	5.4	7.1	11.5
年代別									
18歳以上40歳未満	538	65.4	1.3	2.0	2.6	4.6	8.7	8.4	6.9
40歳以上65歳未満	956	75.2	0.6	0.9	0.5	1.2	6.1	6.2	9.3
65歳以上75歳未満	336	75.0	0.0	0.0	0.6	2.4	5.1	7.1	9.8
75歳以上	633	64.5	1.4	1.4	2.4	2.2	1.9	7.3	19.0
同居家族別									
家族等と同居	1,664	70.3	0.8	1.2	1.7	3.1	5.9	6.4	10.6
ひとり暮らし	680	76.5	0.9	1.2	1.0	1.0	5.1	4.3	10.0
その他	70	72.9	0.0	2.9	0.0	1.4	1.4	8.6	12.9
障害別									
肢体不自由	320	66.6	0.3	1.6	0.9	1.9	4.4	8.4	15.9
音声・言語・そしゃく機能障害	87	66.7	1.1	2.3	0.0	3.4	10.3	8.0	8.0
視覚障害	163	73.6	1.2	1.2	0.6	2.5	1.8	4.3	14.7
聴覚・平衡機能障害	153	64.7	1.3	0.7	1.3	2.0	4.6	8.5	17.0
内部障害	324	75.3	0.9	0.6	1.5	2.8	4.9	3.7	10.2
知的障害	256	25.4	2.0	4.7	4.7	11.3	15.2	22.3	14.5
発達障害	263	65.0	2.3	2.3	2.3	4.9	8.7	6.1	8.4
精神障害	626	76.2	1.1	1.3	1.0	1.8	4.5	7.2	7.0
高次脳機能障害	40	65.0	2.5	2.5	0.0	0.0	2.5	12.5	15.0
難病(特定疾病)	817	77.0	0.9	0.2	1.1	0.7	5.5	4.3	10.3
問12に該当する方	658	62.6	1.2	1.8	2.0	3.2	7.4	11.4	10.3
その他	42	64.3	2.4	0.0	2.4	4.8	0.0	19.0	7.1

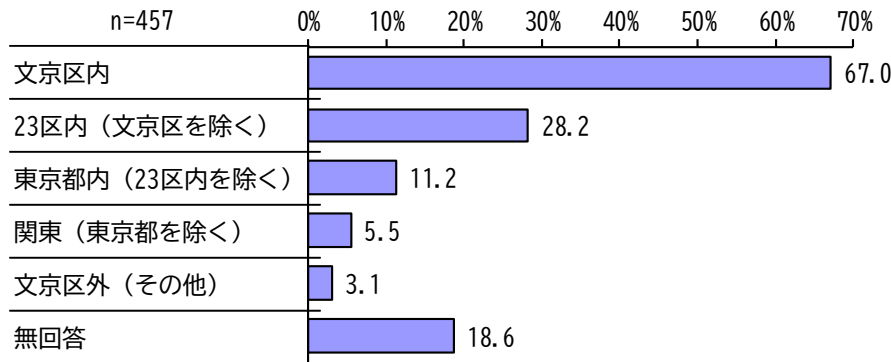
年代別にみると、いずれの年代でも「希望しない」が最も高く、特に“40歳以上65歳未満”と“65歳以上75歳未満”で7割半ばを占めています。

同居家族別にみると、“家族と同居”、“ひとり暮らし”、“その他”では、「希望しない」が7割を超えて最も高くなっています。

障害別にみると、いずれの障害でも「希望しない」が最も高くなっています。

“知的障害”では、「10年以内に入居したい」、「10年以上先に入居したい」が1割を超えて、他の障害より高くなっています。

### (5-3)希望するグループホームの所在地(問 36-1)



希望するグループホームの所在地は、「文京区内」が67.0%と6割半ばを超えて最も高く、次いで「23区内 (文京区を除く)」が28.2%、「東京都内 (23区内を除く)」が11.2%、「関東 (東京都を除く)」が5.5%と続いています。

#### 【クロス集計】年代別・同居家族別・障害別

(単位:%)	n	文京区内	23区内(文京区を除く)	東京都内(23区内を除く)	関東(東京都を除く)	文京区外(その他)	無回答
全体	457	67.0	28.2	11.2	5.5	3.1	18.6
年代別							
18歳以上40歳未満	149	73.2	42.3	14.1	4.0	2.0	13.4
40歳以上65歳未満	148	62.2	25.7	11.5	8.8	4.7	18.2
65歳以上75歳未満	51	74.5	13.7	3.9	5.9	3.9	15.7
75歳以上	105	61.9	19.0	10.5	2.9	1.9	26.7
同居家族別							
家族等と同居	317	70.7	31.2	11.0	5.0	2.8	17.7
ひとり暮らし	92	67.4	23.9	13.0	5.4	2.2	17.4
グループホーム等での集団生活	55	43.6	16.4	5.5	5.5	5.5	30.9
その他	10	60.0	20.0	20.0	20.0	10.0	10.0
障害別							
肢体不自由	56	62.5	19.6	8.9	3.6	5.4	25.0
音声・言語・そしゃく機能障害	22	72.7	31.8	9.1	9.1	4.5	13.6
視覚障害	19	63.2	15.8	15.8	5.3	0.0	15.8
聴覚・平衡機能障害	28	60.7	17.9	7.1	0.0	3.6	28.6
内部障害	47	74.5	27.7	19.1	4.3	2.1	12.8
知的障害	154	71.4	29.9	9.1	3.9	2.6	17.5
発達障害	70	68.6	45.7	18.6	4.3	0.0	18.6
精神障害	105	64.8	34.3	16.2	5.7	5.7	18.1
高次脳機能障害	8	87.5	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5
難病 (特定疾病)	104	62.5	25.0	8.7	8.7	2.9	18.3
問12に該当する方	178	69.7	30.3	14.0	4.5	2.8	18.0
その他	12	66.7	33.3	16.7	0.0	8.3	8.3

年代別にみると、いずれの年代でも「文京区内」が6割を超えて最も高くなっています。

“18歳以上40歳未満”では、「23区内 (文京区を除く)」が4割を超えて、他の年代より高くなっています。

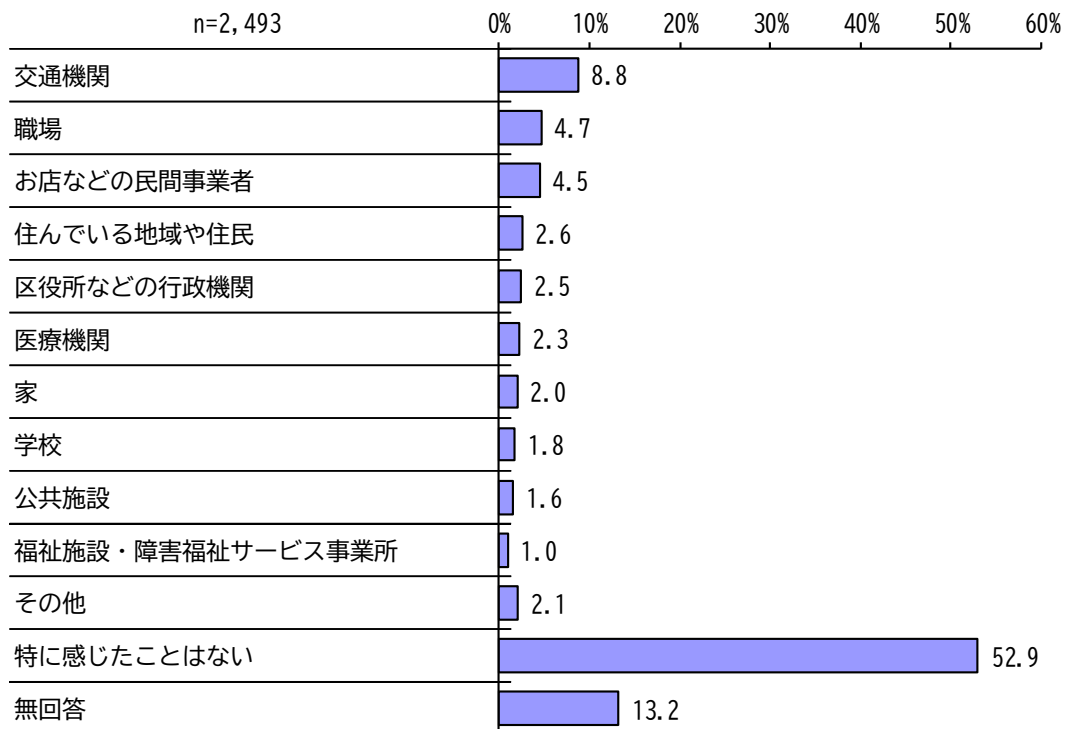
同居家族別にみると、いずれも“文京区内”が最も高く、特に“家族等と同居”では7割を超えています。

障害別にみると、いずれの障害でも「文京区内」が6割を超えて最も高くなっています。

“発達障害”では、「23区内 (文京区を除く)」が4割半ばを超えて、他の障害より高くなっています。

## (6) 権利擁護・差別解消について

### (6-1) 地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面(問 39)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「交通機関」が 8.8%と最も高く、次いで「職場」が 4.7%、「お店などの民間事業者」が 4.5%と続いています。

一方、「特に関心したことはない」は 52.9%と 5 割を超えています。

## 【クロス集計】障害別

	n	家	職場	福祉施設・ 障害福祉 サービス事 業所	お店など の民間事 業者	住んでいる 地域や住 民	公共施設	区役所な どの行政 機関
(単位:%)								
全体	2,493	2.0	4.7	1.0	4.5	2.6	1.6	2.5
障害別								
肢体不自由	320	0.6	1.6	0.9	5.9	2.2	1.9	3.8
音声・言語・そしゃく機能障害	87	1.1	0.0	0.0	<b>11.5</b>	1.1	4.6	3.4
視覚障害	163	1.8	1.2	0.0	9.8	2.5	3.1	3.1
聴覚・平衡機能障害	153	1.3	2.0	0.7	<b>10.5</b>	4.6	0.7	3.9
内部障害	324	1.9	1.9	0.9	1.9	0.9	0.9	2.8
知的障害	256	1.2	2.7	2.0	6.3	3.9	4.3	1.6
発達障害	263	5.7	<b>11.0</b>	1.9	4.2	3.8	3.8	5.7
精神障害	626	4.5	<b>10.2</b>	2.1	3.4	4.5	1.6	4.0
高次脳機能障害	40	2.5	5.0	0.0	<b>12.5</b>	0.0	0.0	2.5
難病（特定疾病）	817	0.7	3.2	0.4	4.4	1.5	1.0	1.5
その他	42	4.8	<b>7.1</b>	4.8	2.4	4.8	0.0	4.8

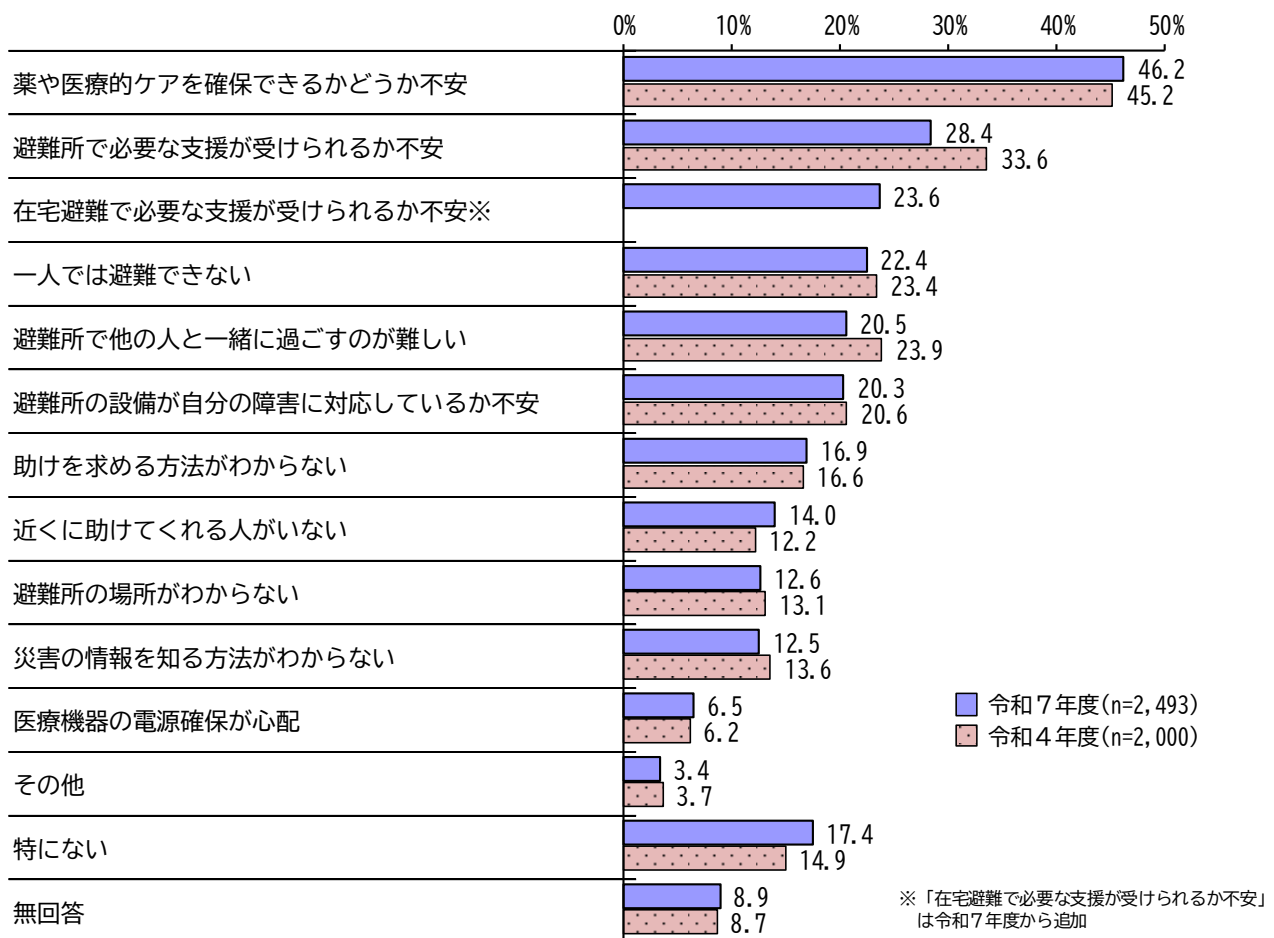
	n	医療機関	交通機関	学校	その他	特に感じた ことはない	無回答
(単位:%)							
全体	2,493	2.3	<b>8.8</b>	1.8	2.1	52.9	13.2
障害別							
肢体不自由	320	1.3	<b>11.9</b>	1.6	1.6	51.6	15.3
音声・言語・そしゃく機能障害	87	5.7	8.0	1.1	3.4	51.7	8.0
視覚障害	163	3.1	<b>11.0</b>	1.8	1.8	50.3	10.4
聴覚・平衡機能障害	153	0.0	7.8	1.3	1.3	51.0	15.0
内部障害	324	1.9	<b>8.3</b>	1.2	2.5	63.9	11.1
知的障害	256	3.9	<b>7.0</b>	5.1	2.3	46.1	13.7
発達障害	263	2.7	8.0	5.3	1.9	34.2	11.8
精神障害	626	4.2	8.5	1.4	3.8	40.7	11.2
高次脳機能障害	40	2.5	<b>12.5</b>	0.0	5.0	42.5	15.0
難病（特定疾病）	817	0.7	<b>10.5</b>	2.0	1.2	58.9	14.1
その他	42	4.8	<b>7.1</b>	0.0	4.8	45.2	9.5

障害別にみると、“発達障害”、“精神障害”、“その他”では「職場」が、“音声・言語・そしゃく機能障害”、“聴覚・平衡機能障害”、“高次脳機能障害”では「お店などの民間事業者」が最も高くなっています。

それ以外の障害ではいずれも「交通機関」が最も高くなっています。

## (7) 災害対策について

### (7-1) 災害発生時の困りごと(問 43)



災害発生時の困りごとは、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が46.2%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が28.4%、「在宅避難で必要な支援が受けられるか不安」が23.6%、「一人では避難できない」が22.4%と続いています。

一方、「特になし」は17.4%となっています。

令和4年度と比較すると、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が5.2ポイント、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が3.4ポイント下がっています。

## 【クロス集計】障害別

	n	災害の情報を知る方法がわからない	助けを求める方法がわからない	避難所の場所がわからない	近くに助けしてくれる人がいない	一人では避難できない	避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安	
(単位:%)									
全体	2,493	12.5	16.9	12.6	14.0	22.4	20.3	28.4	
障害別	肢体不自由	320	9.7	14.4	9.1	15.3	<b>44.7</b>	34.7	36.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	14.9	26.4	10.3	13.8	<b>47.1</b>	35.6	43.7
	視覚障害	163	19.6	22.7	20.2	16.6	<b>46.6</b>	28.2	32.5
	聴覚・平衡機能障害	153	20.9	19.6	11.8	9.8	22.9	25.5	30.1
	内部障害	324	7.1	12.3	10.2	12.7	18.8	21.6	29.3
	知的障害	256	29.3	36.3	22.3	14.1	<b>54.7</b>	28.5	39.1
	発達障害	263	20.5	28.9	18.6	19.4	21.7	24.0	31.9
	精神障害	626	12.3	20.0	16.3	20.0	16.6	21.6	33.1
	高次脳機能障害	40	12.5	25.0	15.0	20.0	35.0	37.5	37.5
	難病（特定疾病）	817	8.6	12.2	8.4	11.5	16.2	14.2	23.3
	問12に該当する方	658	17.2	24.0	17.9	19.0	30.1	25.8	38.3
	その他	42	16.7	21.4	16.7	31.0	33.3	28.6	35.7

	n	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	在宅避難で必要な支援が受けられるか不安	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	医療機器の電源確保が心配	その他	特にない	無回答	
(単位:%)									
全体	2,493	20.5	23.6	<b>46.2</b>	6.5	3.4	17.4	8.9	
障害別	肢体不自由	320	16.6	28.1	42.5	10.0	4.1	12.5	11.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	87	21.8	31.0	43.7	13.8	5.7	13.8	5.7
	視覚障害	163	17.2	33.1	35.0	4.3	1.8	13.5	8.6
	聴覚・平衡機能障害	153	18.3	26.8	<b>34.0</b>	11.8	7.8	18.3	9.2
	内部障害	324	13.3	25.9	<b>54.0</b>	10.5	4.3	21.0	6.8
	知的障害	256	37.5	28.5	28.5	6.6	1.6	14.1	8.6
	発達障害	263	38.4	24.7	<b>43.0</b>	7.2	4.9	17.1	6.1
	精神障害	626	32.6	23.6	<b>54.0</b>	4.6	4.0	14.9	8.0
	高次脳機能障害	40	22.5	32.5	<b>40.0</b>	2.5	12.5	7.5	10.0
	難病（特定疾病）	817	13.5	21.5	<b>55.6</b>	6.5	2.6	17.4	7.6
	問12に該当する方	658	34.7	26.9	<b>52.6</b>	5.9	4.0	12.0	9.3
	その他	42	31.0	21.4	<b>38.1</b>	16.7	7.1	19.0	4.8

障害別にみると、「肢体不自由」、「音声・言語・そしゃく機能」、「視覚障害」、「知的障害」では、「一人では避難できない」が最も高く、特に「知的障害」では54.7%と5割半ば近くで他の障害より高くなっています。

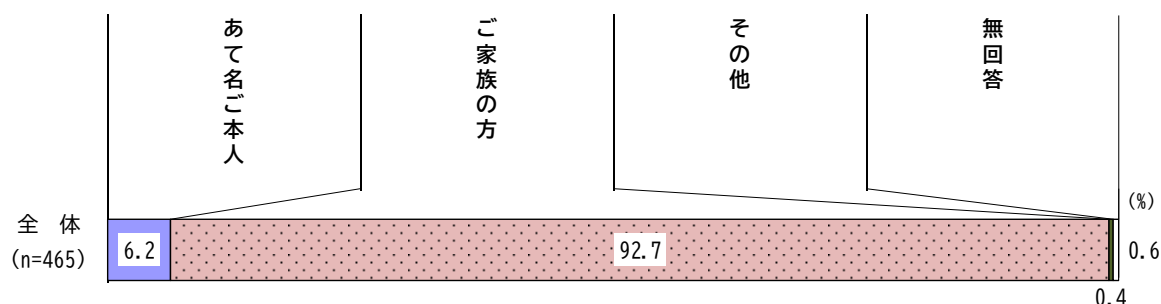
それ以外の障害ではいずれも「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が最も高くなっています。

また、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」、「在宅避難で必要な支援が受けられるか不安」、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」はいずれの障害でも2割を超えて高くなっています。

## ○ 18歳未満の方を対象にした調査

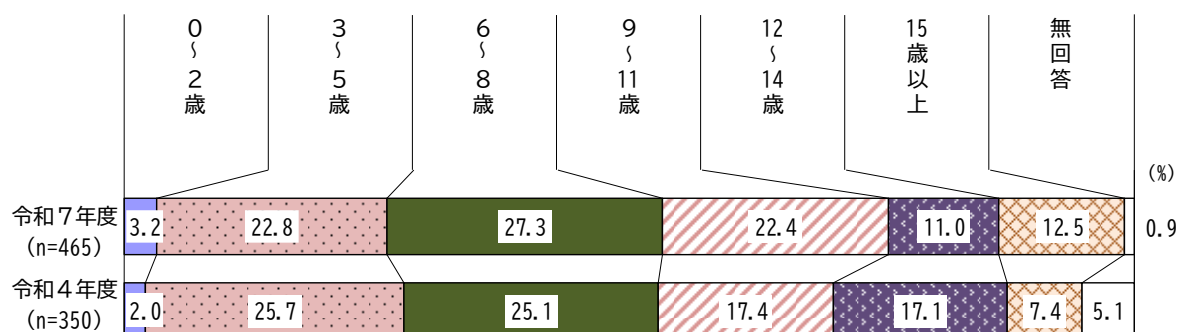
### (1) 対象者特性

#### (1-1) 回答者(問1)



調査の回答者は、「ご家族の方」が92.7%と9割を超えており、「あて名ご本人」は6.2%となっています。

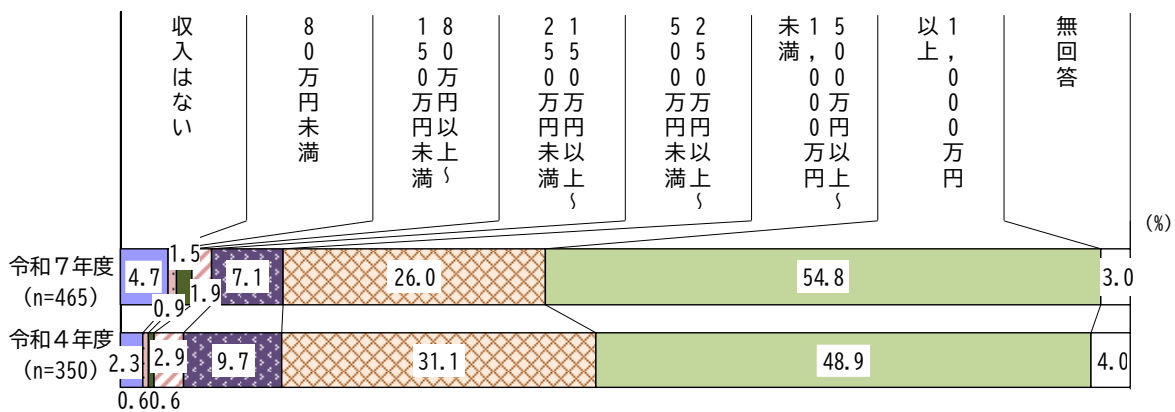
#### (1-2) 年齢(問2)



障害者本人の年齢は、「6～8歳」が27.3%、「3～5歳」が22.8%、「9～11歳」が22.4%と2割を超えており、次いで「15歳以上」が12.5%、「12～14歳」が11.0%、「0～2歳」が3.2%と続いています。

令和4年度と比較すると、「15歳以上」が5.1ポイント、「9～11歳」が5.0ポイント上がっており、反対に「12～14歳」が6.1ポイント下がっています。

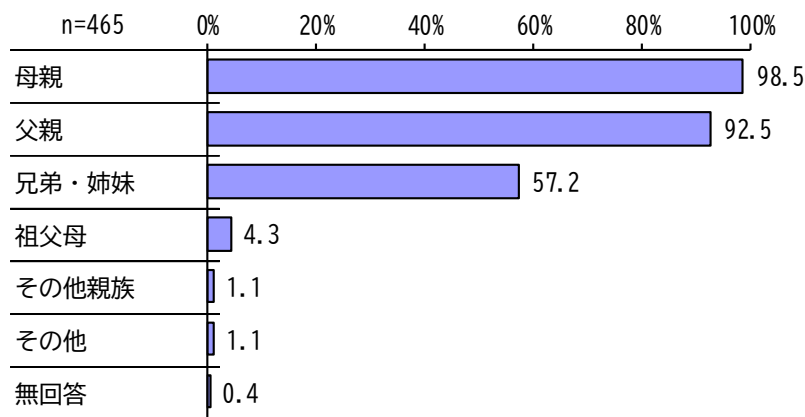
### (1-3)世帯主の年収(問3)



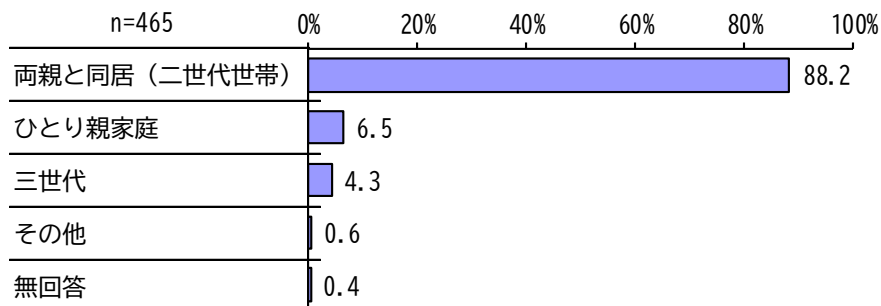
世帯年収は、「1,000万円以上」が54.8%と5割を超えて最も高く、次いで「500万円以上～1,000万円未満」が26.0%と続いており、500万円以上で全体の8割を占めています。

令和4年度と比較すると、「1,000万円以上」が5.9ポイント上がっており、反対に「250万円以上～500万円未満」が5.1ポイント下がっています。

### (1-4)同居家族(問4)

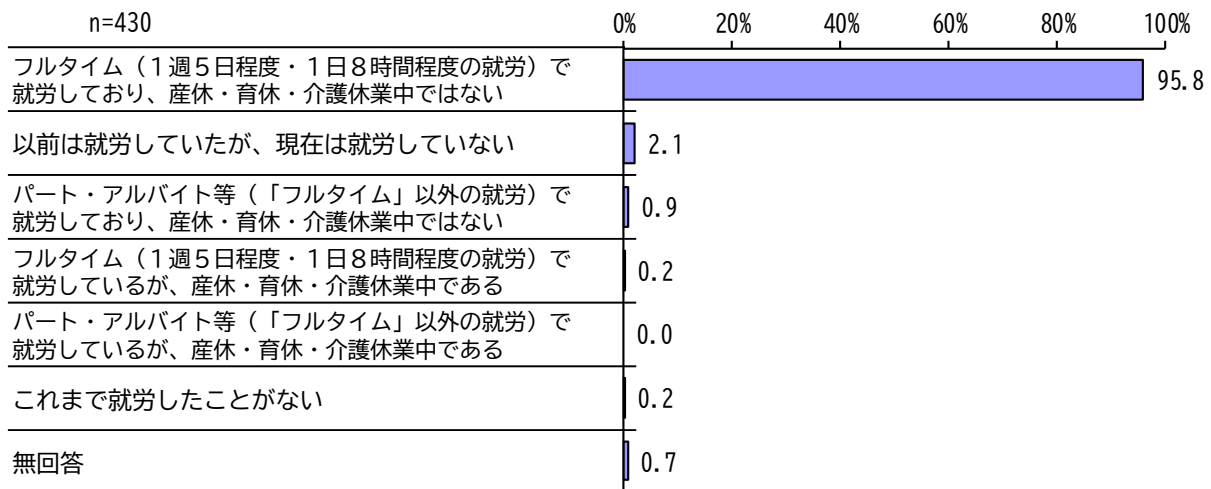


同居している家族は、「母親」が98.5%と9割半ばを超えて最も高く、次いで「父親」が92.5%、「兄弟・姉妹」が57.2%と続いています。



同居家族の世帯を4区分に分けてみると、「両親と同居 (二世帯世帯)」が88.2%と最も高くなっています。

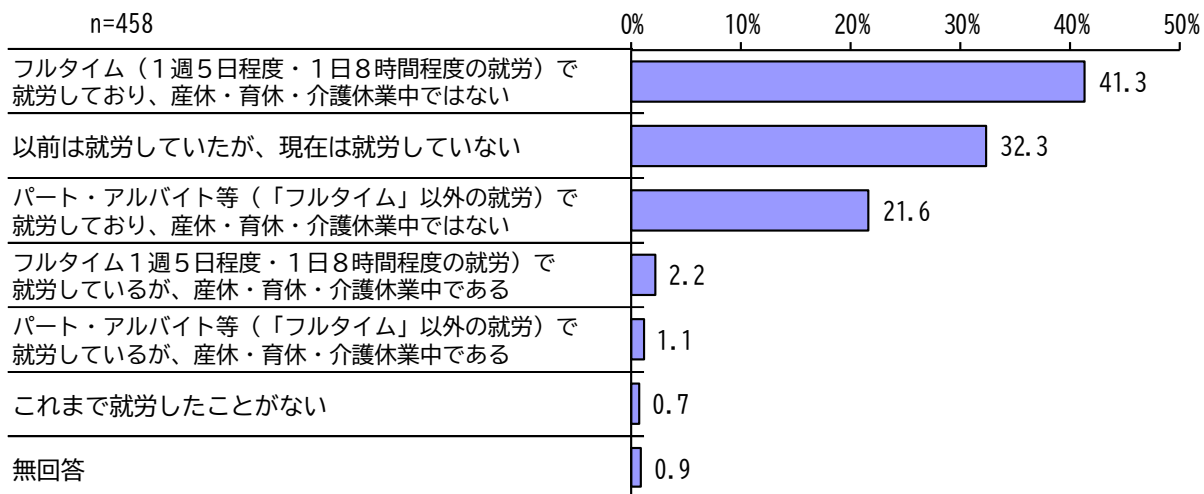
### (1-5)父親の就労状況(問 5)



父親の就労状況は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が95.8%と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が2.1%と続いています。

一方、「これまで就労したことがない」は0.2%となっています。

### (1-6)母親の就労状況(問 6)

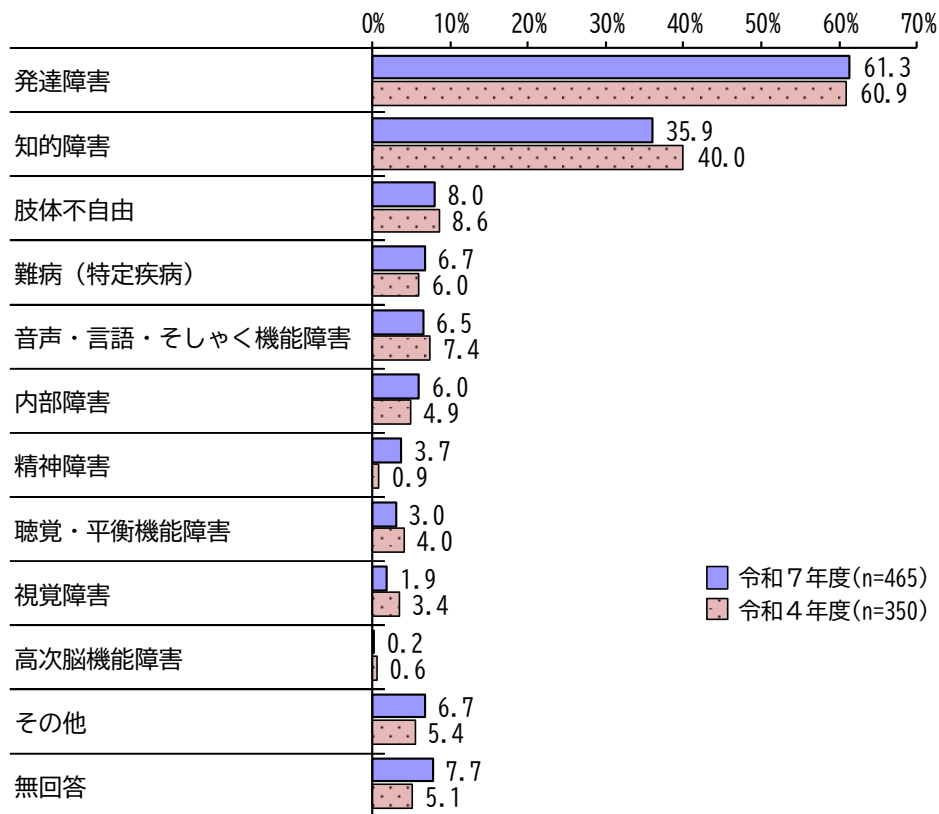


母親の就労状況は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が41.1%と4割を超えて最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が32.3%、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が21.6%と続いています。

一方、「これまで就労したことがない」は0.7%となっています。

## (2) 障害と健康について

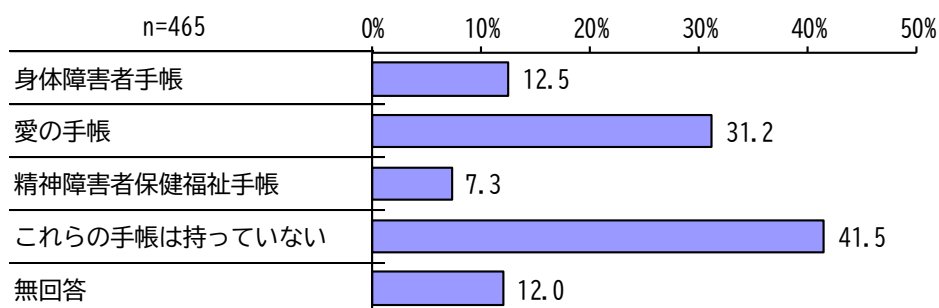
### (2-1) 障害の種類(問 7)



障害の種類は、「発達障害」が61.3%と最も高く、次いで「知的障害」が35.9%が続いています。それ以外の障害はいずれも1割を下回っています。

令和4年度と比較すると、「知的障害」で4.1ポイント下がっていますが、全体的な傾向にあまり変化はありません。

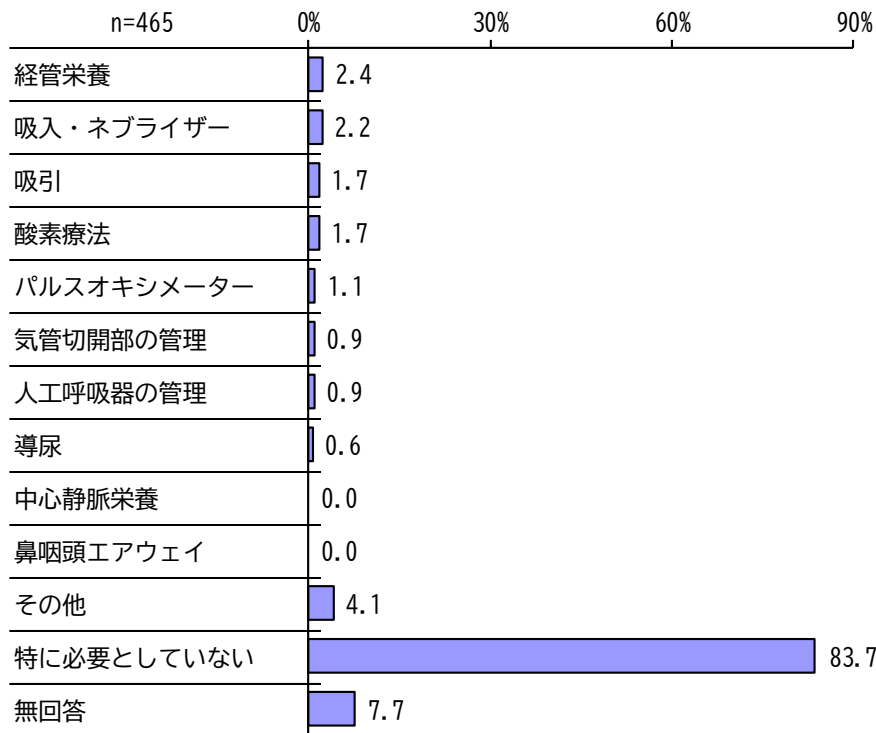
### (2-2) 手帳の所持状況(問 8)



手帳の所持状況は、「愛の手帳」が31.2%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」が12.5%、「精神障害者保健福祉手帳」が7.3%と続いています。

一方、「これらの手帳は持っていない」は41.5%と全体の4割を超えています。

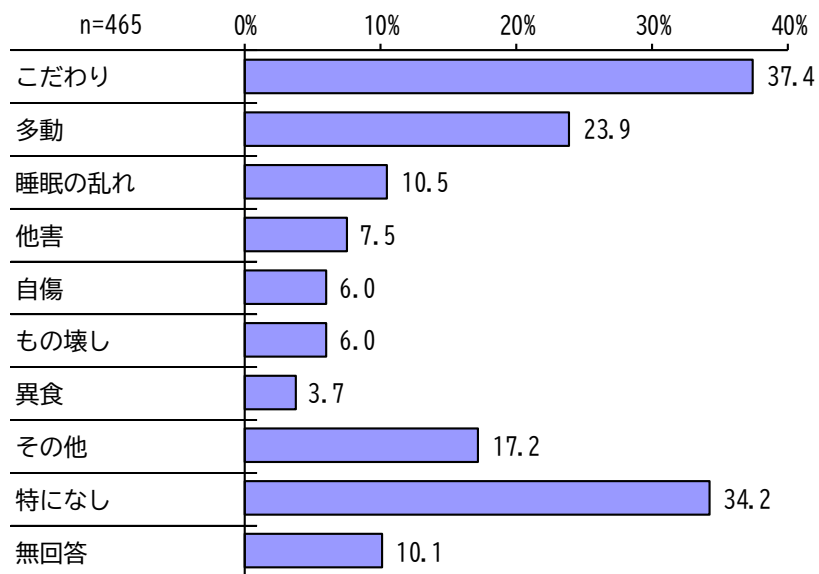
### (2-3)必要な医療的ケア(問 14)



必要とする医療的ケアは、いずれの項目でも3%を切っており、「経管栄養」と「吸入・ネブライザー」のみが2%を上回っています。

一方、「特に必要としていない」は83.7%と8割を超えています。

### (2-4)日常生活に必要な特別な配慮(問 15)

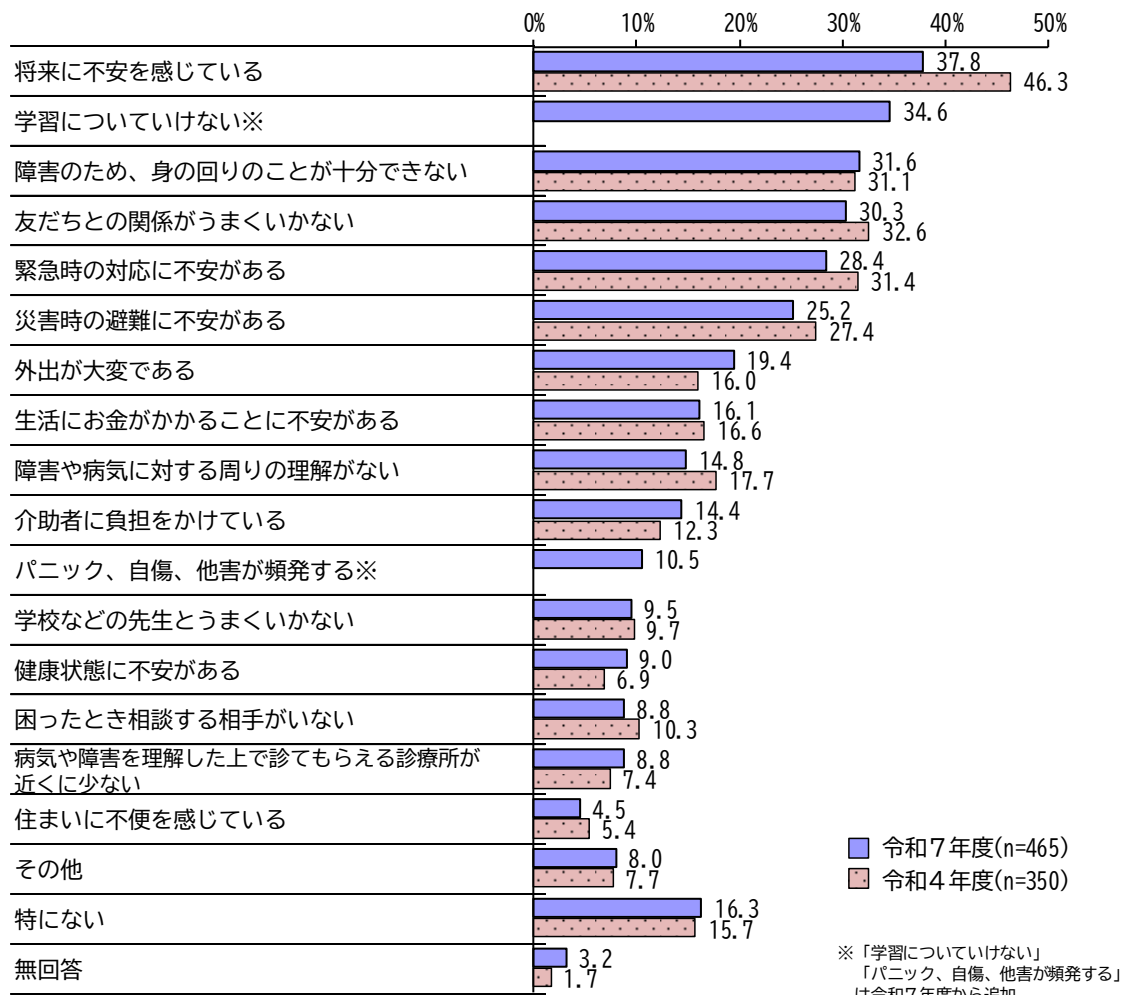


日常生活の中で特別な支援や配慮を必要とする行動面に関する課題について、「こだわり」が37.4%と3割半ばを超えて最も高く、次いで「多動」が23.9%、「睡眠の乱れ」が10.5%と続いています。

一方、「特になし」は34.2%と3割半ば近くを占めています。

### (3) 相談や福祉の情報について

#### (3-1) 日常生活で困っていること(問 18)



日常生活で困っていることは、「将来に不安を感じている」が37.8%と最も高く、次いで「学習についていけない」が34.6%、「障害のため、身の回りのことが十分できない」が31.6%、「友だちとの関係がうまくいかない」が30.3%と3割台が続いています。

一方、「特になし」は16.3%となっています。

令和4年度と比較すると、「将来に不安を感じている」は8.5ポイント下がっています。それ以外は項目によって増減がありますが、全体的な傾向にあまり変化はありません。

## 【クロス集計】障害別

(単位:%)	n	健康状態に不安がある	障害のため、身の回りのことが十分できない	介助者に負担をかけている	外出が大変である	住まいに不便を感じている	災害時の避難に不安がある	緊急時の対応に不安がある
全体	465	9.0	31.6	14.4	19.4	4.5	25.2	28.4
障害別								
肢体不自由	37	32.4	<b>64.9</b>	29.7	56.8	16.2	51.4	48.6
音声・言語・そしゃく機能障害	30	26.7	<b>56.7</b>	23.3	40.0	10.0	43.3	26.7
視覚障害	9	22.2	44.4	55.6	<b>66.7</b>	11.1	55.6	33.3
聴覚・平衡機能障害	14	21.4	35.7	14.3	0.0	0.0	42.9	<b>50.0</b>
内部障害	28	32.1	28.6	17.9	28.6	3.6	<b>42.9</b>	<b>42.9</b>
知的障害	167	14.4	<b>58.7</b>	24.6	37.7	7.2	48.5	53.9
発達障害	285	6.0	33.3	15.4	18.6	4.9	21.1	26.0
精神障害	17	11.8	<b>52.9</b>	17.6	<b>52.9</b>	17.6	47.1	<b>52.9</b>
高次脳機能障害	1	0.0	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
難病（特定疾病）	31	45.2	<b>61.3</b>	25.8	38.7	6.5	58.1	58.1
問15に該当する方	259	9.3	43.2	18.9	27.4	6.2	30.9	34.7
その他	31	16.1	29.0	16.1	19.4	3.2	29.0	25.8

(単位:%)	n	学習についていけない	学校などの先生とうまくいかない	友だちとの関係がうまくいかない	障害や病気に対する周りの理解がない	困ったとき相談する相手がいない	病気や障害を理解した上で診てもらえる診療所が近くに少ない	生活にお金がかかることに不安がある
全体	465	34.6	9.5	30.3	14.8	8.8	8.8	16.1
障害別								
肢体不自由	37	18.9	0.0	8.1	5.4	10.8	5.4	32.4
音声・言語・そしゃく機能障害	30	20.0	3.3	16.7	13.3	6.7	6.7	33.3
視覚障害	9	11.1	0.0	11.1	44.4	11.1	11.1	22.2
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	0.0	7.1	21.4	0.0	7.1	7.1
内部障害	28	28.6	7.1	17.9	14.3	10.7	10.7	25.0
知的障害	167	46.7	6.6	27.5	21.6	13.8	13.8	26.9
発達障害	285	40.0	12.6	38.6	17.5	10.5	11.2	15.8
精神障害	17	35.3	23.5	29.4	17.6	11.8	11.8	35.3
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	31	25.8	3.2	12.9	16.1	16.1	9.7	22.6
問15に該当する方	259	42.5	13.9	39.4	22.0	13.9	11.2	19.7
その他	31	32.3	9.7	32.3	6.5	9.7	12.9	9.7

(単位:%)	n	将来に不安を感じている	パニック、自傷、他害が頻発する	その他	特にない	無回答
全体	465	<b>37.8</b>	10.5	8.0	16.3	3.2
障害別						
肢体不自由	37	45.9	2.7	2.7	5.4	8.1
音声・言語・そしゃく機能障害	30	<b>56.7</b>	0.0	6.7	3.3	3.3
視覚障害	9	<b>66.7</b>	11.1	11.1	11.1	11.1
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	7.1	21.4	14.3	7.1
内部障害	28	39.3	0.0	7.1	17.9	3.6
知的障害	167	50.9	14.4	5.4	5.4	1.8
発達障害	285	<b>42.8</b>	15.4	8.8	14.0	0.4
精神障害	17	<b>52.9</b>	0.0	11.8	5.9	0.0
高次脳機能障害	1	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	31	45.2	3.2	9.7	9.7	3.2
問15に該当する方	259	<b>47.5</b>	17.8	9.7	9.3	0.4
その他	31	<b>41.9</b>	12.9	25.8	12.9	3.2

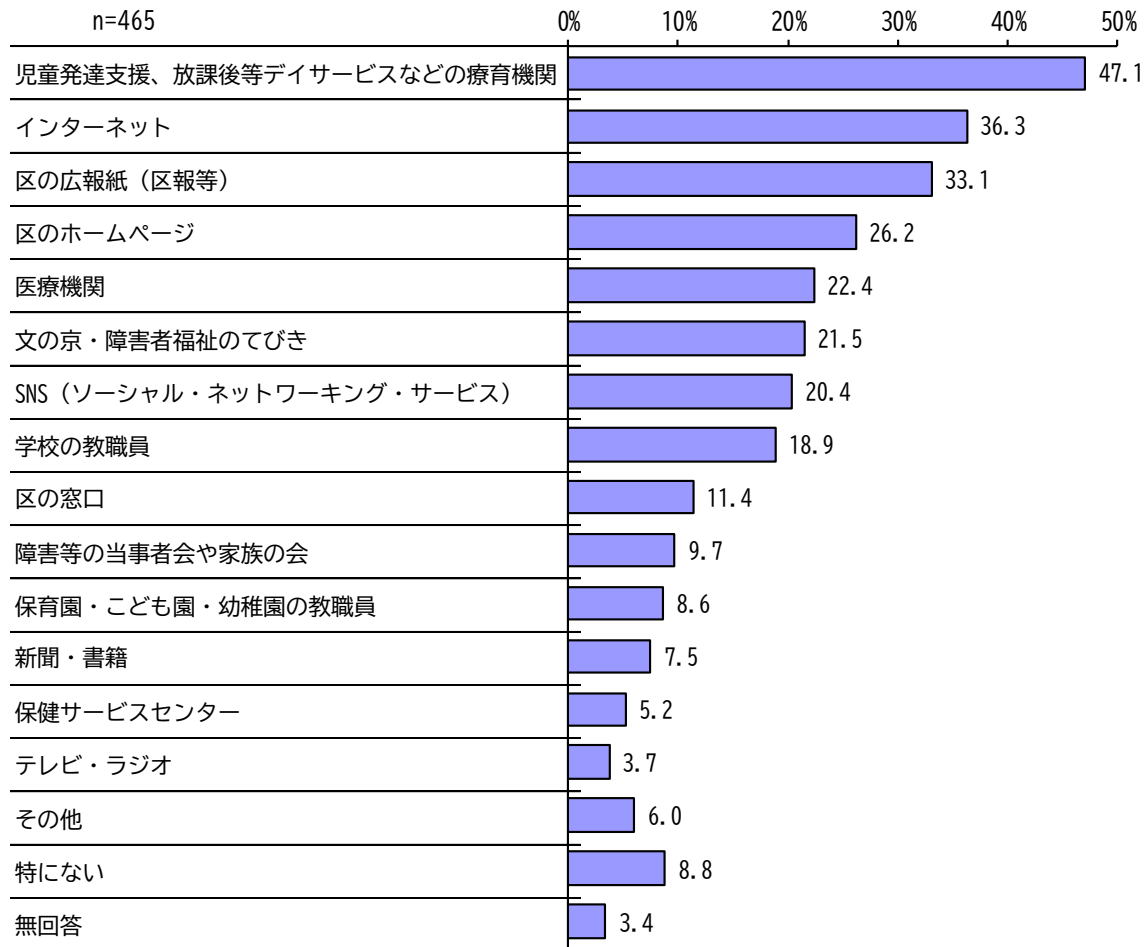
障害別にみると、いずれの障害でも「障害のため、身の回りのことが十分できない」、「災害時の避難に不安がある」、「緊急時の対応に不安がある」が2割を超えて高くなっています。

“肢体不自由”と“難病（特定疾病）”では、「障害のため、身の回りのことが十分できない」が6割を超えて、他の障害より高くなっています。

“知的障害”、“発達障害”、“問15に該当する方”では、「学習についていけない」が4割以上で、他の障害より高くなっています。

難病（特定疾病）”では「健康状態に不安がある」が4割を半ばで、他の障害より高くなっています。

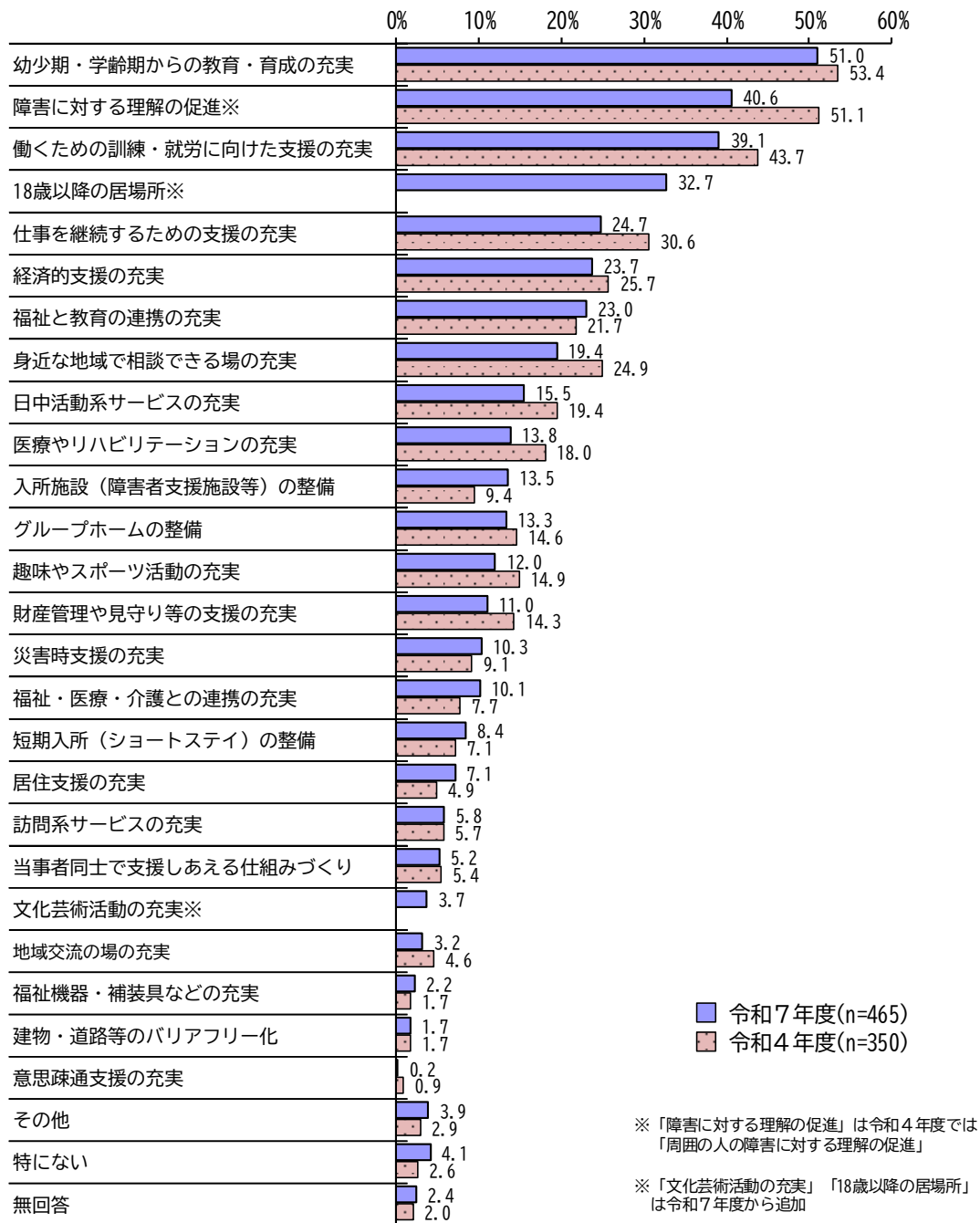
### (3-2)福祉情報の入手先(問 19)



福祉情報の入手先は、「児童発達支援、放課後等デイサービスなどの療育機関」が47.1%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「インターネット」が36.3%、「区の広報紙（区報等）」が33.1%、「区のホームページ」が26.2%と続いています。

一方、「特にない」は8.8%となっています。

### (3-3)地域で安心して暮らすために必要な施策(問 21)



地域で安心して暮らすために必要な施策は、「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が51.0%と5割を超えており、次いで「障害に対する理解の促進」が40.6%、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が39.1%、「18歳以降の居場所」32.7%と続いています。

令和4年度と比較すると、「障害に対する理解の促進」、「仕事を継続するための支援の充実」、「身近な地域で相談できる場の充実」で5ポイント以上下がっています。

## 【クロス集計】年代別

(単位:%)	n	障害に対する理解の促進	医療やリハビリテーションの充実	幼少期・学齢期からの教育・育成の充実	働くための訓練・就労に向けた支援の充実	仕事を継続するための支援の充実	身近な地域で相談できる場の充実	訪問系サービスの充実
全体	465	40.6	13.8	<b>51.0</b>	39.1	24.7	19.4	5.8
年代別								
0～2歳	15	40.0	26.7	<b>66.7</b>	20.0	6.7	20.0	20.0
3～5歳	106	38.7	20.8	<b>77.4</b>	25.5	15.1	18.9	6.6
6～8歳	127	43.3	11.0	<b>60.6</b>	43.3	26.8	23.6	0.8
9～11歳	104	43.3	10.6	48.1	<b>49.0</b>	26.0	16.3	4.8
12～14歳	51	37.3	7.8	21.6	39.2	31.4	25.5	9.8
15歳以上	58	36.2	13.8	8.6	44.8	36.2	10.3	8.6

(単位:%)	n	日中活動系サービスの充実	短期入所(ショートステイ)の整備	意思疎通支援の充実	福祉機器・補装具などの充実	グループホームの整備	入所施設(障害者支援施設等)の整備	居住支援の充実
全体	465	15.5	8.4	0.2	2.2	13.3	13.5	7.1
年代別								
0～2歳	15	20.0	13.3	0.0	6.7	13.3	6.7	0.0
3～5歳	106	9.4	5.7	0.0	0.9	3.8	6.6	4.7
6～8歳	127	11.8	6.3	0.8	2.4	15.0	15.0	3.9
9～11歳	104	21.2	9.6	0.0	1.0	13.5	9.6	9.6
12～14歳	51	17.6	11.8	0.0	5.9	15.7	19.6	9.8
15歳以上	58	22.4	12.1	0.0	1.7	25.9	27.6	13.8

(単位:%)	n	建物・道路等のバリアフリー化	当事者同士で支援しあえる仕組みづくり	文化芸術活動の充実	趣味やスポーツ活動の充実	財産管理や見守り等の支援の充実	経済的支援の充実	災害時支援の充実
全体	465	1.7	5.2	3.7	12.0	11.0	23.7	10.3
年代別								
0～2歳	15	0.0	6.7	0.0	0.0	13.3	26.7	13.3
3～5歳	106	4.7	2.8	4.7	7.5	5.7	15.1	4.7
6～8歳	127	0.0	7.1	3.1	11.8	11.8	22.8	10.2
9～11歳	104	1.9	3.8	2.9	15.4	15.4	25.0	11.5
12～14歳	51	0.0	5.9	2.0	9.8	9.8	33.3	15.7
15歳以上	58	1.7	6.9	6.9	19.0	12.1	27.6	13.8

(単位:%)	n	地域交流の場の充実	福祉・医療・介護との連携の充実	福祉と教育の連携の充実	18歳以降の居場所	その他	特になし	無回答
全体	465	3.2	10.1	23.0	32.7	3.9	4.1	2.4
年代別								
0～2歳	15	0.0	6.7	26.7	13.3	0.0	0.0	6.7
3～5歳	106	1.9	9.4	31.1	16.0	1.9	7.5	0.9
6～8歳	127	3.9	12.6	27.6	26.0	2.4	2.4	0.8
9～11歳	104	4.8	5.8	16.3	40.4	4.8	1.9	2.9
12～14歳	51	2.0	15.7	25.5	<b>51.0</b>	3.9	9.8	2.0
15歳以上	58	3.4	8.6	5.2	<b>53.4</b>	10.3	1.7	5.2

年代別にみると、0～8歳までの年代では「幼少期・学齢期からの教育・育成の充実」が最も高く、特に“3～5歳”では7割半ばを超えています。

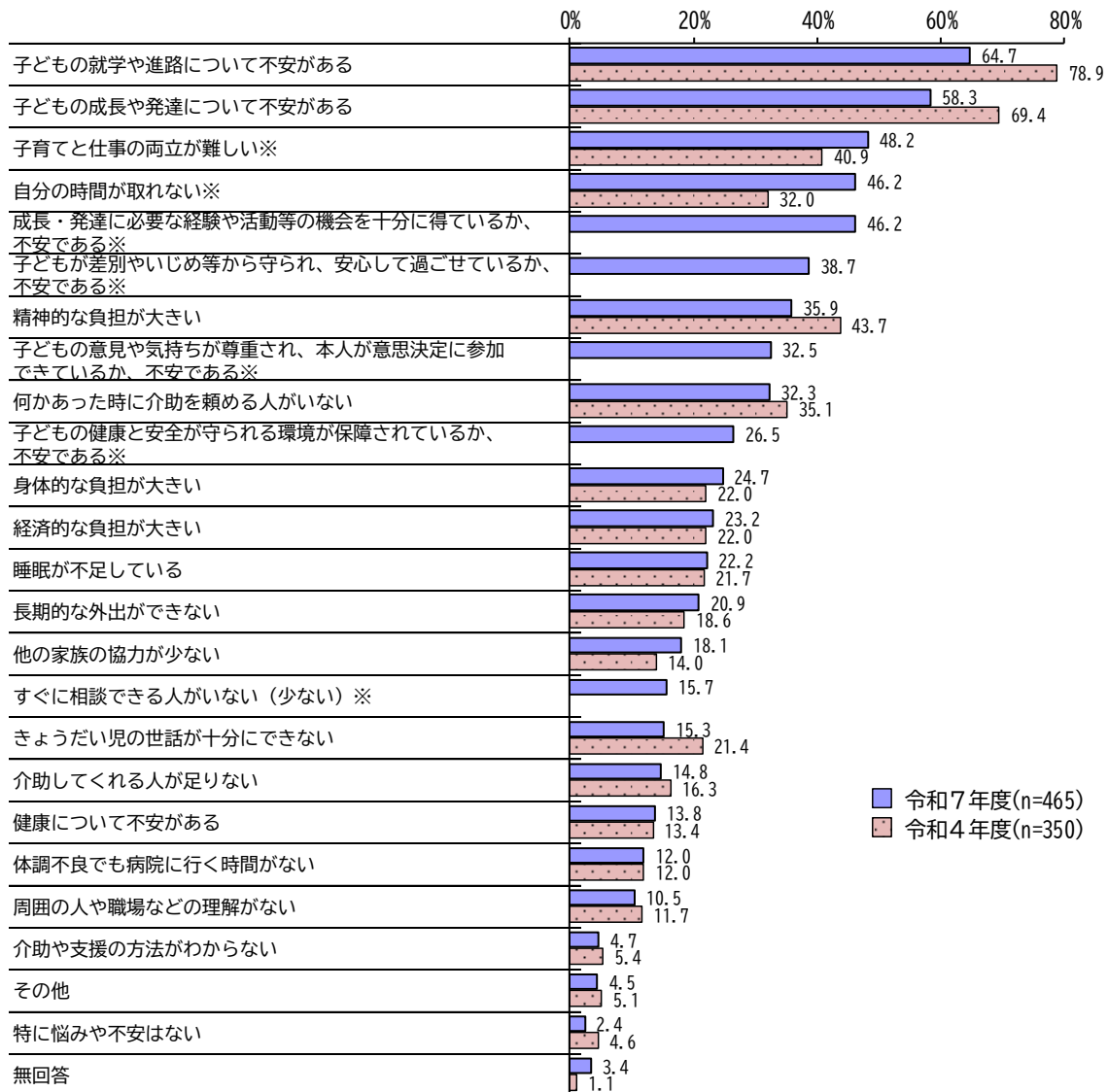
“9～11歳”では「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が最も高くなっています。

“12～14歳”と“15歳以上”では、「18歳以降の居場所」が5割を超えて最も高くなっています。

また、いずれの年代でも「障害に対する理解の促進」が3割半ばを超えており、「働くための訓練・就労に向けた支援の充実」が2割以上となっています。

## (4) 子育てにおける悩みについて

### (4-1)保護者の悩み・不安(問 23)



※「子育てと仕事の両立が難しい」は令和4年度では「仕事との両立が難しい」、「自分の時間が取れない」は令和4年度では「自分の時間が取れず、自由がない」

※「成長・発達に必要な経験や活動等の機会を十分に得ているか、不安である」「子どもが差別やいじめ等から守られ、安心して過ごせているか、不安である」「子どもの意見や気持ちが尊重され、本人が意思決定に参加できているか、不安である」「子どもの健康と安全が守られる環境が保障されているか、不安である」「すぐに相談できる人がいない(少ない)」は令和7年度から追加

保護者の悩み・不安は、「子どもの就学や進路について不安がある」が64.7%、「子どもの成長や発達について不安がある」が58.3%と、子どもの将来についての項目が他の項目と比較して高くなっています。次いで「子育てと仕事の両立が難しい」が48.2%、「自分の時間が取れない」と「成長・発達に必要な経験や活動等の機会を十分に得ているか、不安である」がともに46.2%と4割半ばを超えて続いています。

令和4年度と比較すると、項目が増えたため単純に比較はできませんが、「子どもの就学や進路について不安がある」と「子どもの成長や発達について不安がある」は変わらず上位2項目となっています。

【クロス集計】障害別

	n	介助してくれる人が足りない	何かあった時に介助を頼める人がいない	他の家族の協力が少ない	子育てと仕事の両立が難しい	長期的な外出ができない	介助や支援の方法がわからない	自分の時間が取れない
(単位:%)								
全体	465	14.8	32.3	18.1	48.2	20.9	4.7	46.2
障害別								
肢体不自由	37	35.1	<b>59.5</b>	21.6	<b>59.5</b>	43.2	0.0	56.8
音声・言語・そしゃく機能障害	30	43.3	46.7	16.7	<b>56.7</b>	23.3	0.0	36.7
視覚障害	9	22.2	33.3	11.1	<b>66.7</b>	33.3	0.0	44.4
聴覚・平衡機能障害	14	14.3	14.3	7.1	35.7	14.3	7.1	<b>57.1</b>
内部障害	28	17.9	28.6	3.6	42.9	25.0	3.6	50.0
知的障害	167	26.9	51.5	19.8	51.5	35.9	5.4	51.5
発達障害	285	14.7	34.0	20.4	53.3	20.7	6.7	51.6
精神障害	17	17.6	47.1	11.8	64.7	47.1	5.9	58.8
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	31	29.0	<b>51.6</b>	12.9	<b>51.6</b>	35.5	3.2	48.4
問15に該当する方	259	20.8	39.4	22.0	54.1	28.2	6.6	56.0
その他	31	9.7	22.6	19.4	35.5	25.8	6.5	51.6

	n	身体的な負担が大きい	健康について不安がある	体調不良でも病院に行く時間がない	睡眠が不足している	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	周囲の人や職場などの理解がない
(単位:%)								
全体	465	24.7	13.8	12.0	22.2	35.9	23.2	10.5
障害別								
肢体不自由	37	<b>59.5</b>	16.2	29.7	48.6	40.5	37.8	5.4
音声・言語・そしゃく機能障害	30	46.7	16.7	20.0	46.7	40.0	40.0	6.7
視覚障害	9	44.4	11.1	22.2	55.6	44.4	22.2	11.1
聴覚・平衡機能障害	14	28.6	7.1	21.4	35.7	28.6	14.3	7.1
内部障害	28	17.9	17.9	21.4	32.1	25.0	32.1	3.6
知的障害	167	35.9	16.8	15.6	29.3	43.1	31.7	10.8
発達障害	285	26.7	15.8	13.3	21.8	45.6	24.9	14.4
精神障害	17	35.3	23.5	29.4	23.5	52.9	47.1	11.8
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	31	48.4	25.8	16.1	45.2	41.9	38.7	9.7
問15に該当する方	259	35.1	19.3	16.2	25.5	48.6	28.2	14.7
その他	31	29.0	22.6	9.7	25.8	29.0	16.1	3.2

	n	きょうだい児の世話が十分にできない	子どもの就学や進路について不安がある	子どもの成長や発達について不安がある	すぐに相談できる人がいない(少ない)	子どもの健康と安全が守られる環境が保障されているか、不安である	成長・発達に必要な経験や活動等の機会を十分に得ているか、不安である	子どもが差別やいじめ等から守られ、安心して過ごしているか、不安である
(単位:%)								
全体	465	15.3	<b>64.7</b>	58.3	15.7	26.5	46.2	38.7
障害別								
肢体不自由	37	16.2	51.4	48.6	21.6	37.8	43.2	27.0
音声・言語・そしゃく機能障害	30	20.0	<b>56.7</b>	46.7	13.3	36.7	26.7	40.0
視覚障害	9	22.2	33.3	33.3	0.0	44.4	55.6	11.1
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	50.0	42.9	7.1	35.7	14.3	50.0
内部障害	28	17.9	<b>53.6</b>	50.0	17.9	46.4	32.1	<b>53.6</b>
知的障害	167	21.0	<b>70.1</b>	58.1	18.0	35.9	46.7	34.7
発達障害	285	18.2	<b>73.3</b>	66.3	16.5	27.0	53.0	42.8
精神障害	17	17.6	<b>70.6</b>	58.8	11.8	35.3	47.1	29.4
高次脳機能障害	1	0.0	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	0.0	0.0	0.0	0.0
難病（特定疾病）	31	9.7	<b>51.6</b>	48.4	22.6	35.5	35.5	32.3
問15に該当する方	259	20.5	<b>72.6</b>	65.6	19.3	32.4	54.8	44.4
その他	31	0.0	<b>67.7</b>	<b>67.7</b>	22.6	41.9	45.2	54.8

	n	子どもの意見 や気持ちが尊重 され、本人が 意思決定に参 加できている か、不安であ る	その他	特に悩みや 不安はない	無回答	
(単位:%)						
全体	465	32.5	4.5	2.4	3.4	
障害別	肢体不自由	37	40.5	8.1	2.7	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	43.3	3.3	3.3	3.3
	視覚障害	9	33.3	33.3	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	35.7	21.4	0.0	7.1
	内部障害	28	42.9	3.6	3.6	7.1
	知的障害	167	38.9	3.6	1.2	1.8
	発達障害	285	33.7	4.9	0.7	1.4
	精神障害	17	35.3	5.9	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	100.0	100.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	38.7	6.5	3.2	9.7
	問15に該当する方 その他	259 31	36.3 38.7	5.4 9.7	0.0 0.0	1.2 3.2

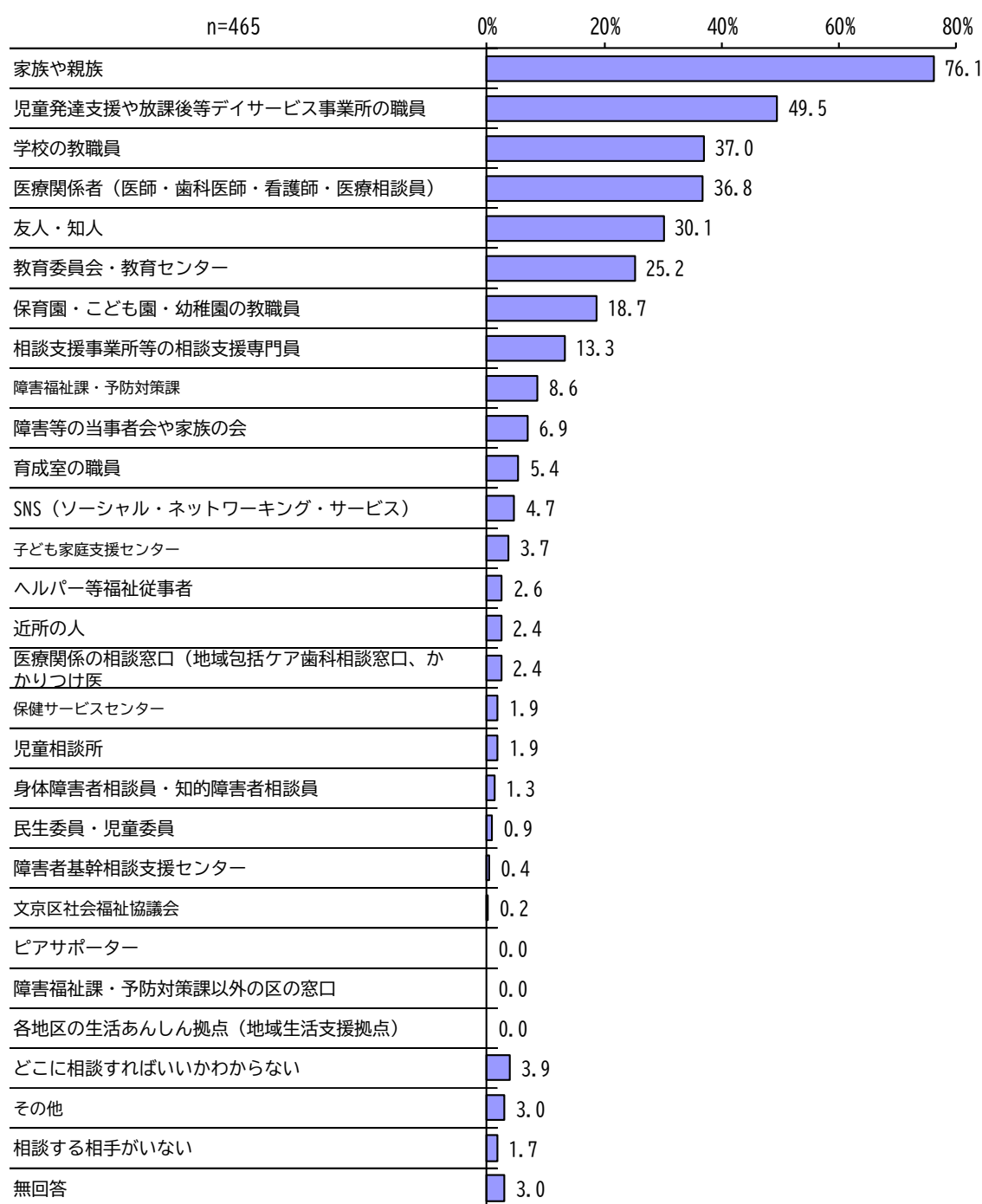
障害別にみると、いずれの障害でも「子どもの就学や進路について不安がある」が5割以上となっており、“肢体不自由”、“視覚障害”、“聴覚・平衡機能障害”以外のいずれの障害でも最も高くなっています。

また、いずれの障害でも、「子育てと仕事の両立が難しい」、「自分の時間が取れない」、「子どもの成長や発達について不安がある」、「子どもの意見や気持ちが尊重され、本人が意思決定に参加できているか、不安である」で3割を超えて高くなっています。

“肢体不自由”では、「何かあった時に介助を頼める人がいない」、「子育てと仕事の両立が難しい」、「身体的な負担が大きい」が6割近くで最も高くなっています。

“聴覚・平衡機能障害”では、「自分の時間が取れない」が5割半ばを超えて最も高くなっています。

#### (4-2)困った時の相談相手(問 24)



本人や保護者が困ったときの相談相手は、「家族や親族」が76.1%と最も高く、次いで「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が49.5%、「学校の教職員」が37.0%、「医療関係者 (医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が36.8%と続いています。

一方、「どこに相談すればいいかわからない」は3.9%、「相談する相手がない」は1.7%となっています。

## 【クロス集計】障害別

	n	家族や親族	近所の人	友人・知人	ピアサポーター	学校の教職員	保育園・幼稚園・幼稚園の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会や家族の会	
(単位:%)										
全体	465	76.1	2.4	30.1	0.0	37.0	18.7	0.9	6.9	
障害別	肢体不自由	37	70.3	0.0	21.6	0.0	24.3	10.8	0.0	18.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	66.7	0.0	10.0	0.0	30.0	16.7	0.0	13.3
	視覚障害	9	55.6	0.0	22.2	0.0	33.3	22.2	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	78.6	0.0	14.3	0.0	35.7	0.0	0.0	0.0
	内部障害	28	71.4	3.6	21.4	0.0	32.1	17.9	0.0	14.3
	知的障害	167	78.4	2.4	34.7	0.0	49.1	10.2	0.6	13.2
	発達障害	285	80.7	3.2	32.6	0.0	40.4	17.5	1.4	4.2
	精神障害	17	64.7	0.0	41.2	0.0	52.9	0.0	0.0	0.0
	高次脳機能障害	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	難病（特定疾病）	31	77.4	3.2	22.6	0.0	29.0	3.2	0.0	16.1
その他	31	74.2	0.0	16.1	0.0	16.1	38.7	0.0	0.0	

	n	身体障害者相談員・知的障害者相談員	ヘルパー等福祉従事者	児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員	相談支援事業所等の相談支援専門員	医療関係者（医師・歯科医師・看護師・医療相談員）	医療関係者の相談窓口	障害福祉課・予防対策課	障害福祉課・予防対策課以外の区の窓口	
(単位:%)										
全体	465	1.3	2.6	49.5	13.3	36.8	2.4	8.6	0.0	
障害別	肢体不自由	37	2.7	13.5	21.6	29.7	56.8	10.8	32.4	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	16.7	36.7	23.3	56.7	10.0	26.7	0.0
	視覚障害	9	0.0	11.1	33.3	11.1	44.4	0.0	11.1	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	28.6	7.1	21.4	7.1	7.1	0.0
	内部障害	28	0.0	3.6	21.4	3.6	39.3	3.6	10.7	0.0
	知的障害	167	3.6	5.4	51.5	17.4	47.9	3.6	16.2	0.0
	発達障害	285	1.8	1.1	56.8	14.4	38.2	2.5	6.3	0.0
	精神障害	17	5.9	0.0	35.3	0.0	58.8	5.9	17.6	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	0.0	16.1	38.7	19.4	54.8	6.5	25.8	0.0
その他	31	6.5	3.2	58.1	6.5	35.5	3.2	3.2	0.0	

	n	保健サービスセンター	障害者基幹相談支援センター	各地区の生活あんしん拠点(地域生活支援拠点)	子ども家庭支援センター	教育委員会・教育センター	児童相談所	文京区社会福祉協議会	育成室の職員
(単位:%)									
全体	465	1.9	0.4	0.0	3.7	25.2	1.9	0.2	5.4
障害別	肢体不自由	37	2.7	0.0	0.0	5.4	5.4	0.0	2.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	0.0	0.0	0.0	10.0	13.3	3.3	3.3
	視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0
	聴覚・平衡機能障害	14	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1
	内部障害	28	3.6	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	10.7
	知的障害	167	0.6	1.2	0.0	4.2	17.4	3.6	0.6
	発達障害	285	2.1	0.4	0.0	4.9	30.5	2.5	0.4
	精神障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	11.8	0.0
	高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病（特定疾病）	31	3.2	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0
その他	31	6.5	0.0	0.0	0.0	35.5	3.2	0.0	

	n	SNS(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)	どこに相談すればいいかわからない	その他	相談する相手がいない	無回答	
(単位:%)							
全体	465	4.7	3.9	3.0	1.7	3.0	
障害別	肢体不自由	37	8.1	8.1	5.4	2.7	5.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	30	6.7	3.3	6.7	0.0	3.3
	視覚障害	9	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1
	聴覚・平衡機能障害	14	0.0	14.3	7.1	7.1	7.1
	内部障害	28	3.6	7.1	0.0	7.1	7.1
	知的障害	167	4.2	3.6	3.0	1.2	1.8
	発達障害	285	5.6	2.1	3.9	1.1	0.7
	精神障害	17	17.6	11.8	0.0	5.9	0.0
	高次脳機能障害	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病(特定疾病)	31	9.7	9.7	3.2	0.0	9.7
	その他	31	3.2	0.0	6.5	0.0	3.2

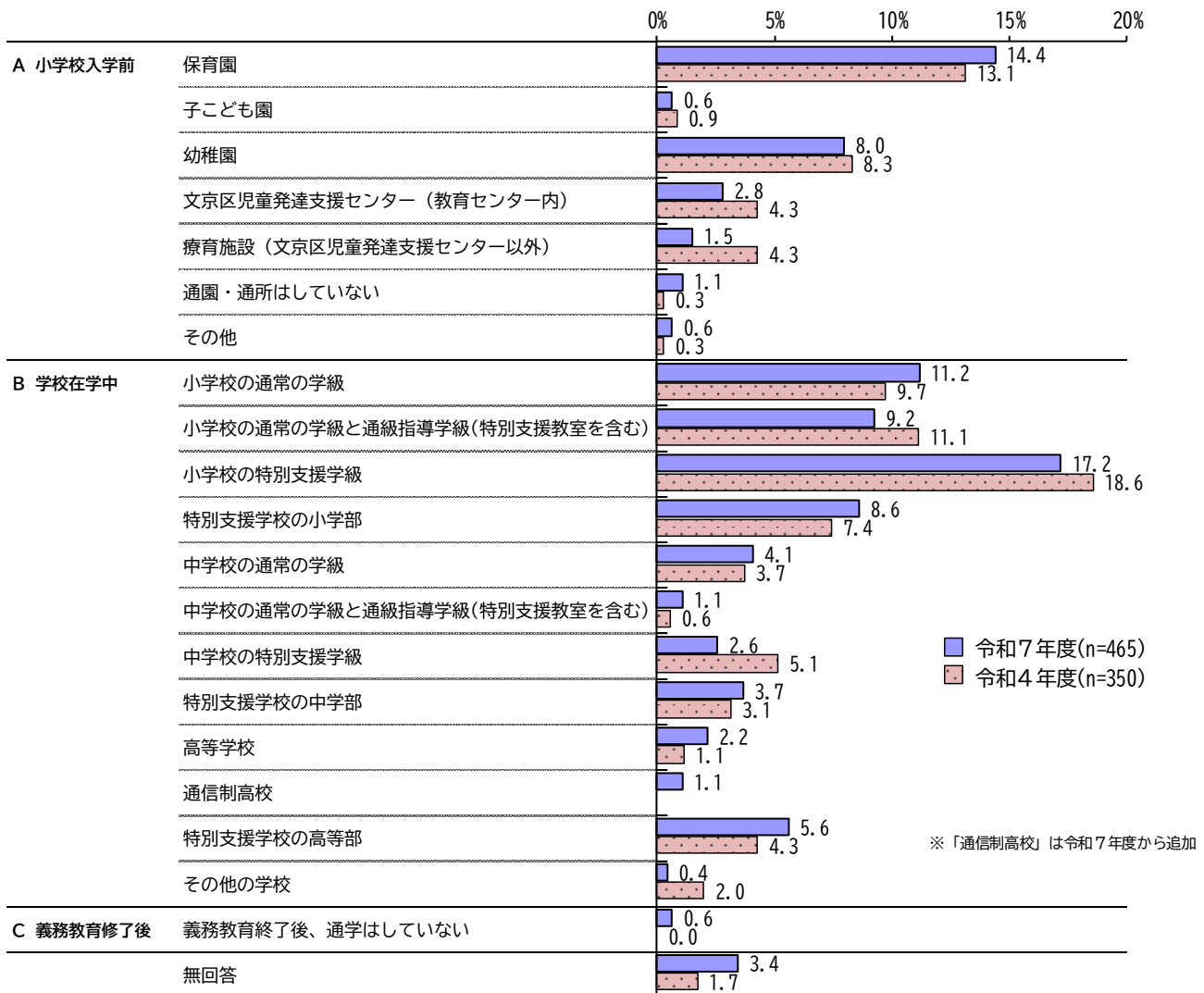
障害別にみると、いずれの障害でも「家族や親族」が6割を超えて最も高くなっています。

“知的障害”、“発達障害”、“その他”では「児童発達支援や放課後等デイサービス事業所の職員」が5割を超えて、他の障害より高くなっています。

“精神障害”では「学校の教職員」が5割を超えて、他の障害より高くなっています。

## (5) 教育・保育について

### (5-1)主な通園・通学先(問 30)



主な通園・通学先は、「小学校の特別支援学級」が17.2%と最も高く、次いで「保育園」が14.4%、「小学校の通常の学級」が11.2%と続いています。

令和4年度と比較すると、小学校入学前は、「療育施設（文京区児童発達支援センター以外）」が2.8ポイント下がっています。

学校在学中は、「中学校の特別支援学級」が2.5ポイント下がっています。

## 【クロス集計】障害別

### 【A 小学校入学前】

	合計	保育園	子ども園	幼稚園	文京区児童発達支援センター(教育センター内)	療育施設(文京区児童発達支援センター以外)	通園・通所はしていない	その他
(単位:%)								
全体	465	14.4	0.6	8.0	2.8	1.5	1.1	0.6
障害別								
肢体不自由	37	8.1	2.7	0.0	0.0	2.7	8.1	2.7
音声・言語・そしゃく機能障害	30	20.0	3.3	3.3	0.0	3.3	3.3	0.0
視覚障害	9	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	7.1	0.0	0.0	7.1	14.3	0.0	0.0
内部障害	28	21.4	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6	0.0
知的障害	167	7.8	0.0	2.4	3.6	1.2	1.8	0.6
発達障害	285	12.6	0.7	6.7	3.2	2.5	0.4	0.7
精神障害	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	31	6.5	0.0	0.0	3.2	3.2	9.7	0.0
問15に該当する方	259	13.5	0.8	7.3	3.1	1.2	1.2	0.8
その他	31	29.0	0.0	25.8	6.5	3.2	0.0	0.0

### 【B 学校在学中】

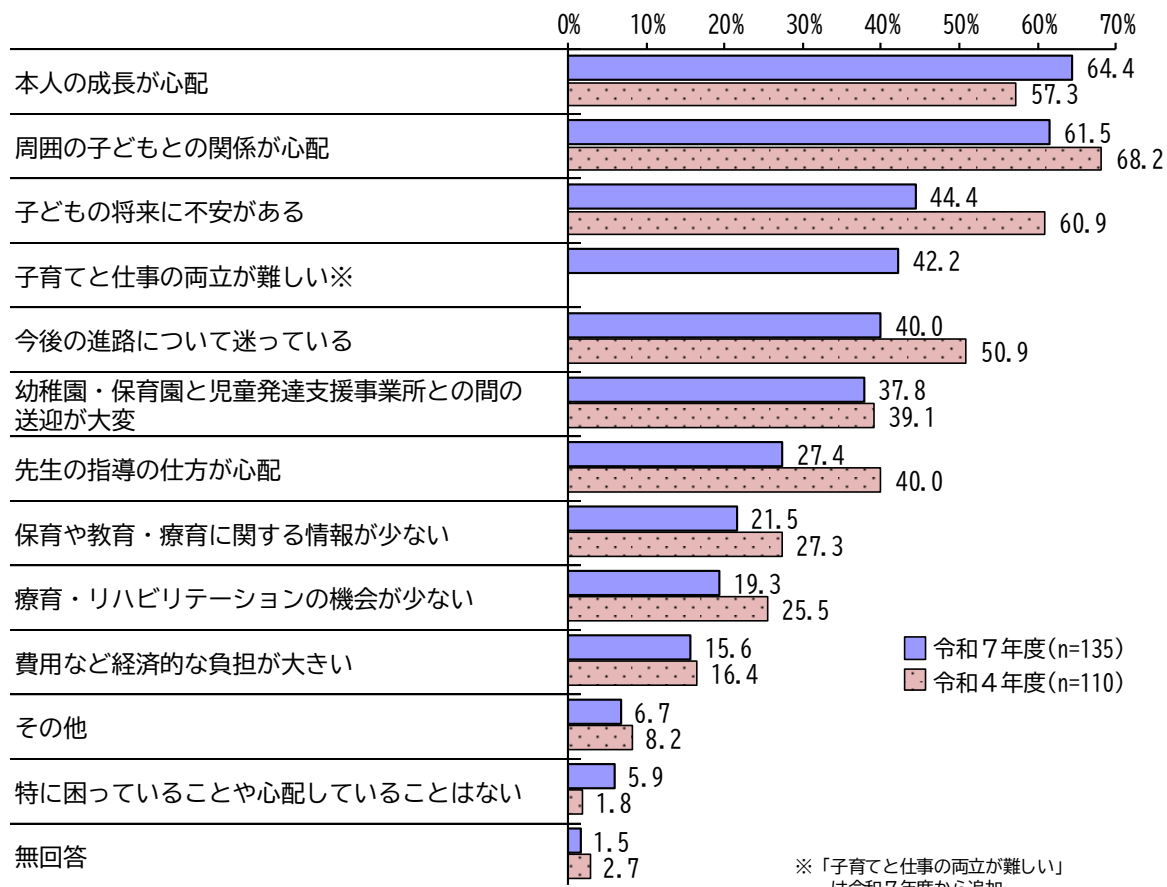
	合計	小学校の通常の学級	小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	中学校の通常の学級	中学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)	中学校の特別支援学級
(単位:%)								
全体	465	11.2	9.2	17.2	8.6	4.1	1.1	2.6
障害別								
肢体不自由	37	2.7	2.7	8.1	24.3	2.7	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	30	3.3	0.0	6.7	13.3	0.0	0.0	0.0
視覚障害	9	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	14.3	7.1	28.6	14.3	0.0	0.0
内部障害	28	25.0	3.6	7.1	10.7	0.0	0.0	0.0
知的障害	167	1.8	1.2	25.7	21.0	1.2	0.0	4.2
発達障害	285	10.2	12.6	20.7	8.4	4.9	1.8	2.8
精神障害	17	11.8	0.0	29.4	23.5	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	31	6.5	0.0	9.7	19.4	3.2	0.0	3.2
問15に該当する方	259	7.7	12.7	18.9	11.6	3.1	0.8	1.2
その他	31	9.7	9.7	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0

	合計	特別支援学校の中学部	高等学校	通信制高校	特別支援学校の高等部	その他の学校
(単位:%)						
全体	465	3.7	2.2	1.1	5.6	0.4
障害別						
肢体不自由	37	2.7	0.0	2.7	21.6	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	30	10.0	6.7	0.0	16.7	0.0
視覚障害	9	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
聴覚・平衡機能障害	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内部障害	28	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0
知的障害	167	10.2	0.0	0.6	14.4	1.2
発達障害	285	2.8	2.5	1.4	3.2	0.4
精神障害	17	0.0	17.6	5.9	11.8	0.0
高次脳機能障害	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病(特定疾病)	31	12.9	6.5	0.0	12.9	0.0
問15に該当する方	259	5.0	1.9	1.2	5.0	0.4
その他	31	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0

【A 小学校入学前】を障害別にみると、“聴覚・平衡機能障害”と“難病(特定疾病)”以外の、回答数が10件以上の障害はいずれも、「保育園」が最も高くなっています。

【B 学校在学中】を障害別にみると、“肢体不自由”、“聴覚・平衡機能障害”、“難病(特定疾病)”では「特別支援学校の小学部」が、“内部障害”と“その他”では「小学校の通常の学級」が、“その他”では「小学校の通常の学級と通級指導学級(特別支援教室を含む)」も最も高く、それ以外の障害はいずれも「小学校の特別支援学級」が最も高くなっています。

(5-2)通園生活等の困りごと(問 31)

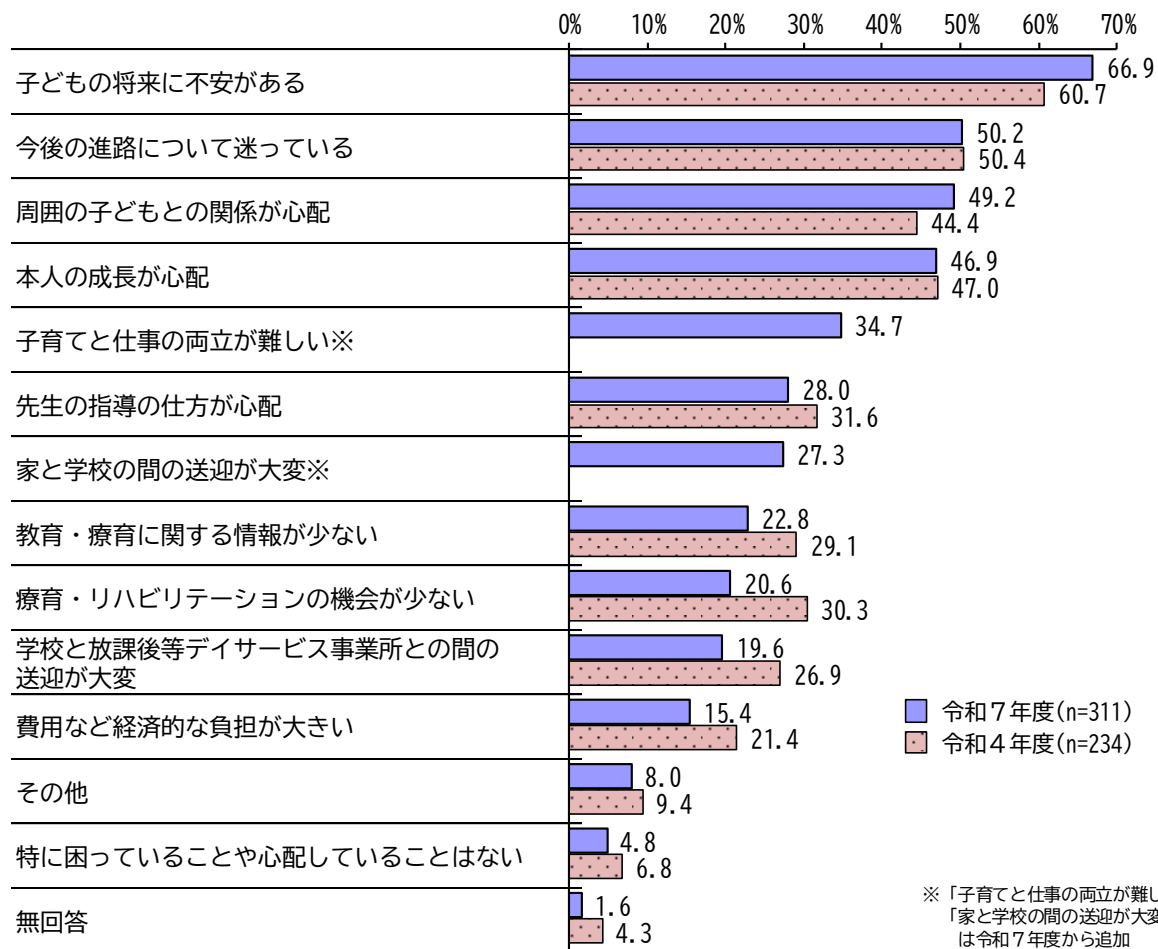


小学校入学前児童の通園生活等の困りごとは、「本人の成長が心配」が64.4%、「周囲の子どもとの関係が心配」が61.5%と6割を超えて高く、次いで「子どもの将来に不安がある」が44.4%、「子育てと仕事の両立が難しい」が42.2%と続いています。

一方、「特に困っていることや心配していることはない」は5.9%となっています。

令和4年度と比較すると、「本人の成長が心配」が7.1ポイント、「特に困っていることや心配していることはない」が4.1ポイント上がっていますが、それ以外の項目はいずれも下がっており、特に「子どもの将来に不安がある」が16.5ポイント、「今後の進路について迷っている」が10.9ポイントと10ポイント以上、令和4年度から下がっています。

### (5-3)通学生活等の困りごと(問 33)

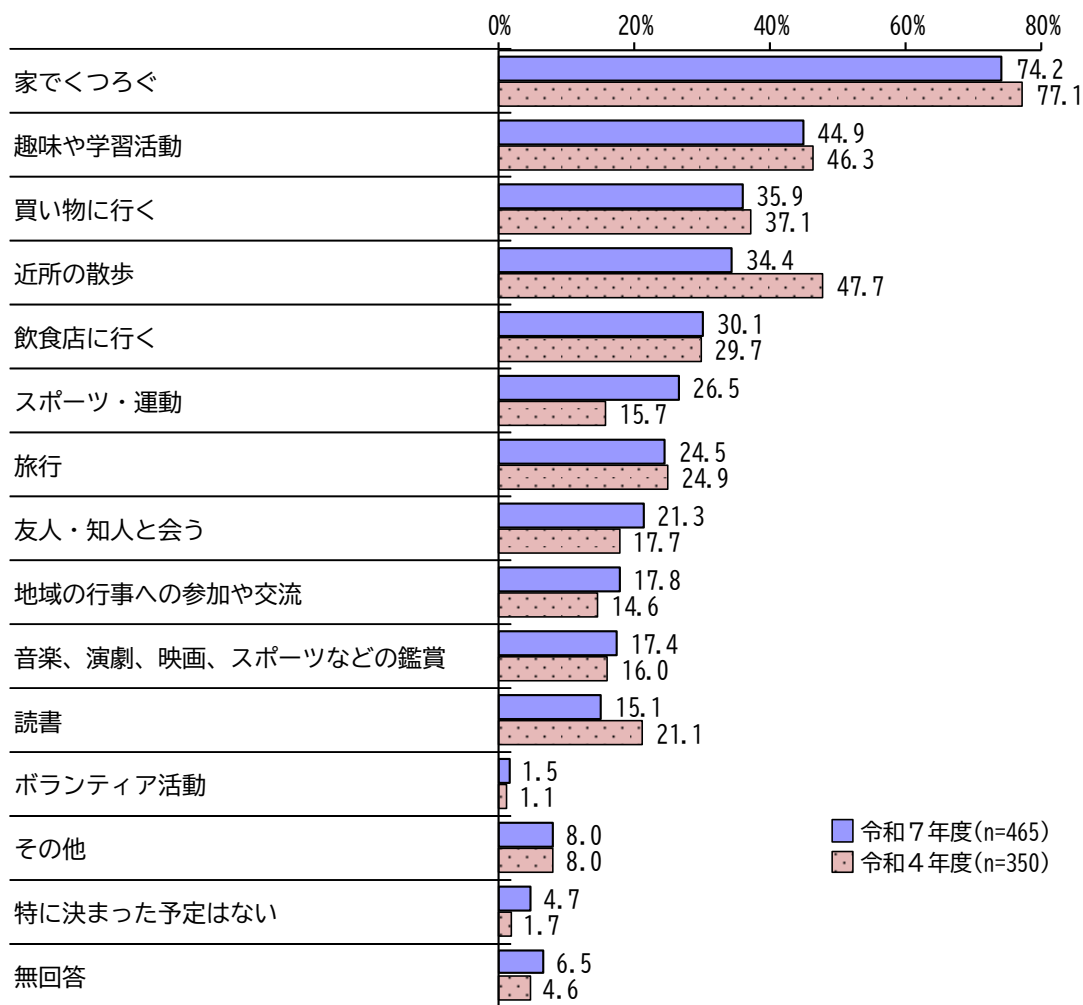


学校在学中の児童の通学生活等の困りごとは、「子どもの将来に不安がある」が66.9%と6割半ばを超えて最も高く、次いで「今後の進路について迷っている」が50.2%、「周囲の子どもとの関係が心配」が49.2%、「本人の成長が心配」が46.9%と続いています。

一方、「特に困っていることや心配していることはない」は4.8%となっています。

令和4年度と比較すると、「子どもの将来に不安がある」が6.2ポイント、「周囲の子どもとの関係が心配」が4.8ポイント上がっており、反対に「療育・リハビリテーションの機会が少ない」は9.7ポイント、「学校と放課後等デイサービス事業所との間の送迎が大変」は7.3ポイント、「教育・療育に関する情報が少ない」は6.3ポイント、「費用など経済的な負担が大きい」は6.0ポイントと6ポイント以上下がっています。

(5-4)休日の過ごし方(問 39)



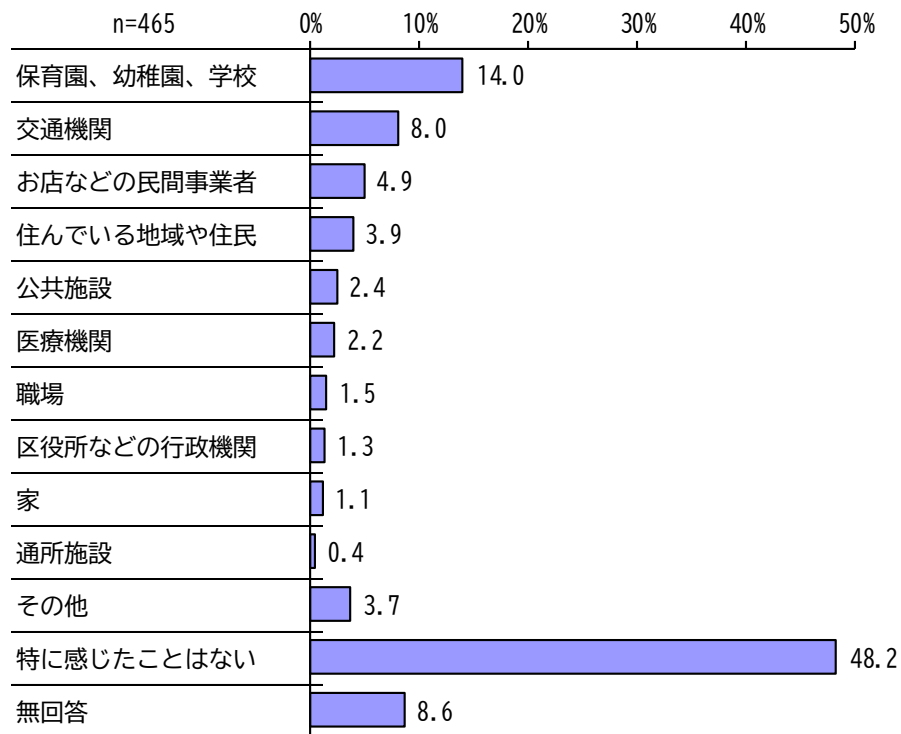
休日の過ごし方は、「家でくつろぐ」が 74.2%と最も高く、次いで「趣味や学習活動」が 44.9%、「買い物に行く」が 35.9%、「近所の散歩」が 34.4%と続いています。

一方、「特に決まった予定はない」は 4.7%となっています。

令和4年度と比較すると、「スポーツ・運動」が 10.8 ポイント上がっており、反対に「近所の散歩」が 13.3 ポイント下がっています。

## (6) 権利擁護・差別解消について

### (6-1) 地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面(問 44)

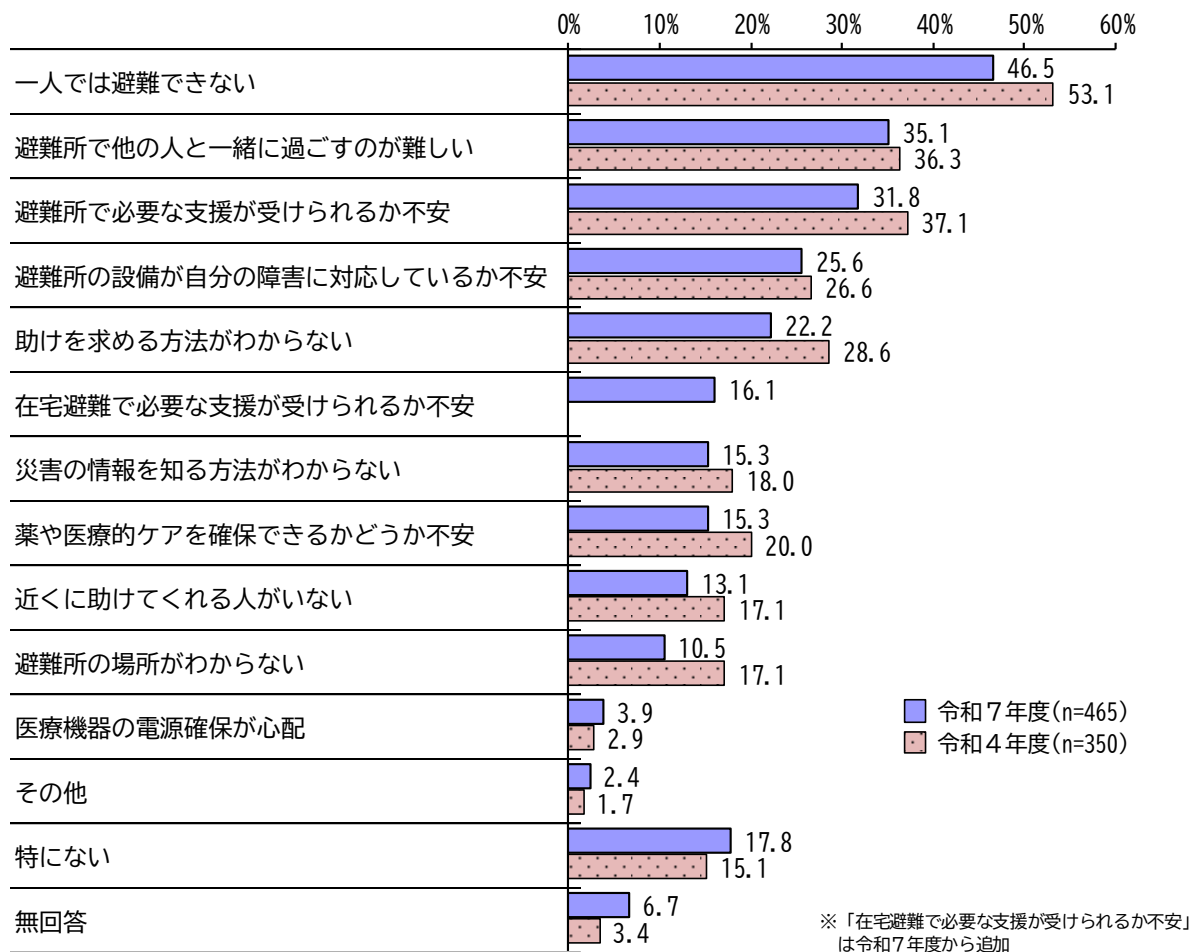


地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「保育園、幼稚園、学校」が14.0%と最も高く、それ以外のいずれも1割を切っています。

一方、「特に感じたことはない」は48.2%となっています。

## (7) 災害対策について

### (6-1)災害発生時の困りごと(問48)



災害発生時の本人や家族の困りごとは、「一人では避難できない」が46.5%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が35.1%、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が31.8%と続いています。

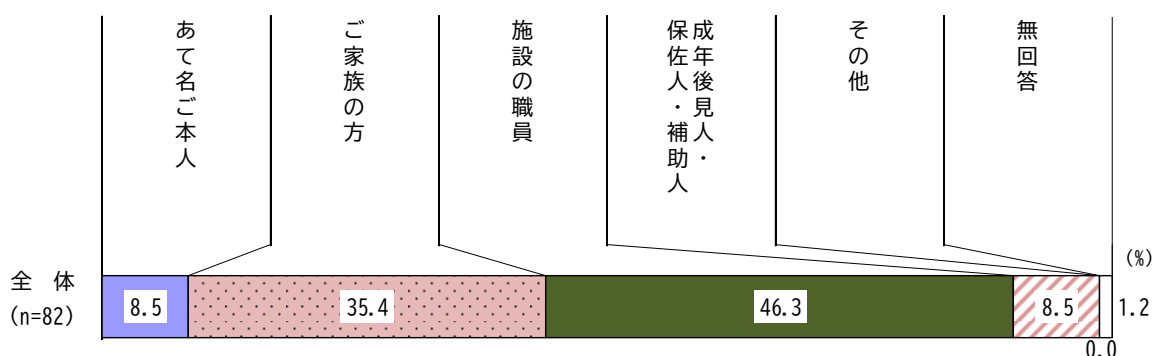
一方、「特にない」は17.8%となっています。

令和4年度と比較すると、13項目中9項目で令和4年度より下がっており、特に「一人では避難できない」と「避難所の場所がわからない」がともに6.6ポイント、「助けを求める方法がわからない」が6.4ポイント、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が5.3ポイントと、5ポイント以上下がっています。

## ○ 施設に入所している方を対象にした調査

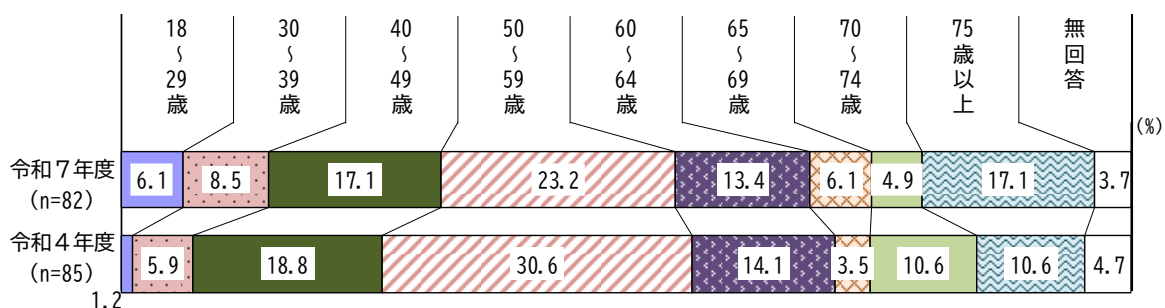
### (1) 対象者特性

#### (1-1)回答者(問1)



調査の回答者は、「施設の職員」が46.3%と4割半ばを超えており、次いで「ご家族の方」が35.4%、「あて名ご本人」と「成年後見人・保佐人・補助人」がともに8.5%となっています。

#### (1-2)年齢(問2)

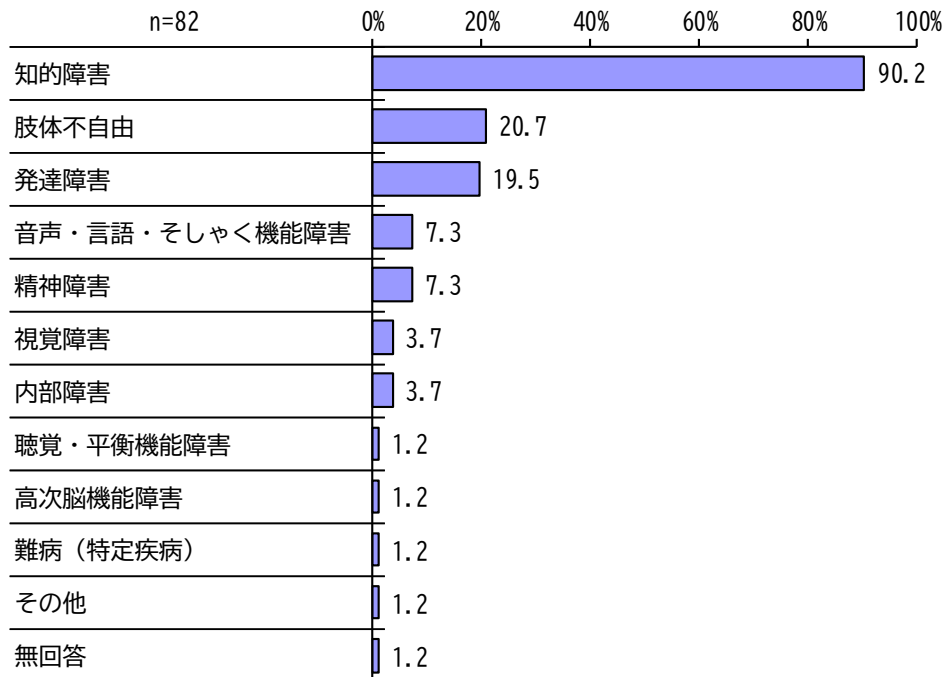


障害者本人の年齢は、「50～59歳」が23.2%と2割を超えて最も高く、次いで「40～49歳」が17.1%、「60～64歳」が13.4%と続いています。

令和4年度と比較すると、「75歳以上」が6.5ポイント、「18～29歳」が4.9ポイント上がっており、反対に「50～59歳」が7.4ポイント、「70～74歳」が5.7ポイント下がっています。

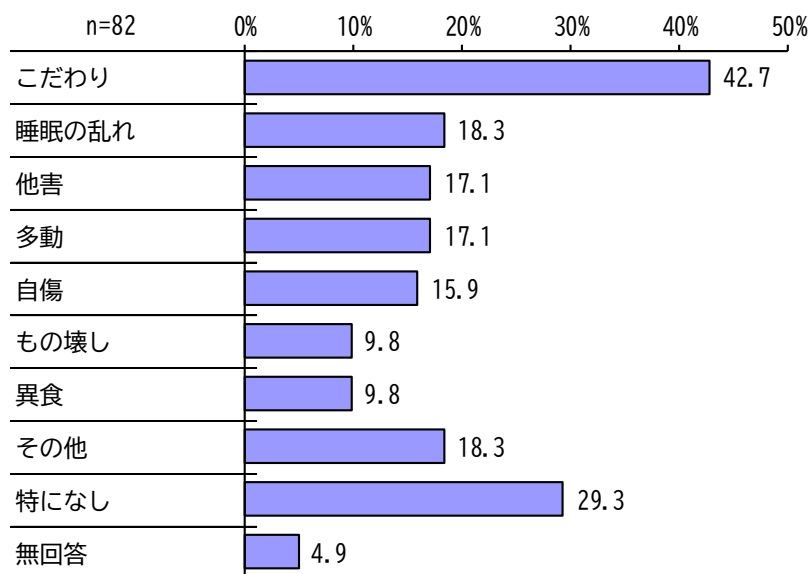
## (2) 障害の状況について

### (2-1) 障害の種類(問 5)



障害の種類は、「知的障害」が90.2%と9割に達し最も高く、次いで「肢体不自由」が20.7%、「発達障害」が19.5%と続いています。

### (2-2) 日常生活に必要な特別な配慮(問 8)

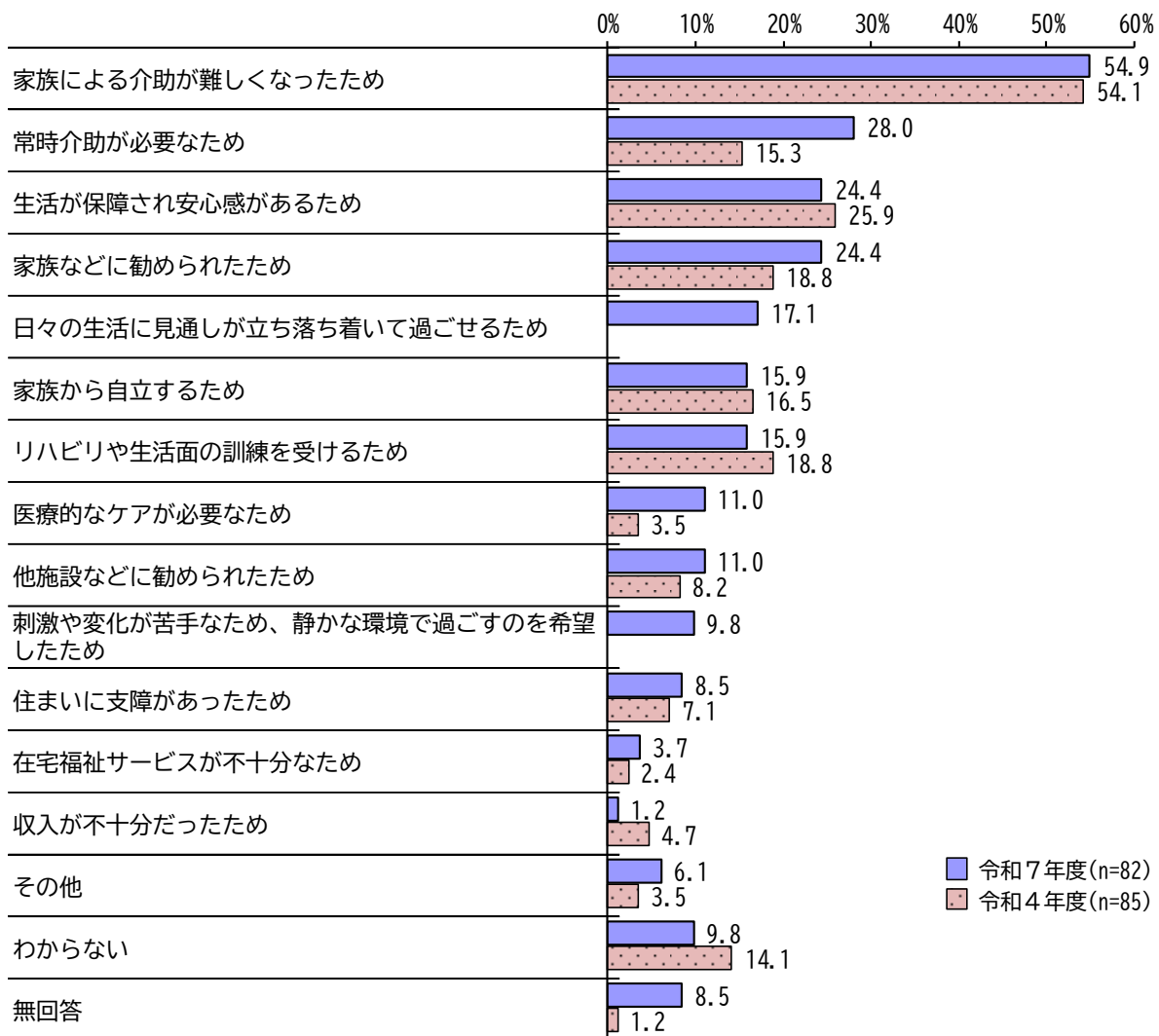


日常生活の中で特別な支援や配慮を必要とする行動面に関する課題について、「こだわり」が42.7%と4割を超えて最も高く、次いで「睡眠の乱れ」が18.3%、「他害」と「多動」がともに17.1%と続いています。

一方、「特になし」は29.3%と3割近くを占めています。

### (3) 施設入所について

#### (3-1) 施設入所の理由(問 11)



※「日々の生活に見通しが立ち落ち着いて過ごせるため」  
「刺激や変化が苦手なため、静かな環境で過ごすのを希望したため」  
は令和7年度から追加

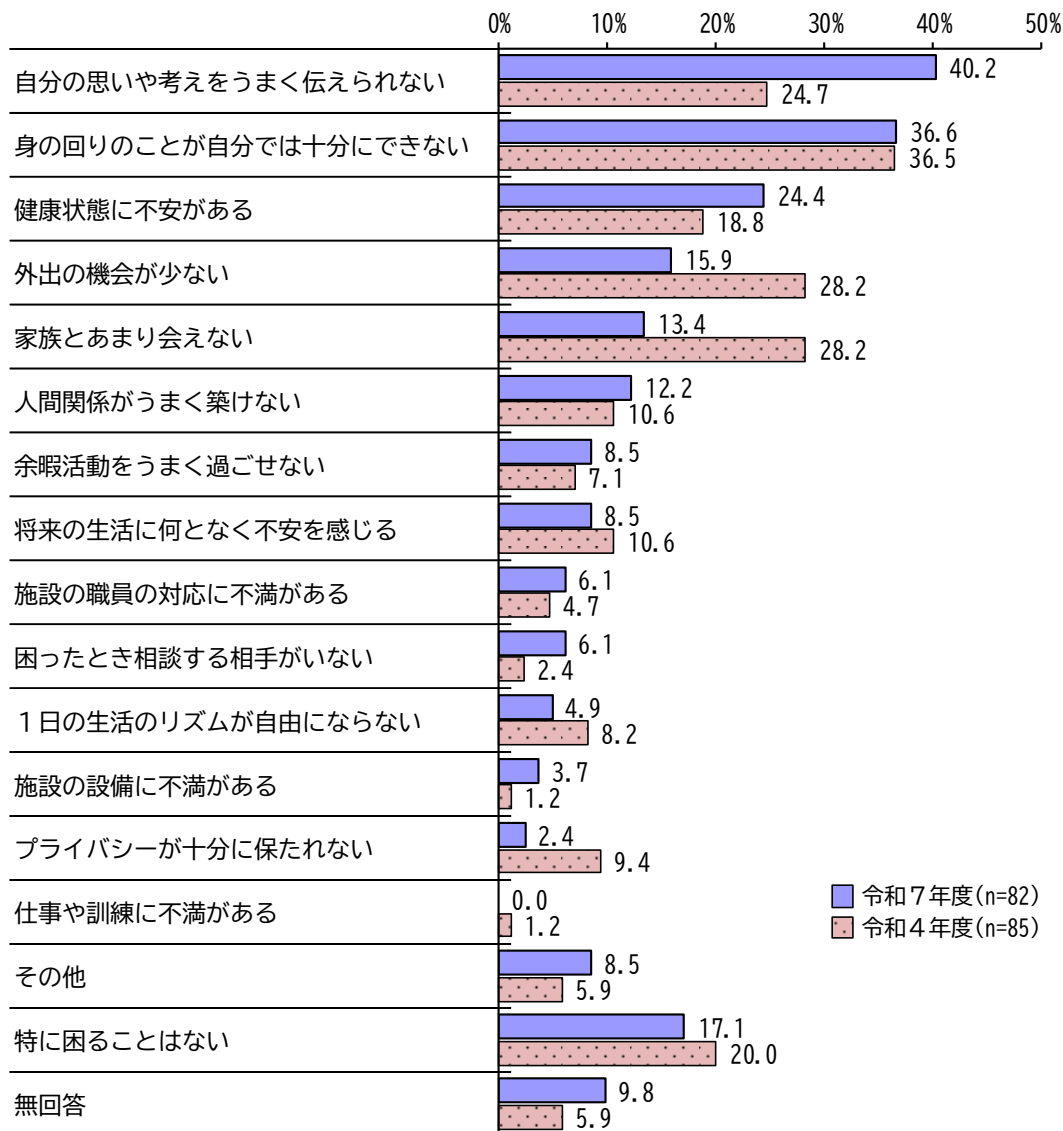
現在の施設に入所した理由は、「家族による介助が難しくなったため」が54.9%と5割半ばで最も高く、次いで「常時介助が必要なため」が28.0%、「生活が保障され安心感があるため」と「家族などに勧められたため」がともに24.4%、「日々の生活に見通しが立ち落ち着いて過ごせるため」が17.1%と続いています。

一方、「わからない」が9.8%と1割を占めています。

令和4年度と比較すると、「常時介助が必要なため」が12.7ポイント、「医療的なケアが必要なため」が7.5ポイント、「家族などに勧められたため」が5.6ポイントと、5ポイント以上上がっています。

## (4) 施設での生活について

### (4-1)現在の生活での困りごと(問 14)

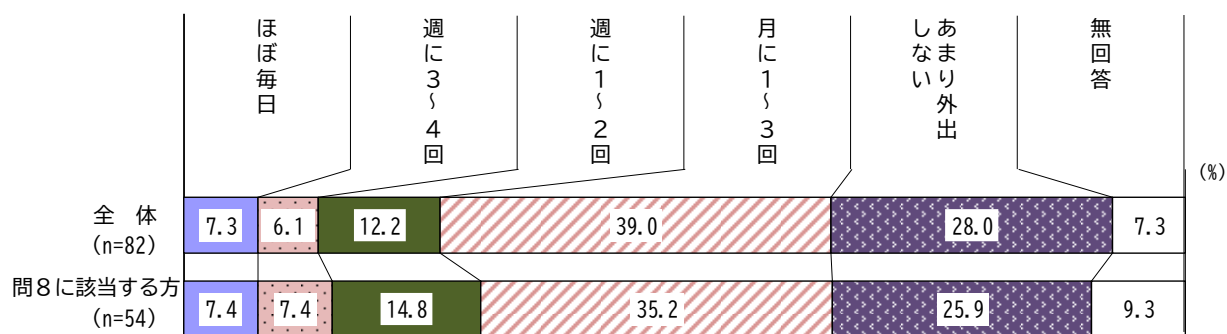


現在の生活での困りごとは、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が40.2%と4割に達し最も高く、次いで「身の回りのことが自分では十分にできない」が36.6%、「健康状態に不安がある」が24.4%、「外出の機会が少ない」が15.9%と続いています。

一方、「特に困ることはない」は17.1%と1割半ばを超えています。

令和4年度と比較すると、「自分の思いや考えをうまく伝えられない」が15.5ポイント上がっており、反対に「家族とあまり会えない」が14.8ポイント、「外出の機会が少ない」が12.3ポイントと、10ポイント以上下がっています。

#### (4-2)外出の頻度(問18)

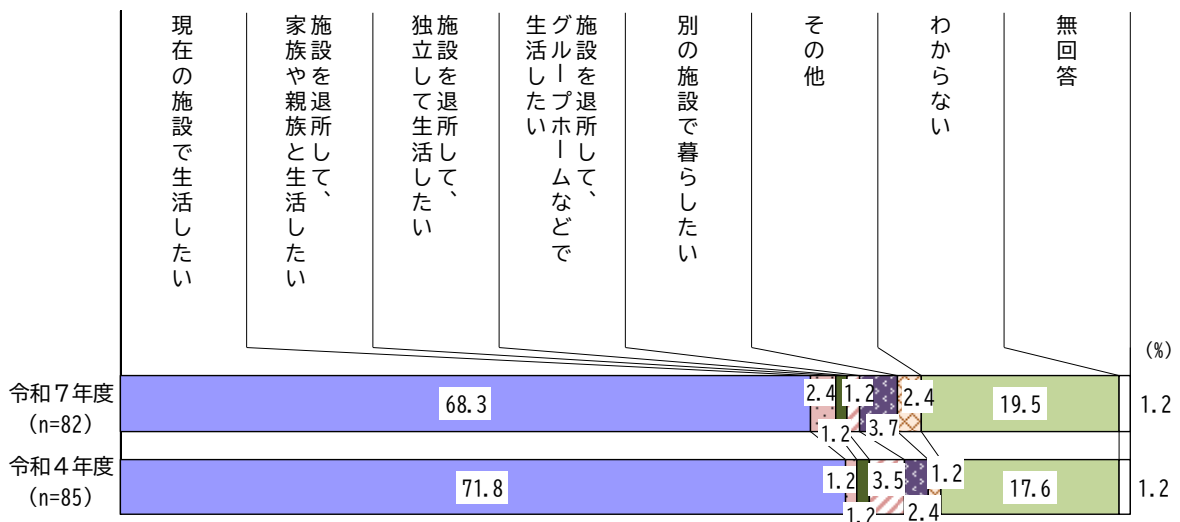


外出の頻度は、「月に1～3回」が39.0%と4割近くで最も高く、次いで「あまり外出しない」が28.0%、「週に1～2回」が12.2%と続いています。

問8に該当する方と全体を比較すると、「月に1～3回」が3.8ポイント、「あまり外出しない」が2.1ポイント全体より低くなっており、反対に「週に1～2回」が2.6ポイント高くなっています。

## (5) 今後の暮らし方について

### (5-1) 今後希望する生活(問 20)

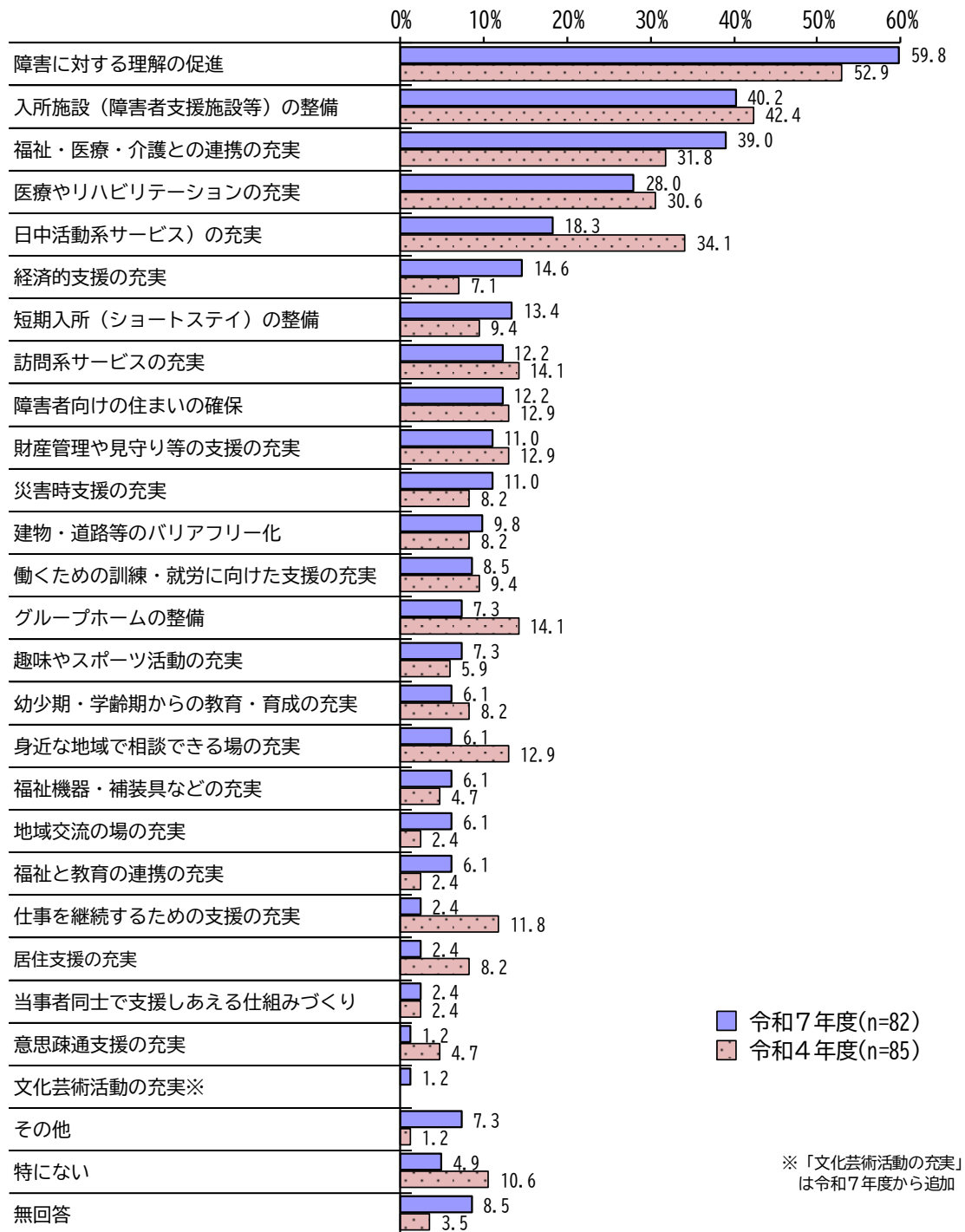


今後希望する生活は、「現在の施設で生活したい」が68.3%と6割半ばを超えて最も高く、次いで「別の施設で暮らしたい」が3.7%、「施設を退所して、家族や親族と生活したい」が2.4%と続いています。

一方、「わからない」は19.5%と2割近くを占めています。

令和4年度と比較すると、「現在の施設で生活したい」が3.5ポイント、「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」が2.3ポイント下がっています。

(5-2)地域で安心して暮らすために重要な施策(問 21)

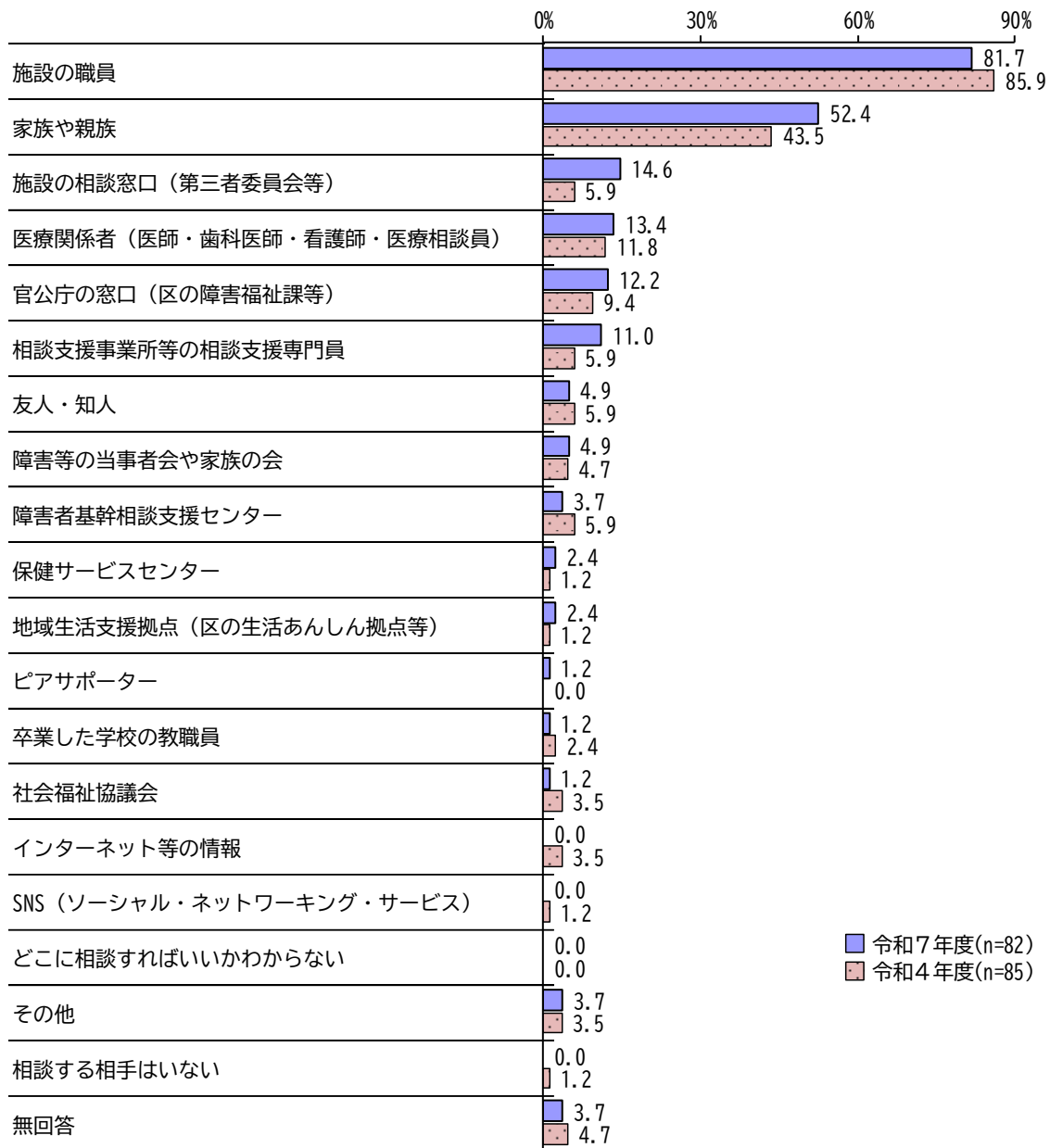


地域で安心して暮らすために重要な施策は、「障害に対する理解の促進」が59.8%と約6割で最も高く、次いで「入所施設（障害者支援施設等）の整備」が40.2%、「福祉・医療・介護との連携の充実」が39.0%、「医療やリハビリテーションの充実」が28.0と続いています。

令和4年度と比較すると、「経済的支援の充実」が7.5ポイント、「障害に対する理解の促進」が6.9ポイント上がっており、反対に、「日中活動系サービスの充実」が15.8ポイント、「仕事を継続するための支援の充実」が9.4ポイント、「グループホームの整備」と「身近な地域で相談できる場の充実」がともに6.8ポイント、「居住支援の充実」が5.8ポイント下がっています。

## (6) 相談や福祉の情報について

### (6-1) 困ったときの相談相手(問 22)

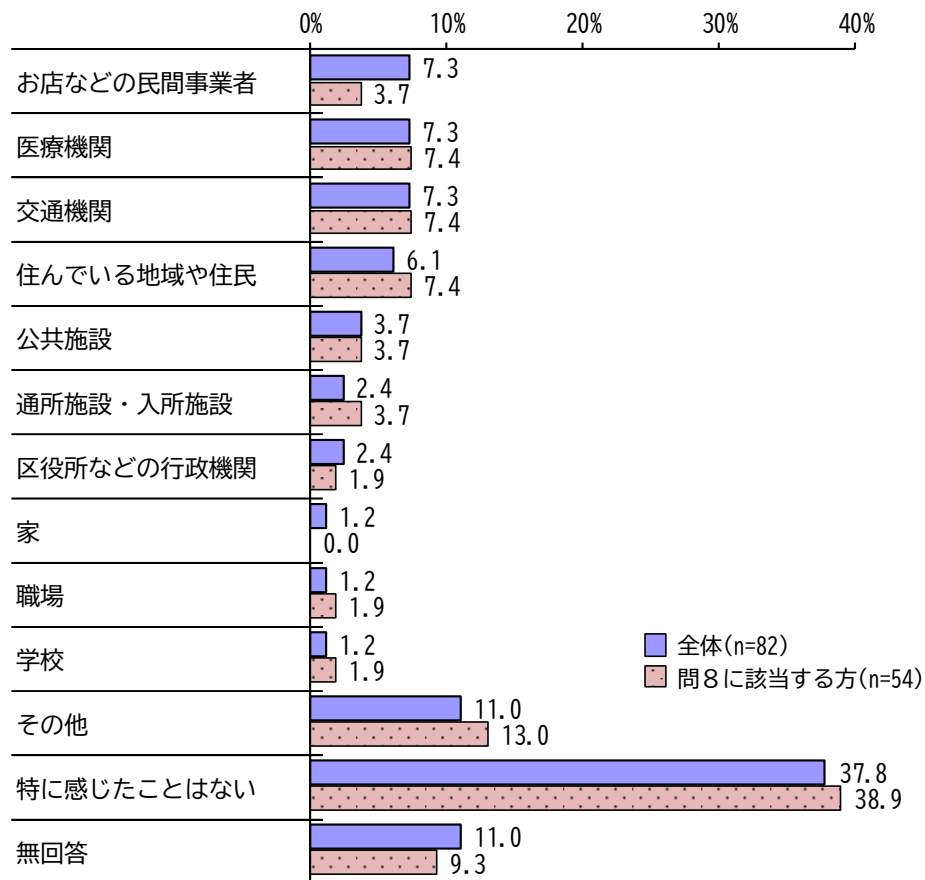


困ったときの相談相手は、「施設の職員」が81.7%と8割を超えて最も高く、次いで「家族や親族」が52.4%、「施設の相談窓口(第三者委員会等)」が14.6%、「医療関係者(医師・歯科医師・看護師・医療相談員)」が13.4%と続いています。

令和4年度と比較すると、「家族や親族」が8.9ポイント、「施設の相談窓口(第三者委員会等)」が8.7ポイント、「相談支援事業所等の相談支援専門員」が5.1ポイントと5ポイント以上上がっており、反対に「施設の職員」が4.2ポイント下がっています。

## (7) 権利擁護・差別解消について

### (7-1) 地域で差別や合理的配慮の不提供を感じる場面(問 26)



地域で障害者への差別や合理的配慮の不提供を感じる場面は、「お店などの民間事業者」、「医療機関」、「交通機関」がそれぞれ 7.3%と最も高く、次いで「住んでいる地域や住民」が 6.1%、「公共施設」が 3.7%と続いています。

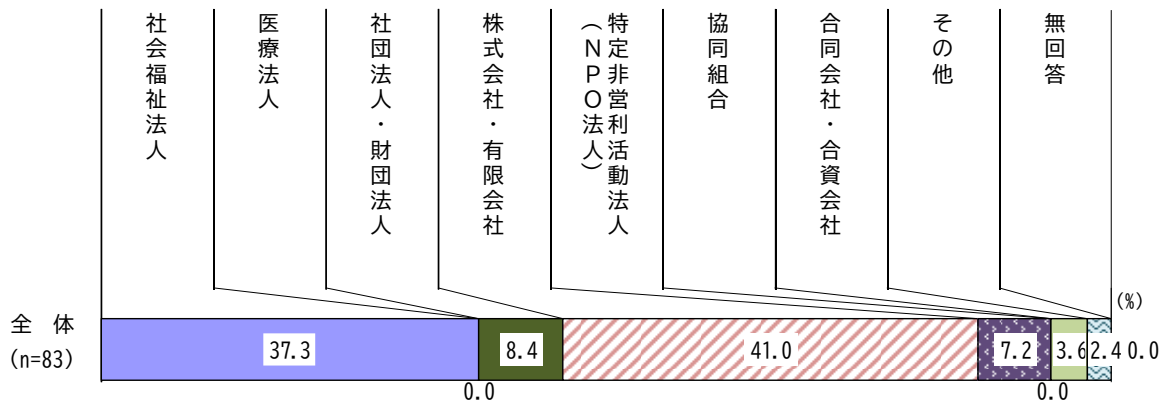
一方、「特に感じたことはない」は 37.8%と 3 割半ばを超えています。

問 8 に該当する方と全体を比較すると、休日等の過ごし方は、「お店などの民間事業者」が 3.6 ポイント低いなど、項目ごとに高低はありますが、全体とあまり差はありません。

## ○ サービス事業所の方を対象にした調査

### (1) 事業運営について

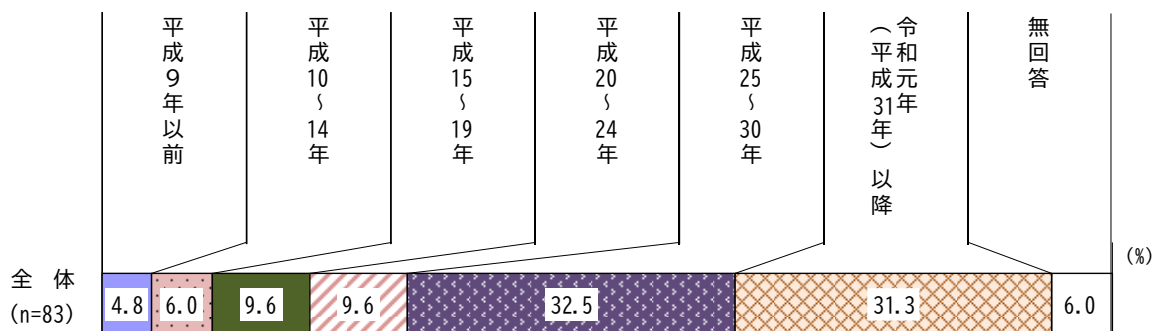
#### (1-1) 経営主体(問1)



回答事業所の経営主体は、「株式会社・有限会社」が41.0%と4割を超えて最も高く、次いで「社会福祉法人」が37.3%、「社団法人・財団法人」が8.4%、「特定非営利活動法人 (NPO法人)」が7.2%、「合同会社・合資会社」が3.6%、「その他」が2.4%となっています。

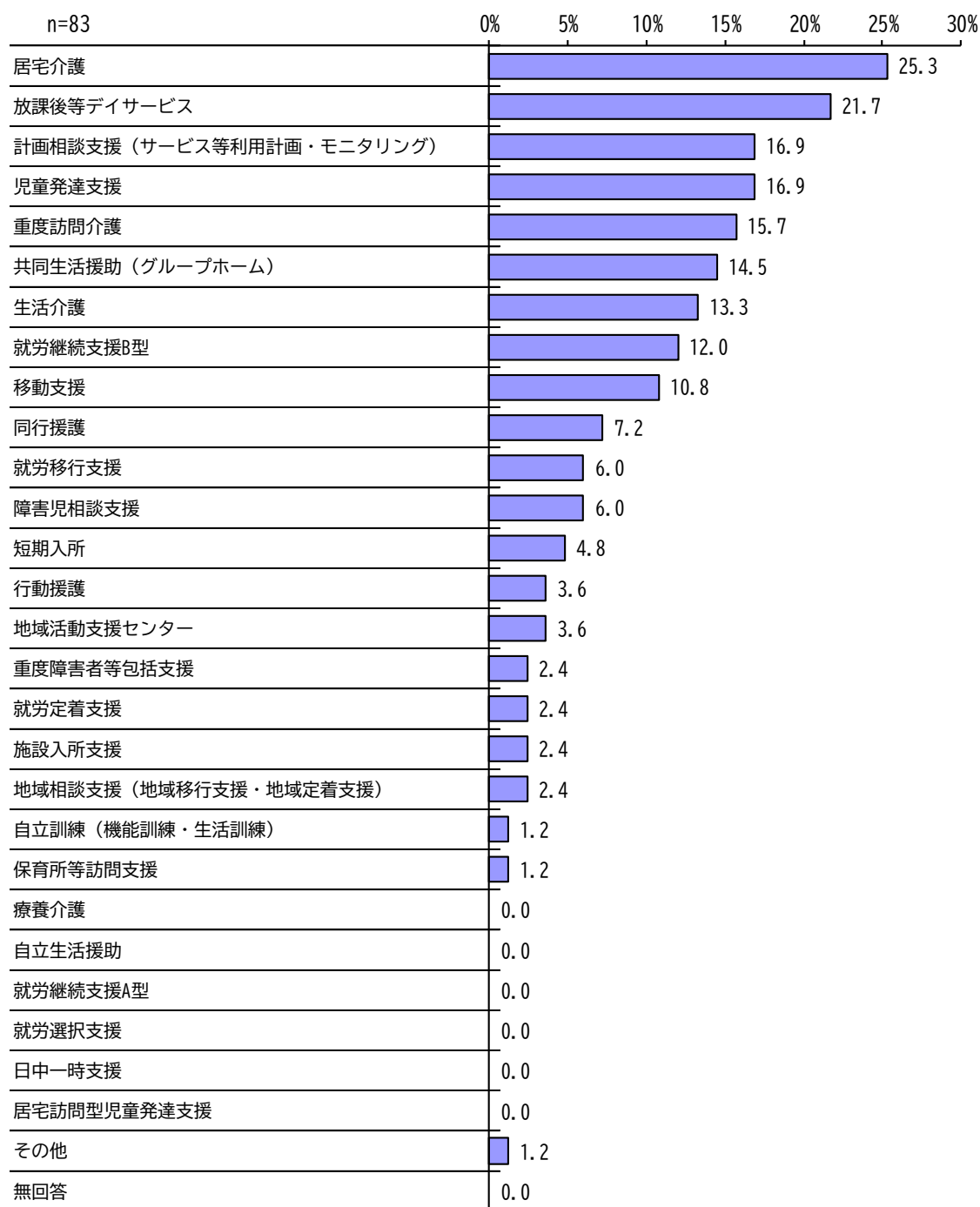
また、「医療法人」と「協同組合」についての回答はありませんでした。

#### (1-2) 開業年(問3)



開業年は、「平成25～30年」が32.5%、「令和元年(平成31年)以降」が31.3%とそれぞれ3割を超えて高く、次いで「平成15～19年」と「平成20～24年」がともに9.6%、「平成10～14年」が6.0%と続いています。

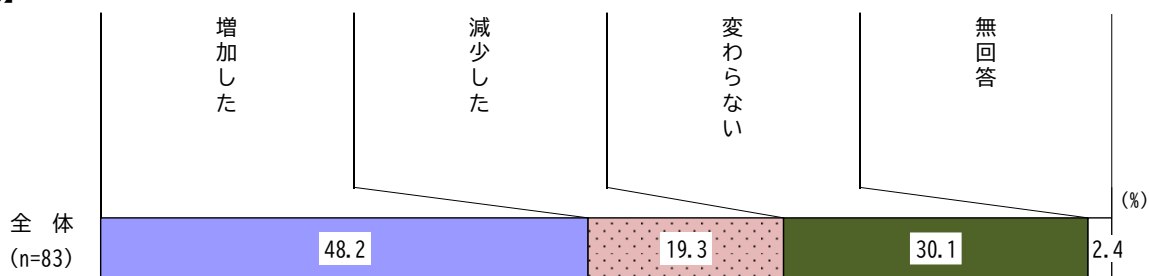
### (1-3)提供しているサービス(問 4)



提供しているサービスは、「居宅介護」が 25.3%で最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が 21.7%、「計画相談支援 (サービス等利用計画・モニタリング)」と「児童発達支援」がともに 16.9%、「重度訪問介護」が 15.7%と続いています。

## (1-4)収支状況(問7)

### 【収入】

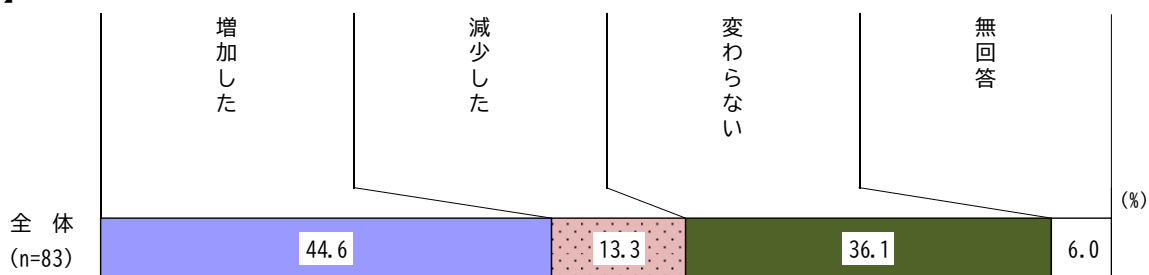


前年度と比較した収入の状況は、「増加した」が48.2%と4割半ばを超えて最も高く、次いで「変わらない」が30.1%、「減少した」が19.3%と続いています。

増加した割合(%)を回答した40事業所の平均増加率は21.9%でした。

減少した割合(%)を回答した16事業所の平均減少率は32.3%でした。

### 【支出】



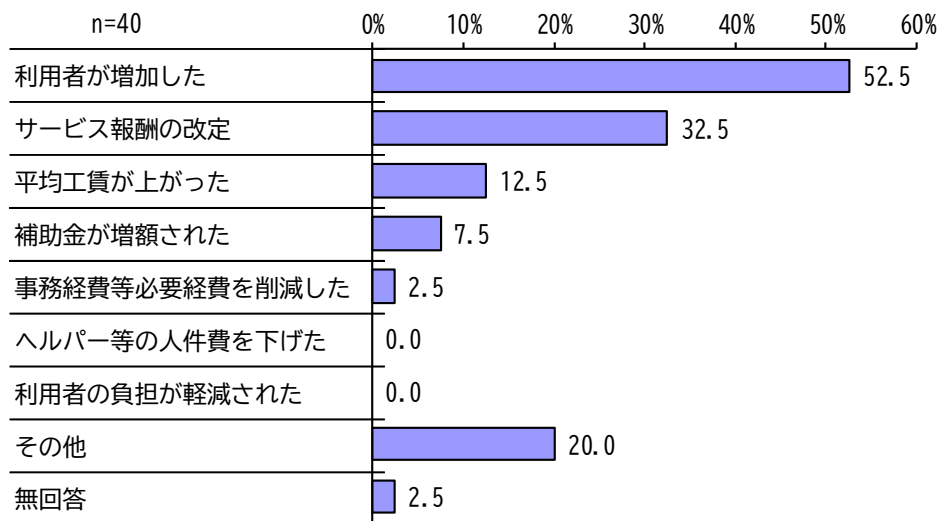
前年度と比較した支出の状況は、「増加した」が44.6%と4割半ばを占めて最も高く、次いで「変わらない」が36.1%、「減少した」が13.3%と続いています。

増加した割合(%)を回答した37事業所の平均増加率は19.9%でした。

減少した割合(%)を回答した11事業所の平均減少率は16.3%でした。

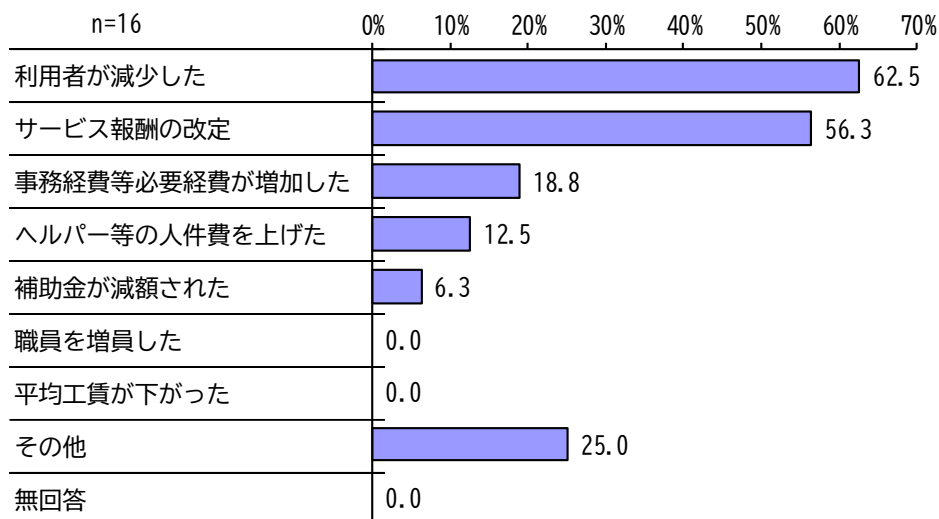
## (1-5)増収または減収の理由(問 7-1)

### 【増収の理由】



増収の理由は、「利用者が増加した」が52.5%と5割を超えて最も高く、次いで「サービス報酬の改定」が32.5%、「平均工賃が上がった」が12.5%と続いています。

### 【減収の理由】

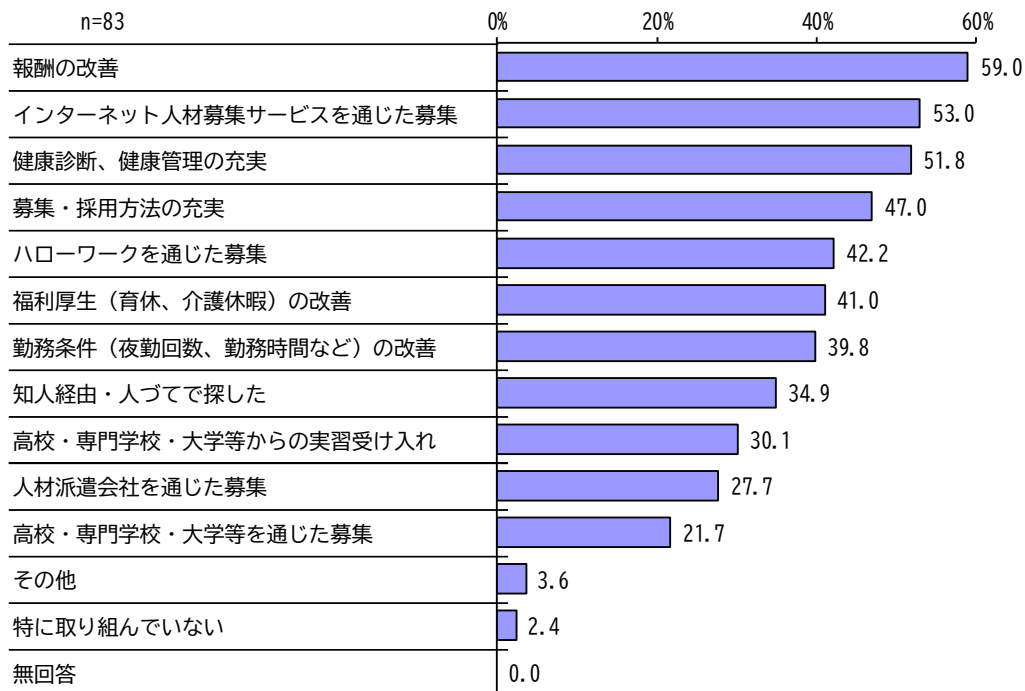


減収の理由は、「利用者が減少した」が62.5%と6割を超えて最も高く、次いで「サービス報酬の改定」が56.3%、「事務経費等必要経費が増加した」が18.8%と続いています。

## (2) 職員について

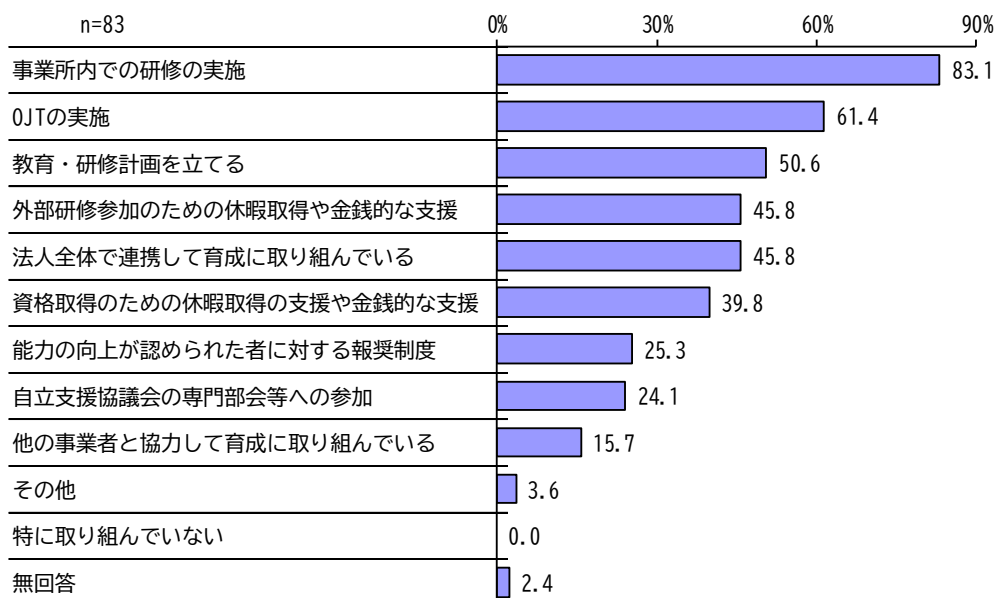
### (2-1) 人材確保・人材育成の取り組み(問 14)

#### 【人材確保の取り組み】



人材確保の取り組みは、「報酬の改善」が59.0%と6割近くで最も高く、次いで「インターネット人材募集サービスを通じた募集」が53.0%、「健康診断、健康管理の充実」が51.8%と5割を超えて続いています。

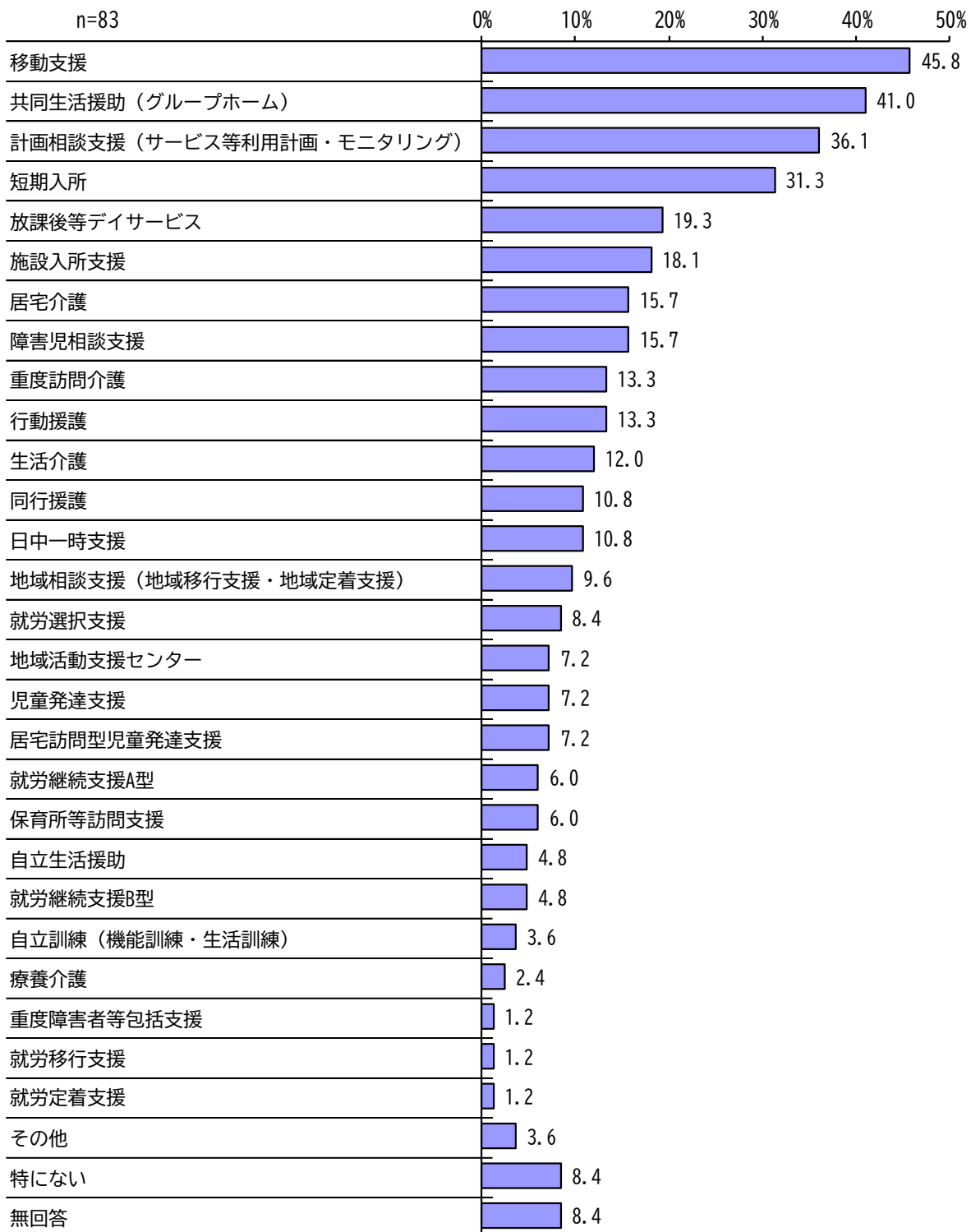
#### 【人材育成の取り組み】



人材育成の取り組みは、「事業所内での研修の実施」が83.1%と8割を超えて最も高く、次いで「OJTの実施」が61.4%、「教育・研修計画を立てる」が50.6%と5割を超えて続いています。

### (3) サービス提供について

#### (3-1)区に不足している障害福祉サービス等(問 21)



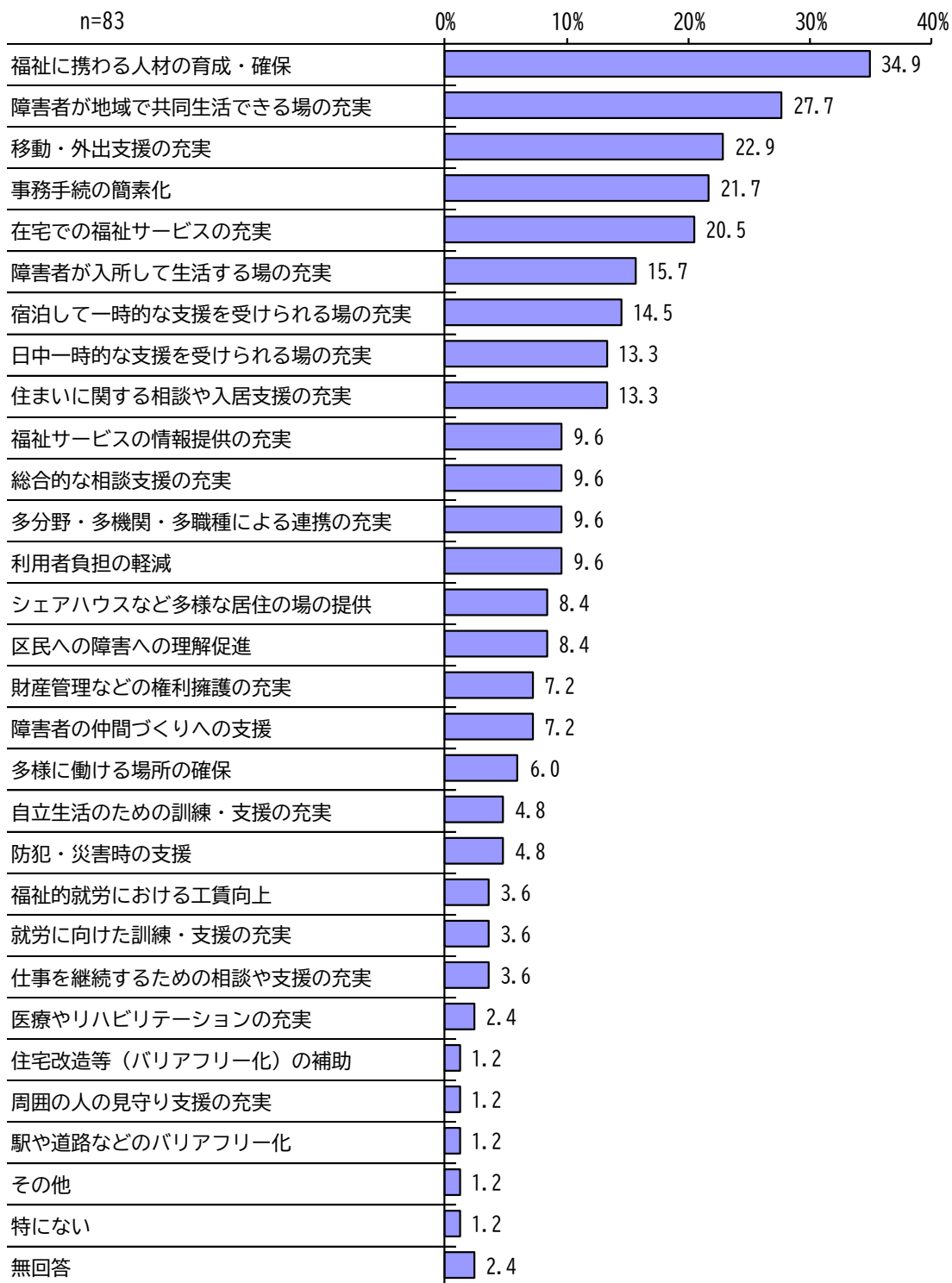
現在区に不足していると思う障害福祉サービス等は、「移動支援」が 45.8%と 4 割半ばで最も高く、次いで「共同生活援助（グループホーム）」が 41.0%、「計画相談支援（サービス等利用計画・モニタリング）」が 36.1%、「短期入所」が 31.3%と続いています。

### (3-2) 今後参入を考えているサービス等(問22)



今後参入を考えているサービス等は、「共同生活援助 (グループホーム)」が9.6%と1割近くで最も高く、次いで「放課後等デイサービス」と「保育所等訪問支援」がともに6.0%が続いています。一方、「参加は考えていない」は62.7%と6割を超えています。

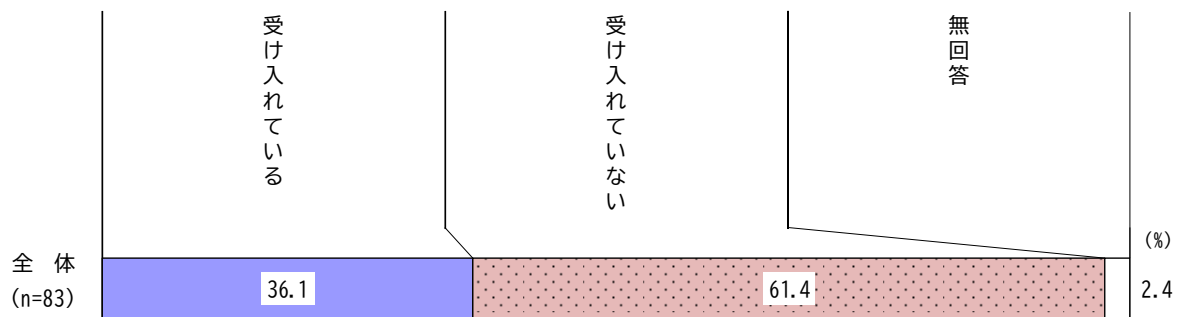
(3-3)今後の障害福祉施策充実に必要なこと(問 27)



今後の障害福祉施策充実に向けて必要なことは、「福祉に携わる人材の育成・確保」が34.9%と3割半ばで最も高く、次いで「障害者が地域で共同生活できる場の充実」が27.7%、「移動・外出支援の充実」が22.9%と続いています。

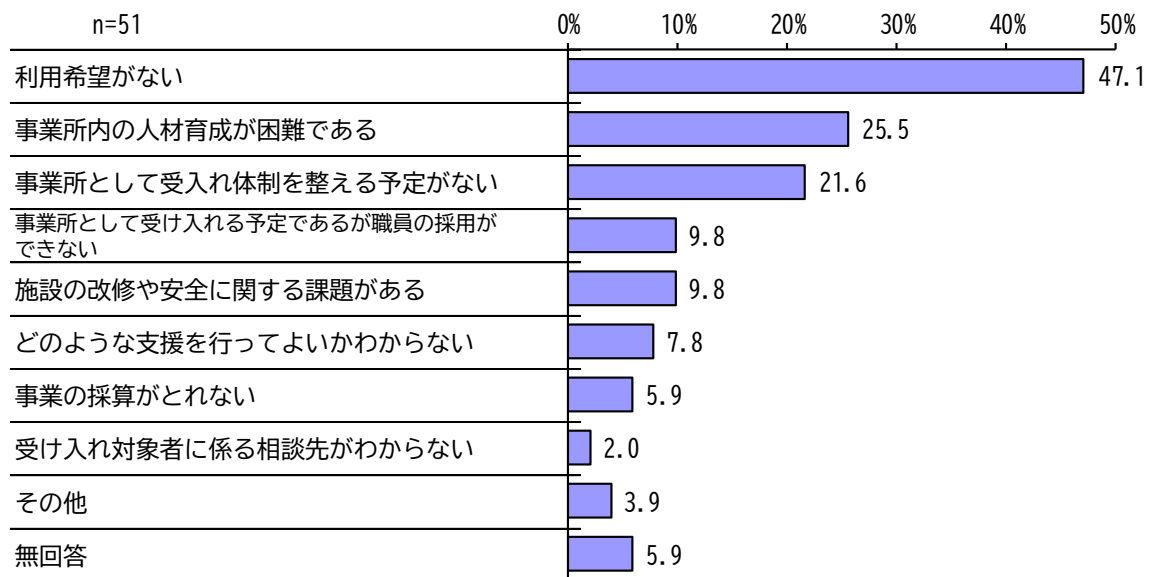
## (4) 強度行動障害のある方について

### (4-1) 強度行動障害のある方の受け入れの有無(問 28)



強度行動障害のある方を受け入れているかについては、「受け入れている」が 36.1%、「受け入れていない」は 61.4%となっています。

### (4-2) 強度行動障害のある方を受け入れていない理由(問 28-1)

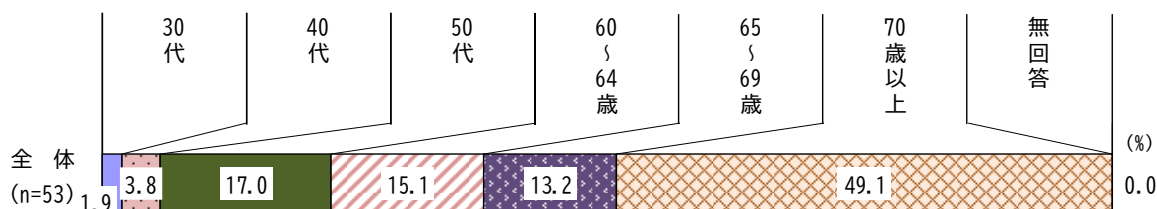


強度行動障害のある方を受け入れていない理由は、「利用希望がない」が 47.1%と 4 割半ばを超えて最も高く、次いで「事業所内の人材育成が困難である」が 25.5%、「事業所として受入れ体制を整える予定がない」が 21.6%と 2 割台で続いています。

## ○ 長期入院施設を対象にした調査

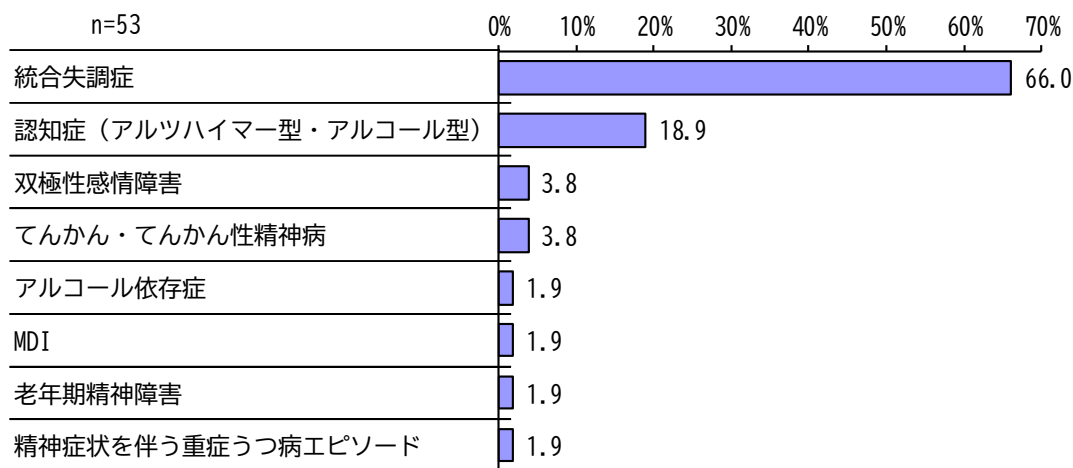
### (1) 長期入院施設を対象にした調査

#### (1-1)年代(3)



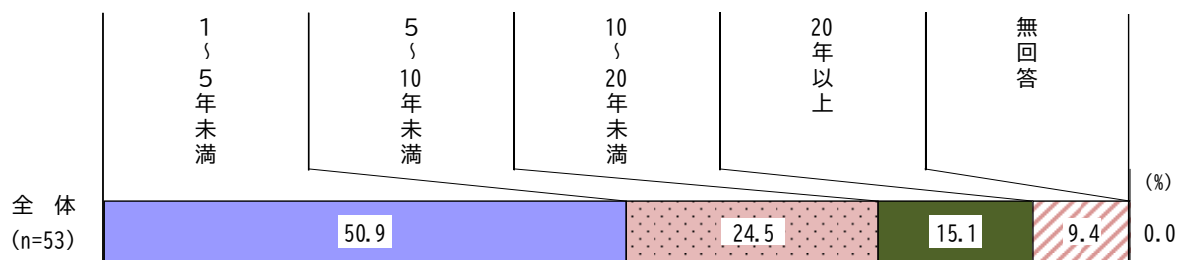
精神疾患で1年以上入院している患者の年代は、「70歳以上」が49.1%と5割近くで最も高く、次いで「50代」が17.0%、「60～64歳」が15.1%と続いています。「10代」、「20代」の回答はありませんでした。

#### (1-2)病名(4)



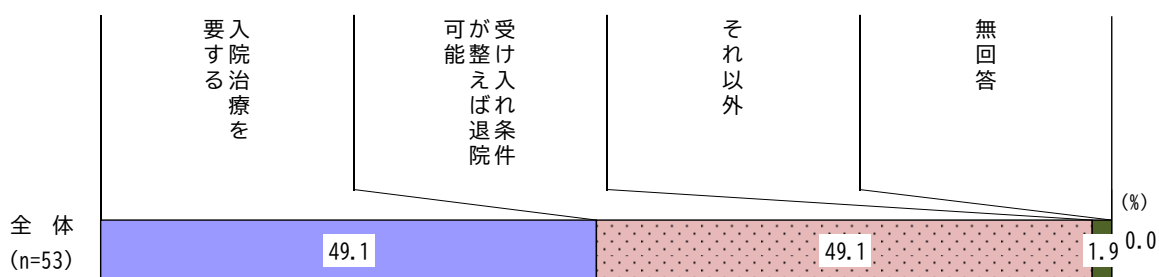
入院患者の病名は、「統合失調症」が66.0%と6割半ばを超えて最も高く、次いで「認知症 (アルツハイマー型・アルコール型)」が18.9%と続いております、それ以外の項目は1割を切っています。

### (1-3)在院期間(7)



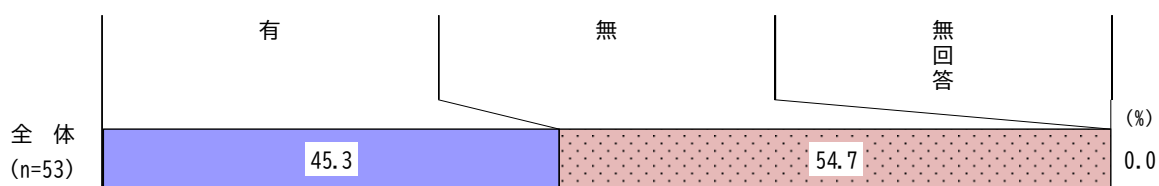
入院患者の在院期間は、「1～5年未満」が50.9%と5割を占めて最も高く、「5～10年未満」が24.5%、「10～20年未満」がともに15.1%、「20年以上」が9.4%となっています。

### (1-4)入院の状況(8)



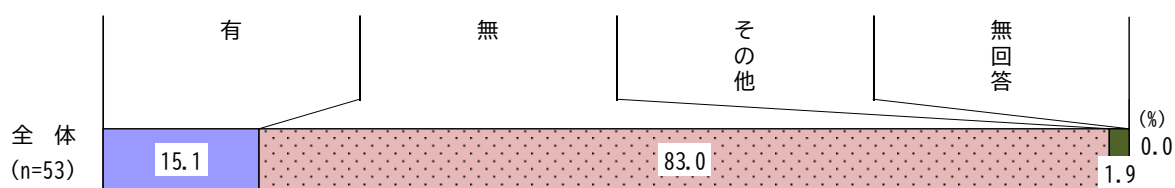
入院患者の入院の状況は、「入院治療を要する」と「受け入れ条件を整えば退院可能」がともに49.1%となっています。

### (1-5)病院から見た退院の見通し(9)



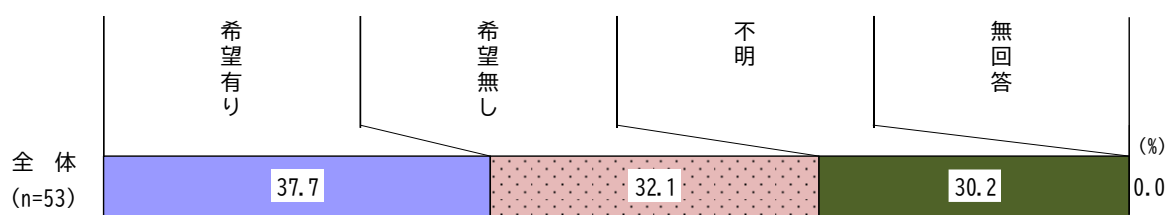
病院から見た入院患者の退院の見通しは、「有」が45.3%、「無」が54.7%となっています。

### (1-6)退院を想定した場合の帰宅先(10)



退院を想定した場合の帰宅先は、「有」が15.1%、「無」が83.0%となっています。

### (1-7)退院に向けた本人の意思(11)



退院に向けた入院患者本人の意思は、「希望有り」が37.7%と3割半ばを超えており、「希望無し」が32.1%、「不明」が30.2%となっています。

## ◆ 質的調査(インタビュー調査)

### (1) 質的調査の概要

量的調査(アンケート調査)だけでは汲み取りづらい障害者の思いやニーズを可視化する試みとして、質的調査(インタビュー調査)は、区内通所施設やグループホームを利用している知的障害者・精神障害者及び都外の入所施設の入所者を対象にインタビュー調査を実施しました。また今回の調査より、区内の障害児が利用する施設についても2施設、インタビュー調査を実施しました。

インタビューについては、障害福祉を学ぶ東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科の3,4年生が、同学科の高山直樹教授、志村健一教授の指導の下に調査を行い、障害者の現状や実態を把握するとともに、対応策等を検討したものです。

### (2) 調査対象

- ① 区内の通所施設を利用する18歳以上の愛の手帳所持者
- ② 区内の通所施設を利用する18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者
- ③ 区内の共同生活援助(グループホーム)を利用する18歳以上の愛の手帳所持者
- ④ 区内の共同生活援助(グループホーム)を利用する18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者
- ⑤ 区内の放課後等デイサービスを利用する児童
- ⑥ 都外の入所施設を利用する18歳以上の愛の手帳所持者

合計 73 名

対象施設 18 か所

#### 【主に知的障害者が利用する施設 11 か所】

施設名	サービス種別	施設名	サービス種類
1 大塚福祉作業所	就労継続支援 B 型	6 陽だまりの郷	共同生活援助
2 本後福祉センター (若駒の里)	生活介護	7 ワークショップやまどり	就労継続支援 B 型
3 エルムンド小石川	共同生活援助	8 工房わかぎり	就労継続支援 B 型
4 エルムンド千石	共同生活援助	9 ドリームハウス	共同生活援助
5 は〜と・ピア2	生活介護	10 ワークプレイスぶんぶん	就労継続支援 B 型
		11 こぼん	生活介護

#### 【主に精神障害者が利用する施設 5 か所】

施設名	サービス種別	施設名	サービス種類
1 銀杏企画	就労継続支援 B 型	4 文京ホームアンダンテ	共同生活援助
2 ホームいちよう	共同生活援助	5 Abeam (アビーム)	就労継続支援 B 型
3 エナジーハウス	地域活動支援センター		

【障害児が利用する施設 2か所】

	施設名	サービス種別
1	放課後等デイサービス JOY	放課後等デイサービス
2	放課後等デイサービスロード	放課後等デイサービス

【主に知的障害者が入所する都外入所施設 4か所】

※施設名については、個人情報保護の観点から明らかにしていません。

### (3) 調査対象

面接法（グループ・インタビュー）

### (4) 調査内容

属性、日中及び施設での楽しみ、余暇の過ごし方、相談相手、区サービスの利用状況、地域との交流、将来の希望等

### (5) 調査時期

令和7年8月～12月

### (6) 現状・課題と対応策（一部抜粋）

① 主に知的障害者が利用する就労継続支援B型事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
交友関係の範囲が狭く、社会的なつながりが限定されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通の趣味を介した施設同士の交流を促進する</li> <li>・ 地域交流の活動で利用者が主体性を高められる機会を増やす</li> </ul>
災害対策が不十分で不安を抱えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練の内容を充実させる</li> <li>・ 個別避難計画を拡充させる</li> <li>・ 地域との交流を促進し、助け合える関係性を構築する</li> </ul>
金銭面における不安を抱えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 得意分野を踏まえた就労支援</li> <li>・ スキルアップのための研修や資格取得の機会を設ける</li> <li>・ 地域との協働によるイベントの実施</li> </ul>

② 主に精神障害者が利用する通所施設(就労継続支援B型事業所及び地域活動支援センター)のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
新たな人間関係の構築の機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イベントへの伴走型の参加支援</li> <li>・大学のイベントへ学生と参加</li> <li>・地域内の交流の場を拡大</li> <li>・他施設との交流</li> </ul>
災害発生時の対応を自分事として考えられていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち運びに便利な防災パンフレットの作成</li> <li>・各利用者用のサービス等利用計画に災害時の対応について記載し、関係者間で共有</li> </ul>
必要な支援を適切に受けるための環境不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の公共交通不便地域への対応策の導入、実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通機関の職員への障害者理解の促進</li> <li>・ヘルプマークの代替アイテム創出</li> </ul> </li> </ul>

③ 主に知的障害者が利用する生活介護事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
(地域) <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に活動の場が少ない</li> <li>・本人の持つ選択肢が限定的</li> <li>・生活が施設の中で完結している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設を中心として地域に活動の場を広げる(利用者の選択で参加の有無を決める)</li> <li>・利用者のニーズで活動を組み、地域の声も反映していく</li> </ul>
(家族) <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が本人の生活や考えに与える影響が大きい</li> <li>・家族のいない利用者が抱える孤独感</li> <li>・将来的な家族支援への懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族との時間の代替となるような居場所や思い出の提供</li> <li>・家族以外に頼ることのできる存在や多様な考え方に触れられる環境整備</li> <li>・長期的な支援計画の実践</li> </ul>
(災害) <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と職員間における防災意識の差</li> <li>・災害に対する関心が実際の防災へと結びついていない</li> <li>・避難所での支援に対する不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者も理解しやすい防災の実施</li> <li>・利用者の声を取り入れた防災計画の実践</li> </ul>

④ 主に知的障害者が入居する共同生活援助(グループホーム)事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
将来の夢と現状の大きなギャップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来まで満足できる支援の提供</li> <li>・非日常的な支援(バーチャル体験での夢の実現等)の提供</li> </ul>
災害避難時の居場所がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉避難所の活用</li> <li>・職員と利用者の日ごろからの災害意識の共有</li> </ul>
コミュニケーション不足により、情報を得られる体制が整えられていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内でのコミュニティの形成</li> <li>・地域との交流</li> <li>・障害福祉サービス間での情報共有</li> </ul>

⑤ 主に精神障害者が入居する共同生活援助(グループホーム)事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
人間関係の固定化	グループホーム内でのイベントの増加
施設退所後の不安	退所後も切れ目ない支援を続ける
災害時の薬関係の不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤師との連携</li> <li>・ 災害カードの作成</li> </ul>

⑥ 障害児が利用する放課後等デイサービス事業所のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
バス停から施設までの距離が遠くて不便	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バス停から施設までのシャトルバスをだす</li> <li>・ 誰か1人バス停から施設まで迎えに行く職員をつける</li> </ul>
災害時の防災意識が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に被災時のシュミレーションをする機会を設ける</li> <li>・ 防災マップを自分たちで作る機会を設ける</li> <li>・ 起震車など災害を体験できる機会を設ける</li> </ul>
人との交流が家族や施設内の友人に限定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校で障害についての啓発活動</li> <li>・ 施設と学校の連携をより強いものとする</li> </ul>

⑦ 主に知的障害者が利用する都外入所施設のインタビュー調査結果

現状・課題	質的調査を行った学生による提言
文京区への思いに関するアセスメントの必要性	施設周辺の相談支援事業所や入所施設のサービス管理責任者、支援者では、難しいアセスメントになるため、文京区行政が支援チームの中に入り、意思決定支援に主体的に関わっていく必要がある
文京区への地域移行の意向を把握する必要性	地域移行の社会資源である、グループホーム等の居住の確保が求められる
一時的な里帰りの体験の必要性	文京区内で生活体験を行うことができる資源をつくる必要がある。



## 文京区障害者(児)実態・意向調査報告書 概要版

令和8年3月

印刷物番号:E0325060

編集・発行 文京区 福祉部障害福祉課

〒112-8555 東京都文京区春日1-16-21

電話 03-3812-7111 (代表)

調 査 株式会社アイアールエス